







津南町民の日常生活のお困りごとに関する調査 結果報告書

令和元年12月



目次

 はじめに	P 1
 調査の概要	P 2
 調査結果 第Ⅰ部	P 3
1 調査結果の概要	P 3
2 単純集計の結果	P10
3 クロス集計の結果	P23
 調査結果 第Ⅱ部	P47
1 調査結果の概要	P47
2 クロス集計の結果	P53
 調査票	P78
 新たな社会課題の解決に向けた具体的取組の研究・協議に関するワーキングチーム 構成メンバー	P82

はじめに

近年、少子高齢化や核家族化の急速な進行、若者の都市部流出等を背景に家族や地域の支え合い機能の低下が懸念されている。これを踏まえ、津南町にお住まいの全世帯を対象に、日常生活のお困りごとなどについてお伺いし、社会的孤立などの要因等を把握することで今後の福祉施策の参考とさせていただくため、「津南町民の日常生活のお困りごとに関する調査」（2018年12月）を実施した。調査実施にあたっては、住民への配慮の観点から質問項目には「社会的孤立」や「支援」という言葉は使わず、できるだけ平易な言葉を使用し、記入者が回答しやすいものとした。

本調査では、津南町民のお困りごとや今日の社会的な課題である地域住民の社会的孤立について、世帯、年齢、性別ごとの現状や課題等に関する実態を把握・分析し、今後の支援の方策を検討していく上で必要な基本データを得ることができた。特に、住民の社会的孤立については一人ひとりの様々な原因が影響していると思われるが、その背景には、健康問題や経済的困窮、人間関係の希薄化、介護などの問題が複合化している。また、今後各地域で早急な対応が求められる年金生活の80代の老親と働いていない50代の子の世帯問題、いわゆる8050（ハチマルゴーマル）問題にあたる世帯をはじめ、地域で孤立しやすく、排除されやすい人々は、自ら助けを求めることが困難な状況にあることが少なくないことを踏まえて、地域社会や人とのつながりを回復させていく取り組みが必要である。

「調査結果 第1部」では、住民の日常生活における不安要素、相談相手、近所付き合い、地域との関わり、社会的に孤立しやすい世帯構成員の有無や日常生活状況などに関する全体的な分析を行った。「調査結果 第2部」では、「調査結果 第1部」の内容や、2019年3月に内閣府が公表した「生活状況に関する調査報告書*」を踏まえ、津南町の住民のお困りごとにおいて、ひきこもり状態と思われる者がいる世帯に焦点をあて、若年層（15～39歳）及び中高年層（40～64歳）のひきこもり状態や現在の生活状況等について、年齢層やひきこもり状態の期間等によって異なる課題や今後の必要な支援の方向性等について明らかにした。

今回の調査結果によって明らかとなった住民の日常生活のお困りごとや不安などは、同じ地域で暮らしながら何らかの生活課題を抱えている本人やその家族の切実な「声」であり、今後、地域の中で当事者の課題解決につなげていく上で重要な示唆となるものである。また、もはやひきこもり問題は若い世代固有の問題ではなく、世代を超えて地域全体での対応が必要となる社会的課題であることを表している。

※ひきこもり状態の中高年層（40～64歳）が全国で推計61.3万人おり、期間は7年以上が約半数を占めているとの調査結果を公表した。

調査の概要

- 1 調査名
津南町民の日常生活のお困りごとに関する調査
- 2 調査目的
津南町にお住まいの方の日常生活における困りごとや社会的孤立の要因等について把握し、今後の福祉施策立案のための参考並びに基礎的データとする。
- 3 実施主体
社会福祉法人新潟県社会福祉協議会が設置する「新たな社会課題の解決に向けた具体的取組の研究・協議に関するワーキングチーム」
- 4 調査対象
津南町の全世帯（3,258世帯）
- 5 調査期間
平成30年12月20日～平成31年1月8日
- 6 調査基準日
平成30年12月1日
- 7 調査方法
質問紙法
 - (1) 調査票の配布方法
津南町役場において、町政事務嘱託員を通じて全世帯へ配付される定期配布物に併せて本調査にかかる①依頼文、②調査票、③回答用封筒を配布。
 - (2) 調査票の回収方法
各世帯から記入いただいた調査票は、調査票配布時に同封した本調査専用の回答用封筒に封入・封函してもらい、さらに健康診査申込書等を提出してもらうために津南町役場が用意する封筒へ健康診査申込書等とともに本調査専用の回答用封筒を封入・封函し、町政事務嘱託員を通じて津南町役場に提出。
- 8 調査票回収数
2,714部（回収率 83.3%）
- 9 有効回答数
2,592部（有効回答率 79.6%）
※ 白票、および項目の50%以上が無回答だった計122票については無効票として分析の対象から除外。
- 10 その他
本調査は、新潟県が新潟県社会福祉協議会へ委託して実施する「地域共生社会実現に向けた基盤構築推進支援事業」の一環として実施。

調査結果 第Ⅰ部

1 調査結果の概要

津南町民の皆さまから回答いただいた内容を質問項目ごとに単純集計した結果、並びに、日常生活のお困りごとを中心に、回答者の年齢や性別、世帯構成などの類型ごとに詳細に集計・分析した。

(1) 日常生活の困りごと、相談相手について

① 回答者の7割は60歳以上

回答者の性別は、男性 53.0%、女性 45.9%であった。また、回答者の7割が60歳以上。年齢は60歳代 31.4%、70歳代 21.8%、80歳代と90歳以上の合計が 17.4%であった。【図 1・2】

② 「夫婦のみ世帯」と「ひとり暮らし世帯」の合計が4割を超える

世帯構成別では、「夫婦のみ世帯」は 24.1%、「ひとり暮らし世帯」は 17.1%、「三世代家族」は 22.0%、「夫婦と子ども世帯」と「親と夫婦世帯」の合計は 23.2%であった。【図 3】

③ 日常生活における不安は、自分と家族の健康や病気の割合が高い（複数回答）

日常生活における不安は、「自分の健康や病気」 59.1%、「家族の健康や病気」 56.4%、「収入」 41.3%、「除雪」 31.6%であった。【図 4】

④ 日常生活の心配ごとに対する相談相手が「いない」のは5%程度

日常生活の心配ごと等に対する相談相手が「いる」方は 91.0%、「いない」方は 4.4%であった。【図 5】

⑤ 主な相談相手は、「配偶者」「子ども」の割合が高い（複数回答）

相談相手が「いる」方の相談相手としては、「配偶者」 54.9%、「子ども」 40.0%、「友人・知人」 31.8%であった。【図 6】

⑥ 近所付き合いのない方は2%程度

近所付き合いが「ある」方は 94.9%、「ない」方は 1.8%であった。近所付き合いが「ある」方の状況としては（複数回答）、「あいさつを交わす程度」が 49.1%、「困った時に気軽に相談できる人がいる」が 45.7%、「常に訪問し合う人がいる」が 29.7%であった。【図 7・8】

⑦ 地域活動に「参加したことがない」方は4%程度

地域活動への参加については、「参加している」と「過去に参加していたが今は参加していない」の合計が 90.6%であった。「参加したことがない」は 4.1%であった。【図 9】

⑧ **仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方が「いる」世帯は約 8%**

家庭の中で、仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方が「いる」世帯は 7.6%であった。その世帯のうち、世帯内に該当者が 2 人以上いるという世帯が無回答を除くと 10.6%であった。【図 10・11】

(2) 仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方について

⑨ **「未婚の子ども」が 2 割強、「親」が 2 割**

回答者との続柄は、「子ども（未婚）」23.7%、「親」20.2%、「配偶者」16.7%、「本人」15.7%であった。【図 12】

⑩ **「75 歳以上」が 4 割弱、「49 歳以下」が 2 割強**

該当者の年齢をみると、「75 歳以上」が 36.9%で、「65 歳から 74 歳」が 12.2%であった。その一方で 40 歳代は 9.6%、30 歳代は 7.6%、「29 歳以下」は 10.0%であった。該当者の性別は、男性 46.0%、女性 49.5%であった。【図 13・14】

⑪ **「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」が 5 割強**

該当者の家族や近所との交流の状況は、「家族ともほとんど会話がなない」が 10.4%、「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」が 54.9%であった。【図 15】

⑫ **「ほとんど外出しない」が 3 割**

該当者の外出の状況は、「ほとんど外出しない」が 32.1%、「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」が 41.3%であった。【図 16】

⑬ **現在の状況になってからの期間が「10 年以上」が 3 割**

該当者が現在の状況になってからの期間は、「10 年以上」30.8%で、「3 年～5 年未満」「5～7 年未満」「7 年～10 年未満」を合わせると 56.1%であった。【図 17】

⑭ **現在の状況になったきっかけは、「長期療養」「要介護状態」の割合が高い（複数回答）**

現在の状況になったきっかけは、「長期に療養を要する病気にかかった」28.2%、「事故や加齢などにより要介護状態になった」25.5%、「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」13.4%であった。【図 18】

⑮ **該当者の状況について「相談したことがない」が 4 割（無回答を除く）**

該当者の現在の状況に対して、誰にも「相談したことがない」という回答が無回答を除くと 37.8%であった。【図 19】

⑯ **相談先としては、公的機関などさまざま**

該当者の現在の状況について「相談したことがある」「過去に相談したことはあるが今はしていない」では、役場、社協、医療機関、友人、職場の人、民生委員、地域の人、ひきこもり親の会などさまざまであった。

⑰ 必要なこととしては「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」、「友達や仲間づくり」の割合が高い

該当者にとってこれから必要と思われるものとしては、「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」30.7%、「友達や仲間づくり」29.3%、「自立に向けたきっかけづくり」24.3%であった。その一方で「何も必要ない、今のままでよい」は22.9%であった。【図20】

(3) クロス集計の結果から

① 年齢があがると「ひとり暮らし世帯」「夫婦のみ世帯」の割合が高まる

世帯構成をみると、男性で比率が高いのは「夫婦のみ世帯」28.2%、女性は「ひとり暮らし世帯」20.6%、「三世代家族」23.8%であった。年齢別では、回答者が40歳代、50歳代では「夫婦と子ども世帯」「三世代家族」の比率が高いが、60歳代、70歳代、80歳代については、「夫婦のみ世帯」の割合が高まり、90歳代では「ひとり暮らし世帯」が59.2%であった。【図21・22】

② 日常生活の不安は、49歳以下では「収入」、50～69歳では「家族の健康や病気」、60歳以上では「自分の健康や病気」の割合が高い

日常生活の不安について、女性と比べて男性の方が割合が高いのは「収入」、反対に女性の方が割合が高いのは「自分の健康や病気」「除雪」「自然災害」であった。年齢別では、49歳以下では「収入」、50歳代、60歳代では「家族の健康や病気」、60歳代～90歳以上では「自分の健康や病気」割合が高い。それ以外の不安として、30歳代では「子育て」30.2%、80歳代では「除雪」40.7%、「買い物」20.5%、90歳以上では「買い物」32.9%であった。世帯構成別では、「ひとり暮らし世帯」、「ひとり親世帯」は「自分の健康や病気」が高く、それ以外の世帯では「家族の健康や病気」割合が高い。【図23・24・25】

③ 日常生活の心配ごと等に対する相談相手がないのは、男性が女性の3倍

日常生活の心配ごと等に対する相談相手が「いない」について、男女別では、男性6.2%、女性2.3%であった。年齢別では、40歳代7.3%、50歳代9.0%となり、他の年代より割合が高かった。世帯別では、「ひとり暮らし世帯」7.0%、「ひとり親世帯」7.2%、「本人と親世帯」11.3%であった。【図26・27・28】

④ 相談相手は、男性は「配偶者」、女性は「子ども」「配偶者」「友人・知人」

相談相手については、男性では「配偶者」64.2%、女性では「子ども」が51.0%と割合が高いが、「配偶者」「友人・知人」「兄弟姉妹」など様々な相手も高い割合を占めていた。年齢別でみると「職場の同僚・上司」は20～40歳代で他の年代に比べて高く、「役場の人」、「民生委員・児童委員」は、80歳代、90歳以上で割合が高い。世帯構成別では、「夫婦のみ世帯」「夫婦と子ども世帯」「親と夫婦世帯」「三世代家族」では、「配偶者」が60%から80%であった。「ひとり暮らし世帯」では、他と比べて「子ども」「兄弟姉妹」「友人・知人」「近所の人」「民生委員・児童委員」「役場の人」の割合が高かった。【図29・30・31】

⑤ 近所付き合いが「ない」は、20歳代、30歳代、90歳以上で高い傾向

近所付き合いが「ない」方については、性別による差はなかった。年齢別では、20歳代が13.3%、30歳代6.5%、90歳以上7.9%であった。世帯構成別では、「ひとり暮らし世帯」、「ひとり親世帯」、「親と兄弟姉妹世帯」で高い傾向がみられた。【図32・33・34】

⑥ 「常に訪問し合う人がある」のは、女性が男性より10ポイント以上高い

近所付き合いが「ある」方については、「常に訪問し合う人がある」が男性25.8%、女性34.0%であり、「あいさつを交わす程度」は男性51.5%、女性46.5%であった。年齢別では、59歳以下は「あいさつを交わす程度」が高く、70歳以上では「困ったときに気軽に相談できる人がある」が高い傾向であった。世帯構成別では、同様の傾向がみられた。【図35・36・37】

⑦ 地域活動に参加しているのは、男性の方が高い

地域活動に「参加している」は、男性が79.5%、女性が70.8%であった。年齢別では、地域活動に「参加したことがない」は20歳代で33.3%、30歳代で10.3%、「過去に参加していたが今は参加していない」は80歳代で34.0%、90歳以上で60.5%であった。世帯構成別では、「参加したことがない」が「ひとり暮らし世帯」7.7%、「ひとり親世帯」6.4%であり、「過去に参加していたが今は参加していない」についても「ひとり暮らし世帯」28.6%、「ひとり親世帯」22.4%で、他の世代と比べて高かった。【図38・39・40】

(4) 【クロス集計】 仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方

⑧ 回答者と交流のほとんどない方(該当者)の関係は、回答者が50歳代では「子ども(未婚)」と「親」がほぼ同じ割合、70歳代では「配偶者」と「子ども(未婚)」が同じ割合

該当者本人の年齢は、「65歳以上」が49.0%、「40～64歳」が30.3%、「15～39歳」が16.7%であった。回答者の年齢別に該当者の状況をみると、50歳代では「15～39歳」35.7%、「40～64歳」28.6%、「65歳以上」35.7%、60歳代では「15～39歳」17.7%、「40～64歳」30.6%、「65歳以上」51.6%、70歳代では「15～39歳」15.2%、「40～64歳」26.1%、「65歳以上」58.7%であった。さらに、その続柄をみると、回答者が50歳代では「子ども(未婚)」34.5%、「親」31.0%、60歳代では「子ども(未婚)」20.6%、「親」30.2%であった。70歳代では「配偶者」27.7%、「子ども(未婚)」27.7%であった。【図41・42・43】

⑨ 「15～39歳」では、「未婚の子ども」で親と同居の世帯が高い

該当者が「15～39歳」では、回答者との続柄が「子ども(未婚)」72.7%、「40～64歳」では「子ども(未婚)」36.7%、「本人」20.0%、「65歳以上」では「親」41.2%、「配偶者」27.8%、「本人」17.5%であった。該当者が「15～39歳」では、「三世代家族」51.5%、「夫婦と子ども世帯」30.3%、「40～64歳」では「夫婦のみ世帯」25.0%、「夫婦と子ども世帯」「ひとり暮らし世帯」「ひとり親世帯」15.0%であった。「65歳以上」では「夫婦のみ世帯」27.8%、「親と夫婦世帯」16.5%、「三世代家族」14.4%であった。該当者の性別は、「15～39歳」は男性63.6%、女性36.4%、「40～64歳」では男性53.3%、女性41.7%で、男性の方が割合が高か

った。「65歳以上」では男性 37.1%、女性 61.9%で、高齢者については女性の割合が高かった。【図 44・45・46】

⑩ 「15～39歳」では、SNS等を通じて人と交流しているが3割超

交流の状況をみると、「家族ともほとんど会話がなない」が「15～39歳」12.1%、「65歳以上」13.0%であった。「15～39歳」では、「人と会うことがほとんどないが、SNS、インターネット、メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」36.4%、「趣味のために人と会うことはある」18.2%であった。「40～64歳」「65歳以上」では、「近隣住民とは交流がある」が高い傾向であった。【図 47】

⑪ 「ほとんど外出しない」は、「15～39歳」では3割超

外出の状況をみると、「15～39歳」は「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」が48.5%、「ほとんど外出しない」36.4%、「普段は家にいるが、一人で趣味や遊ぶために外出することはある」36.4%であった。「40～64歳」では「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」56.4%、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」47.3%であった。「65歳以上」では「ほとんど外出しない」38.3%、「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」36.2%であった。【図 48】

⑫ 現在の状況になった期間が「7年以上」は、「40～64歳」で5割を超えて高い割合

現在の状況になった期間については、「15～39歳」で「3年未満」が42.4%、「40～64歳」で「7年以上」が55.0%であった。【図 49】

⑬ きっかけは、「15～39歳」では「学校（部活動含む）に馴染めなかった」、「40～64歳」では「長期に療養を要する病気にかかった」、「65歳以上」では「事故や加齢などにより要介護状態になった」

現在の状態に至ったきっかけをみると、「15～39歳」では「学校（部活動含む）に馴染めなかった」「職場に馴染めなかった」「就職活動がうまくいかなかった」「長期に療養を要する病気にかかった」「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」の順に割合が高かった。「40～64歳」では、「長期に療養を要する病気にかかった」「職場に馴染めなかった」「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」の順に割合が高かった。「65歳以上」では、「事故や加齢などにより要介護状態になった」が半数を占め、次いで「長期に療養を要する病気にかかった」であった。【図 50】

⑭ 「15～39歳」の方が相談をしている

該当者の状態についての相談の経験については、「15～39歳」で相談したことが「ある」が51.5%と、他の年代と比べて2倍程度高かった。年齢を問わず「相談したことがない」は2～3割を占めていた。【図 51】

⑮ これから必要なものは、「15～39歳」では「就労に向けた準備」「自立に向けたきっかけづくり」、「40～64歳」では「仲間づくり」「専門機関」

該当者にとって「これから必要なもの」をみると、「15～39歳」では「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」「自立に向けたきっかけづくり」「友達や仲間づくり」「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」の順に割合が高かった。「40～64歳」では、「友達や仲間づくり」「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」「自立に向けたきっかけづくり」の順に割合が高かった。「65歳以上」では、「何も必要ない、今のままで良い」「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」の順に割合が高かった。若年層ほど、必要なものとして挙げている項目が多く、年齢があがることによって、必要なものが少なく、「何も必要ない、今のままで良い」が高かった。【図 52】

(5) 調査結果から見えてきたもの

① 回答者の年齢があがると、「ひとり暮らし世帯」「夫婦のみ世帯」が高まる

回答者の年齢は、60歳以上が7割を占めている。世帯構成をみると、回答者の年齢があがると「ひとり暮らし世帯」「夫婦のみ世帯」の割合が高まり、「三世代家族」の割合が低くなる。

② 日常生活の不安は、若年層（15～39歳）では「収入」、中高年層（40～64歳）では「自分の健康や病気」「家族の健康や病気」、「除雪」は年齢を問わない

日常生活については、自分自身もしくは家族の健康や病気への不安が大きかった。「除雪」については年齢を問わず3割から4割が挙げている。「買い物」は、80歳以上で割合が高かった。

③ 相談相手は、若年層「親」、中高年層「配偶者」、高年層（65歳以上）「子ども」

相談相手については「配偶者」「子ども」「兄弟姉妹」など親族関係の割合が高かったが、「ひとり暮らし世帯」「ひとり親世帯」については、役場や民生委員など公的な機関の割合が高かった。

④ 若年層、世帯員数の少ない世帯、男性では近所付き合いが少ないが、地域活動に参加しているのは男性の方が高い割合

近所付き合いについては、ほとんどの方が付き合いがあり、また、地域活動にも参加していた。しかし、若年層、ひとり暮らし世帯、ひとり親世帯などで、付き合いの少なさ、地域活動にあまり参加していない状況もみられた。男性は、地域活動にはほとんどの人が参加しているが、「常に訪問し合う」ような付き合いは女性より少なかった。

[交流のない方について]

⑤ 老老介護、老親による未婚の子どもへの支援がみられる

回答者が70歳代で「交流のほとんどない方」の続柄は、「配偶者」、「子ども（未婚）」がそれぞれ3割であった。80歳代で「配偶者」3割弱、「子ども（未婚）」2割強であった。

⑥ 若年層は「家族ともほとんど会話がな」「家族以外の人とは交流がない」が高い

若年層では、「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」、「人と会うことがほとんどないが、SNS、インターネット、メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」、中高年層では「近隣住民とは交流がある」が高かった。

⑦ 「ほとんど外出しない」は若年層と高年層でほぼ同じであるが、若年層では「家族と一緒に外出」が約5割で、家族と一緒にであれば外出している割合は高い

若年層は「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」5割弱、「ほとんど外出しない」が4割弱、中高年層は「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」6割弱、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」5割弱、高年層は「ほとんど外出しない」4割弱、「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」4割弱であった。

⑧ 現在の状況に至ったきっかけは、若年層では学校・仕事関係、中高年層では仕事関係、高年層では要介護状態

その方が現在の状況に至ったきっかけについて、若年層では「学校（部活動含む）に馴染めなかった」、「学生時代にいじめにあった」、「職場に馴染めなかった」、「就職活動がうまくいかなかった」、「長期に療養を要する病気にかかった」が高く、中高年層では「長期に療養を要する病気にかかった」、「職場に馴染めなかった」、「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」、高年層では「事故や加齢などにより要介護状態になった」、「長期に療養を要する病気にかかった」が高かった。

⑨ これから必要と思われることとして、若年層では、「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」「自立に向けたきかけづくり」が高い

「これから必要と思われること」について、若年層では「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」、「自立に向けたきかけづくり」、中高年層は「友達や仲間づくり」、「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」、高年層では「何も必要ない、今のままで良い」が高かった。その方の年齢によって、必要としていることが異なっている。

高齢化、世帯員数の縮小化のなかで、全世帯的に要介護への支援が不可欠になっていることにあわせて、近所付き合いや地域活動などつながりの希薄化を背景とした社会的孤立のひろがりもみられた。このような状況において、家族以外のサポート役として、公的機関や専門機関には大きな期待が寄せられている。

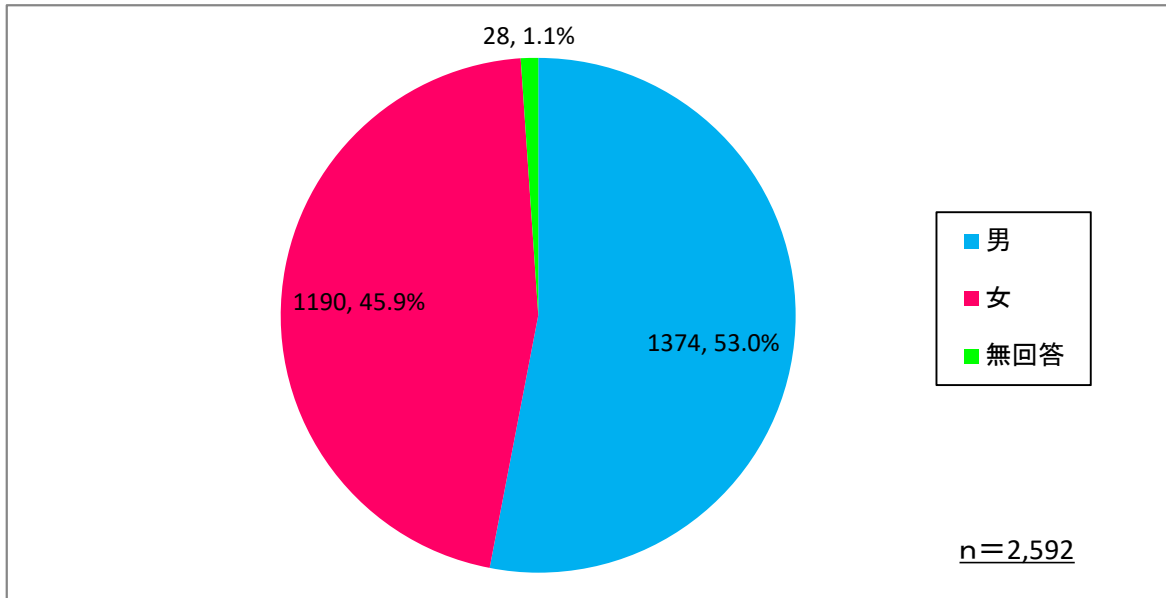
その一方で、80歳代、90歳以上でひとり暮らしが多くなっていることは、ひとりで高齢であっても地域で暮らせる環境があることの現れと言えよう。年齢が上がると地域活動への参加が少なくなっているが、それまでの地域とのかかわりのなかで暮らせている。除雪については世代を問わず不安に思っているが、「買い物」は高年層で特に割合が高くなっていた。

2 単純集計の結果

★問1～問8はすべての方がお答えください。(世帯のうち1名の方が代表してご記入ください。)

問1 あなたの性別を教えてください。(○は一つだけ)

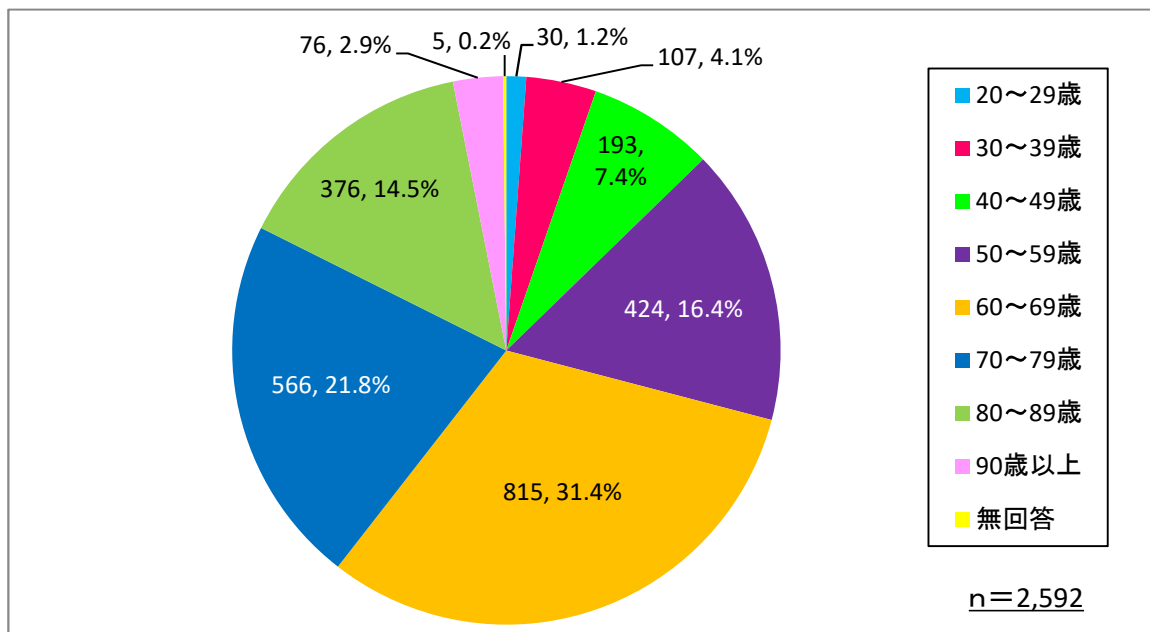
●男性1,374人(53.0%)、女性1,190人(45.9%)であった。



【図1】回答者の性別

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。(○は一つだけ)

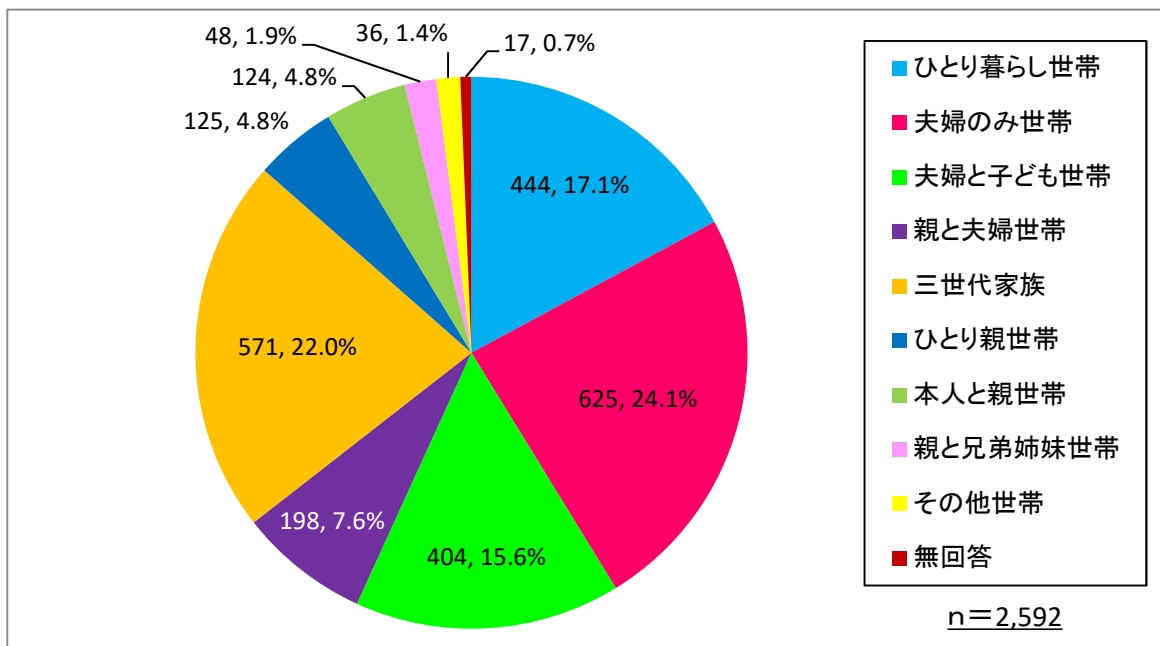
●一番多かったのは「60～69歳」(815人、31.4%)、次いで「70～79歳」(566人、21.8%)、「50～59歳」(424人、16.4%)であった。



【図2】回答者の年齢

問3 あなたは現在どなたと住んでおられますか。(〇はいくつでも)

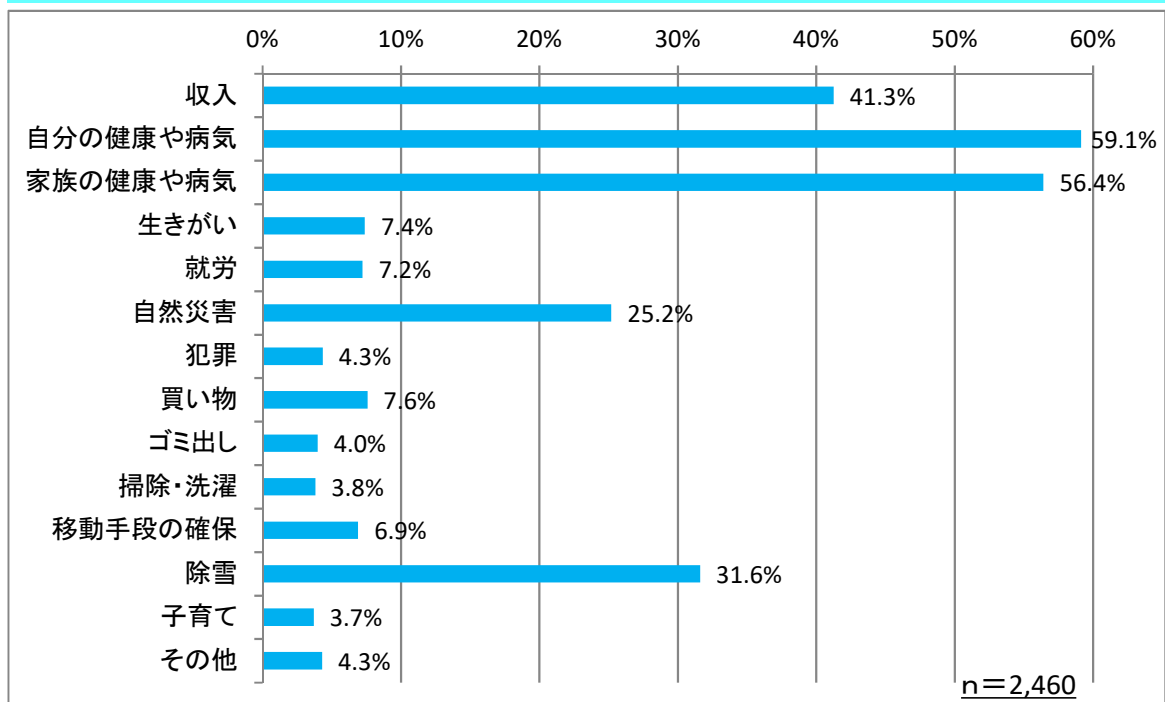
●世帯構成として一番多かったのは「夫婦のみ世帯」(625世帯、24.1%)、次いで「三世代家族」(571世帯、22.0%)、「ひとり暮らし世帯」(444世帯、17.1%)であった。



【図3】世帯構成

問4 あなたが日常生活において不安に思っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

●一番多かったのは「自分の健康・病気」(1,455人、59.1%)、次いで「家族の健康・病気」(1,388人、56.4%)、「収入」(1,015人、41.3%)であった。

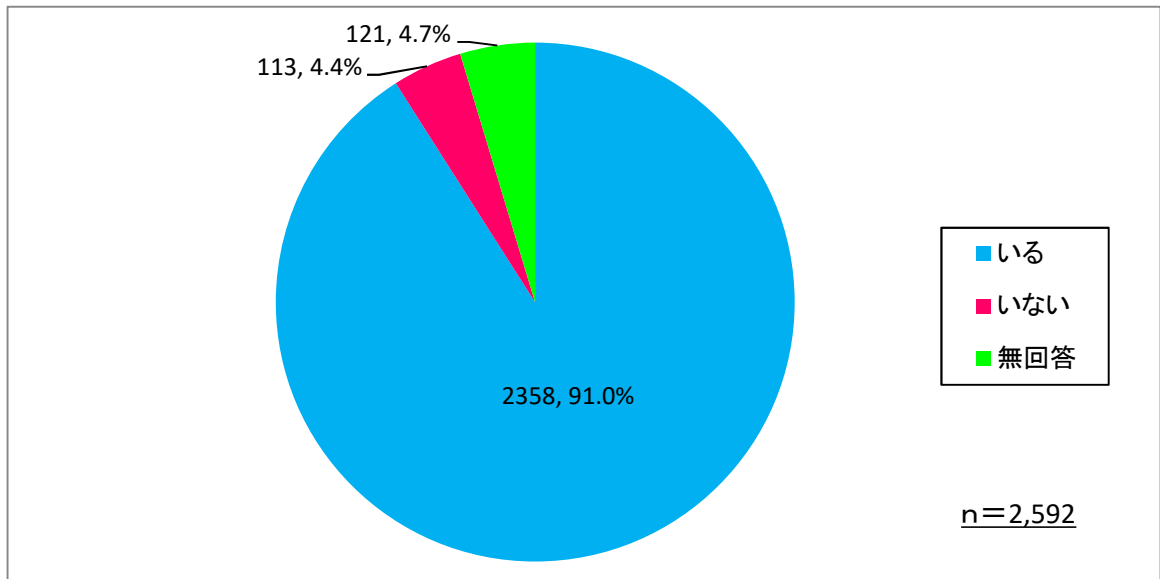


【図4】日常生活上の不安

問5 あなたは日常生活の心配ごとや悩みごとの相談を誰にしますか。(〇はいくつでも)

(1)相談相手の有無

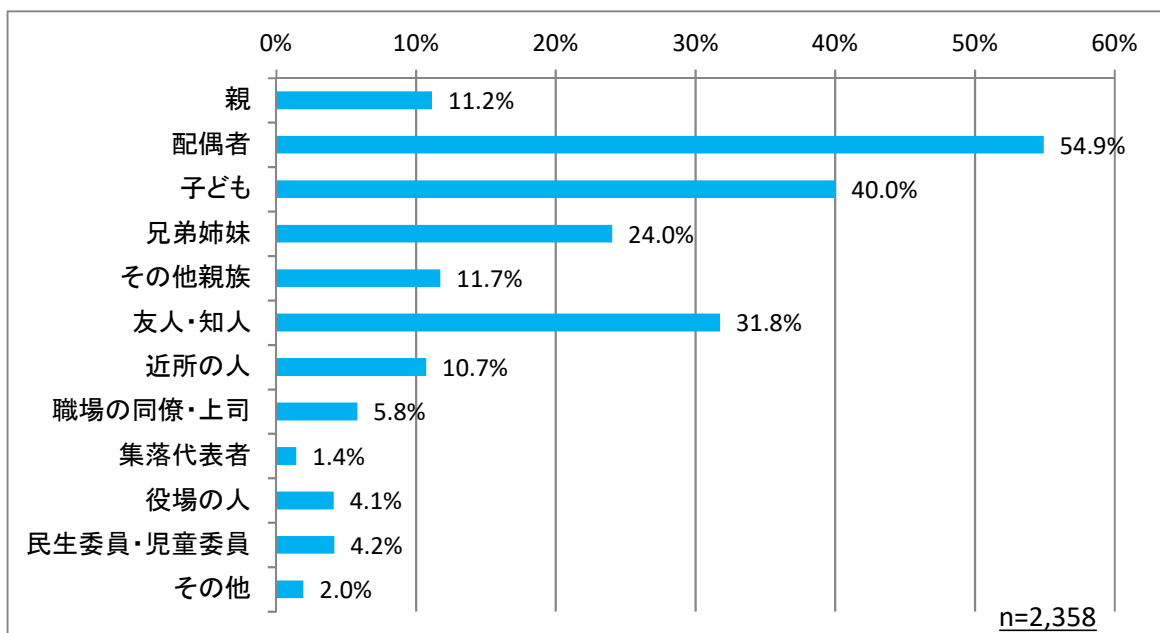
●日常生活の心配ごと、悩みごとを相談できる相手が「いる」人が2,358人(91.0%)、「いない」人が113人(4.4%)であった。



【図5】日常生活における心配ごと等の相談相手の有無

(2)相談相手が「いる」場合の相談相手

●一番多かったのが「配偶者」(1,295人、54.9%)、次いで「子ども」(944人、40.0%)、「友人・知人」(749人、31.8%)であった。

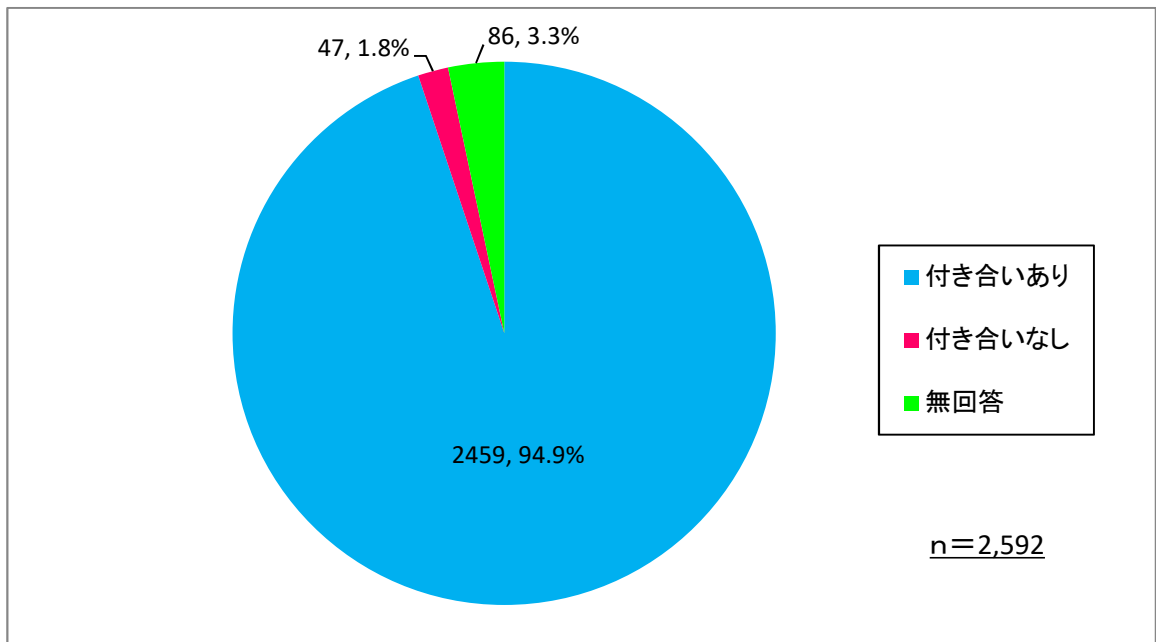


【図6】日常生活における心配ごと等の相談相手

問6 あなたの近所の方との付き合いの状況についてお聞きます。(〇はいくつでも)

(1)近所付き合いの有無

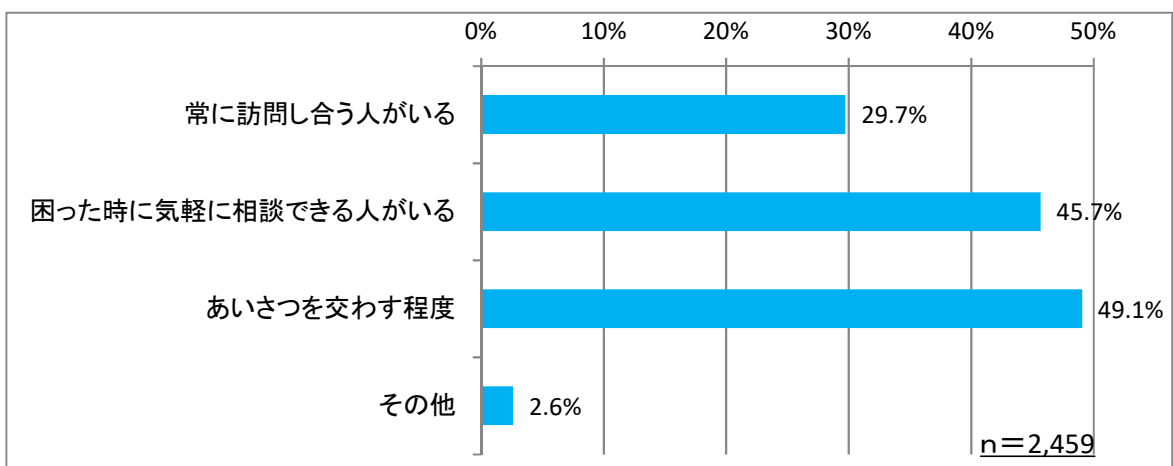
●近所付き合いの「ある」人が2,459人(94.9%)、「ない」人が47人(1.8%)であった。



【図7】近所付き合いの有無

(2)近所付き合い「あり」の場合の状況

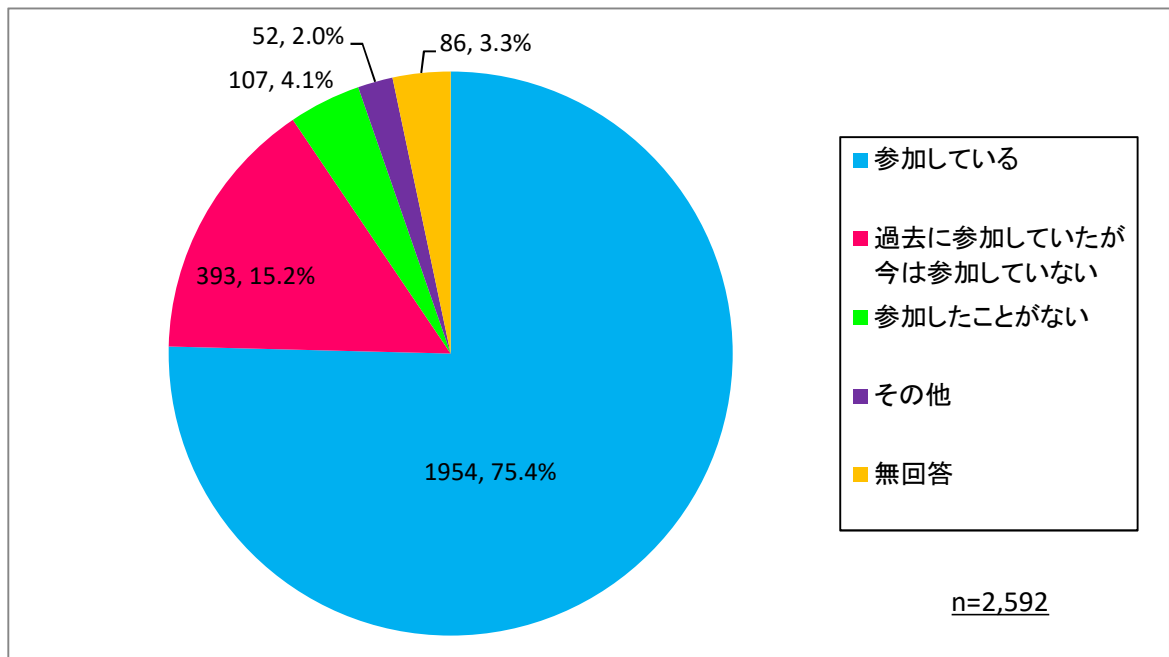
●一番多かったのが「あいさつを交わす程度」(1,207人、49.1%)、次いで「困った時に気軽に相談できる人がいる」(1,123人、45.7%)、「常に訪問し合う人がいる」(731人、29.7%)であった。



【図8】近所付き合いの状況

問7 あなたはお住まいの地域で行っている地域活動(地域の祭りや町内の清掃活動など)に参加していますか。(〇は一つだけ)

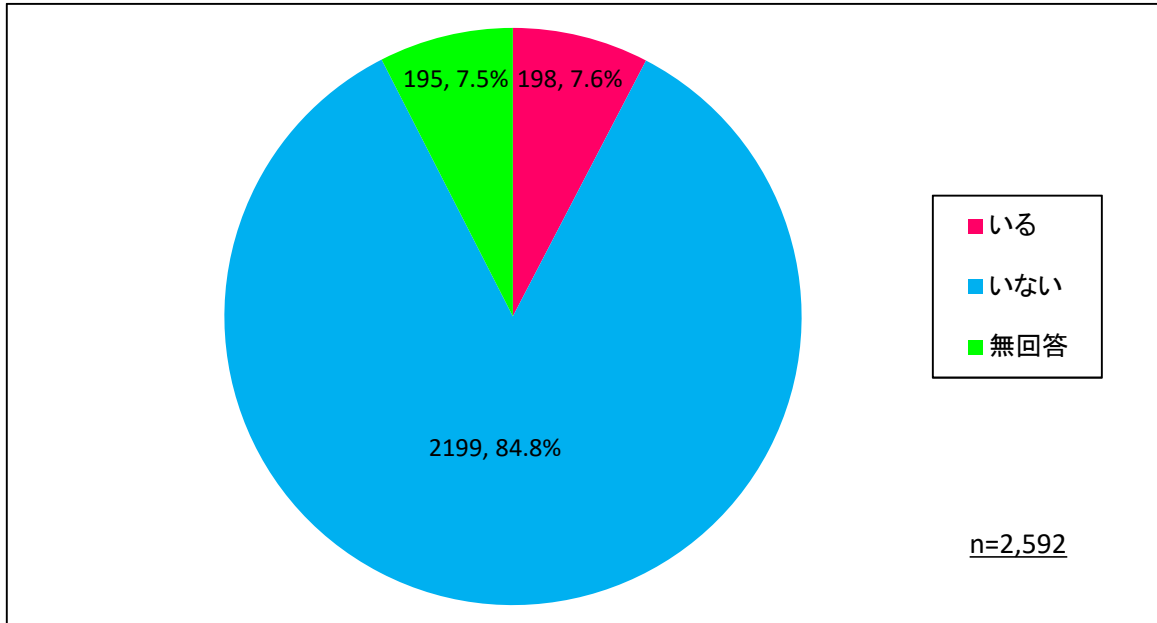
●「参加している」人は1,954人(75.4%)、「過去に参加していたが今は参加していない」人が393人(15.2%)、「参加したことがない」人が107人(4.1%)であった。



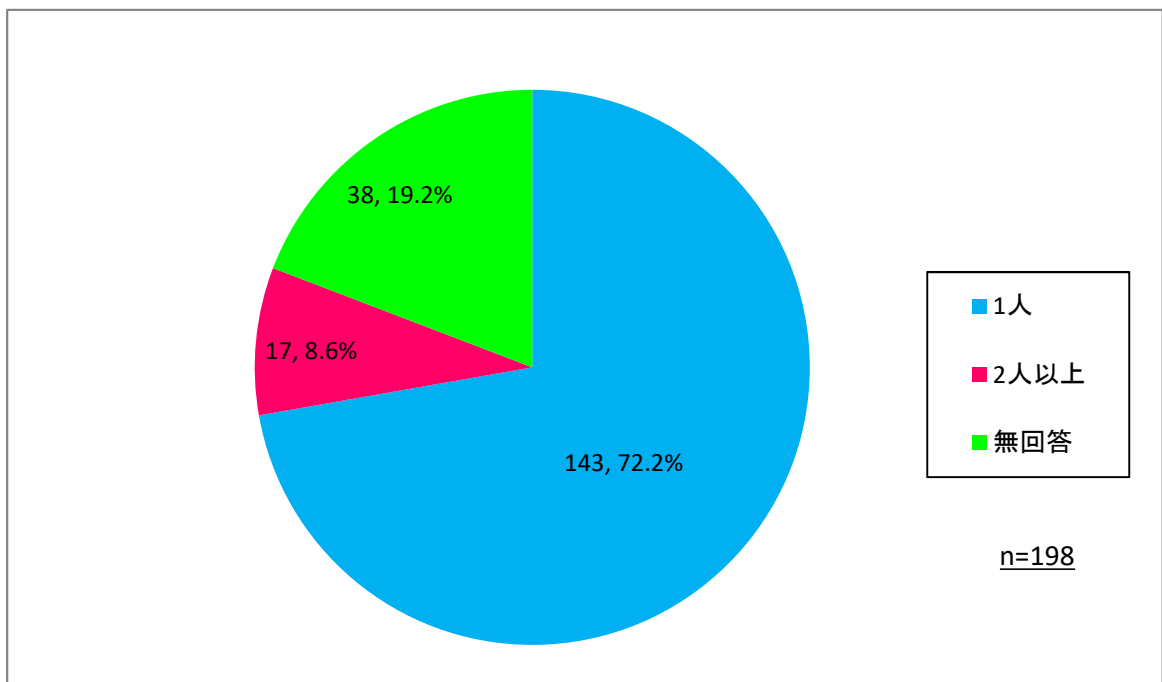
【図9】地域活動への参加状況

問8 あなたのご家庭の中に(回答者自身を含めて)、仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方はいらっしゃいますか。(〇は一つだけ)
 いらっしゃる場合はその人数もご記入ください。

●該当者が世帯内に「いる」と回答した方は198人(7.6%)であった。
 ●なお、世帯内に該当者が「1人」と回答した方が143人(72.2%)、「2人以上」と回答した方が17人(8.6%)であった。



【図10】仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方の有無

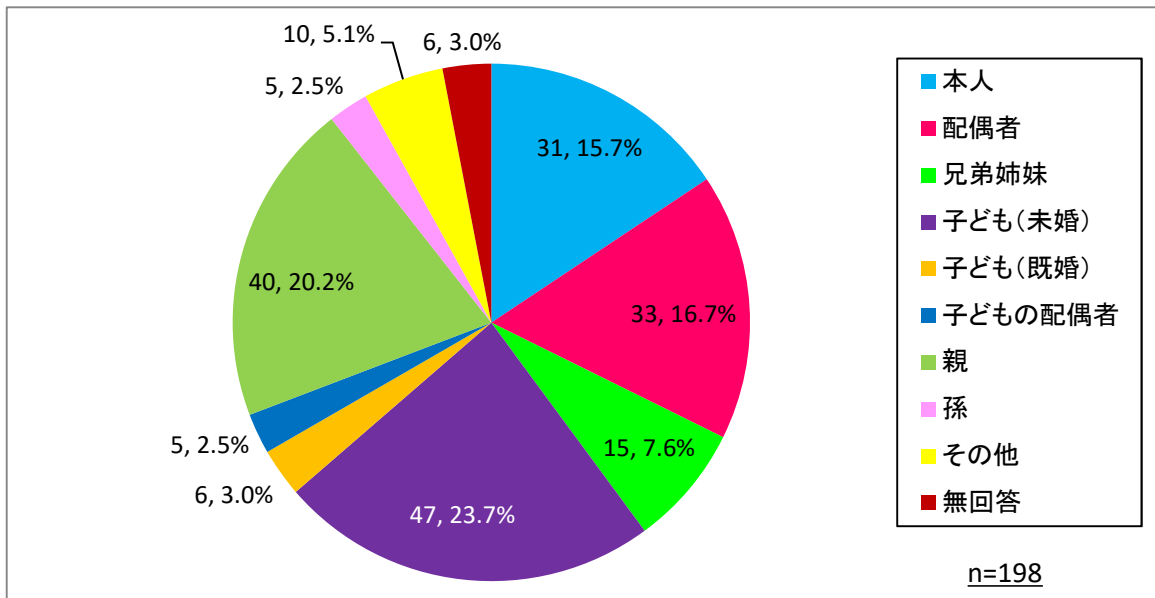


【図11】該当者の世帯内人数

★以下の問9～問17の設問は、上記問8で「いる」と回答した198人(世帯)が対象。

問9 あなたとの続柄をお答えください。(○は一つだけ)

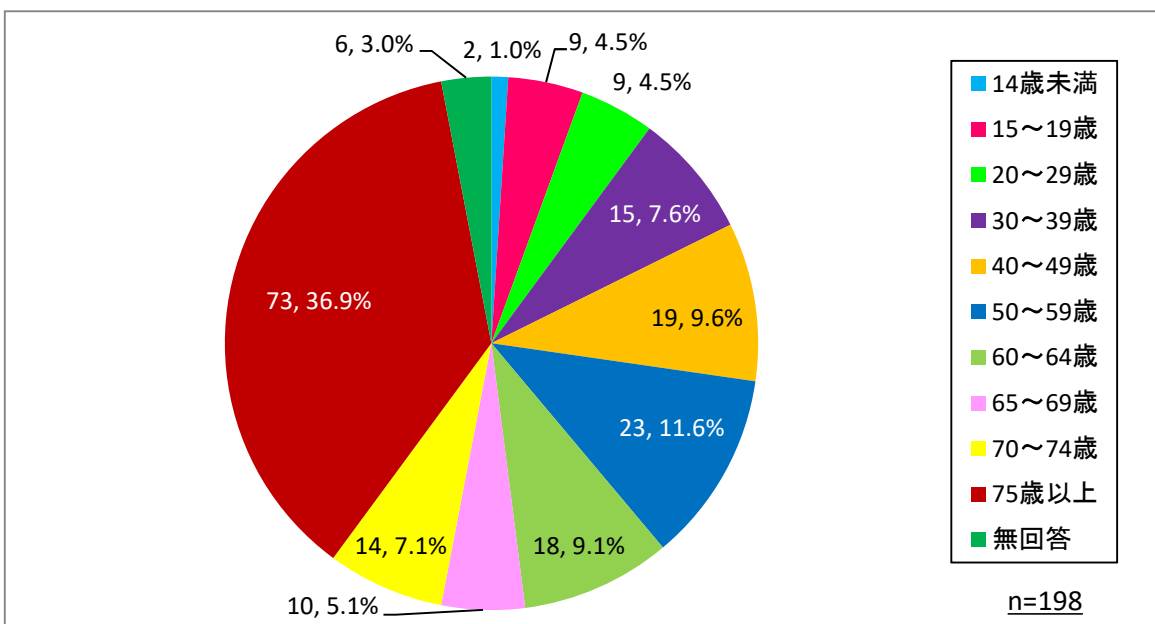
●一番多いのは「子ども(未婚)」(47人、23.7%)、次いで「親」(40人、20.2%)、「配偶者」(33人、16.7%)であった。



【図12】該当者と回答者との続柄

問10 その方の年齢をお答えください。(○は一つだけ)

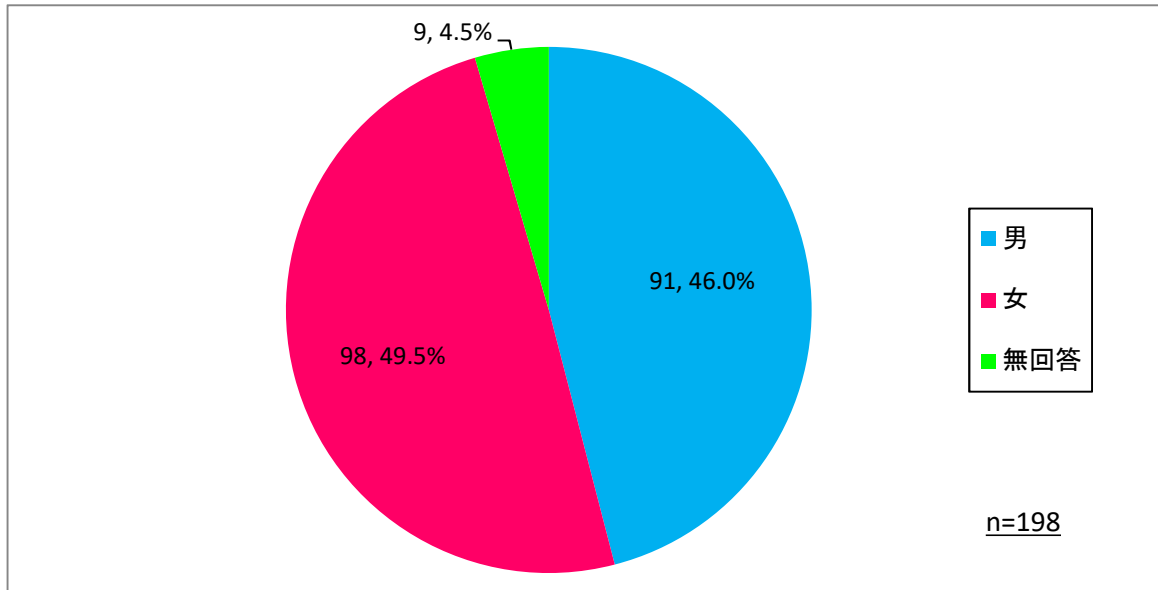
●一番多いのは「75歳以上」(73人、36.9%)、次いで「50～59歳」(23人、11.6%)、「40～49歳」(19人、9.6%)であった。



【図13】該当者の年齢

問11 その方の性別をお答えください。(○は一つだけ)

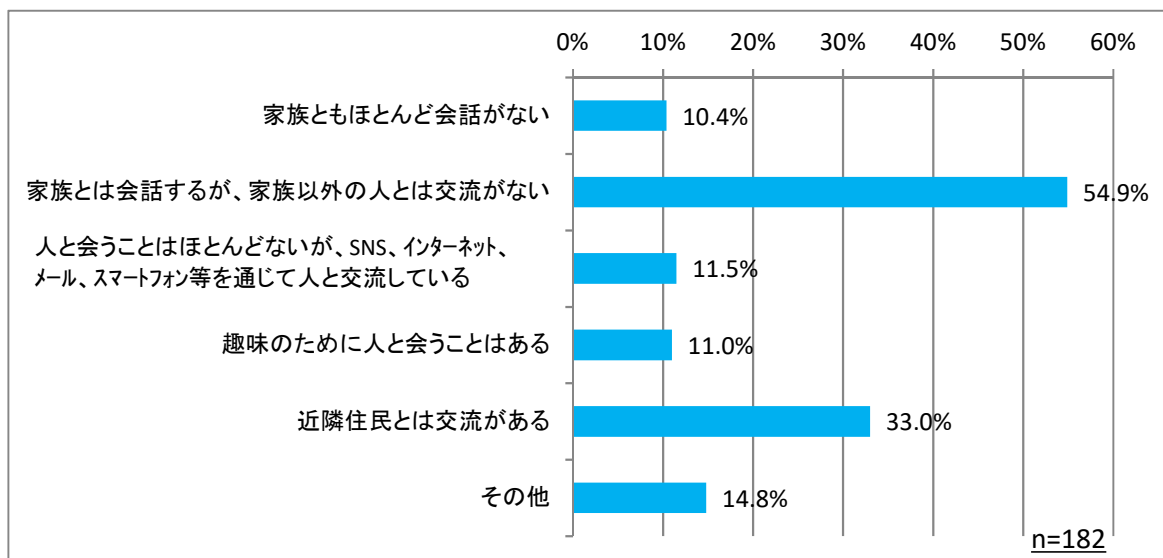
●男性91人(46.0%)、女性98人(49.5%)であった。



【図14】該当者の性別

問12 その方の交流の状況について、お答えください。(○はいくつでも)

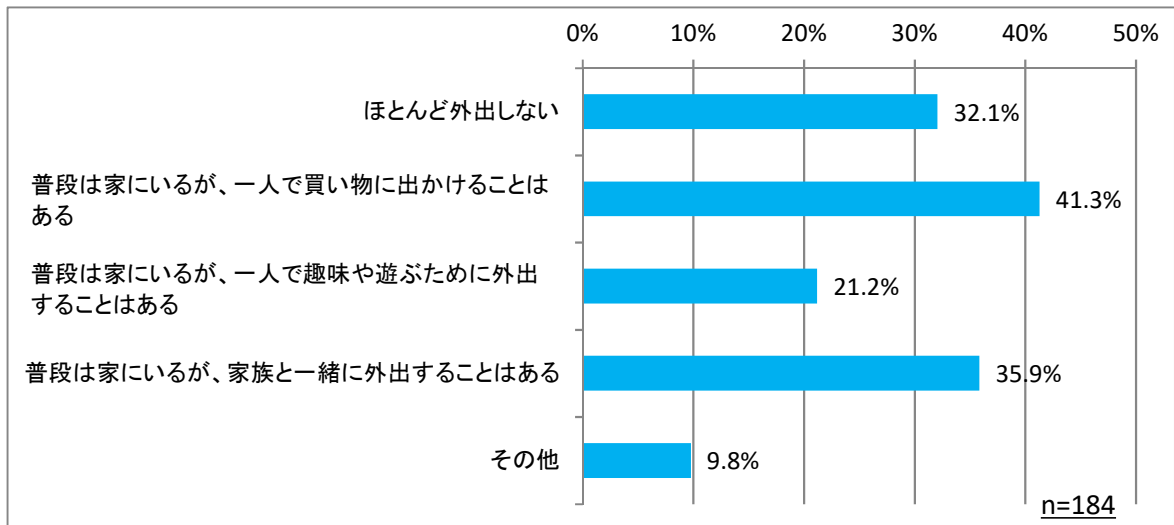
●一番多かったのは「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」(100人、54.9%)、次いで「近隣住民とは交流がある」(60人、33.0%)、「その他」(27人、14.8%)であった。



【図15】該当者の交流状況

問13 その方の外出の状況について、お答えください。(〇はいくつでも)

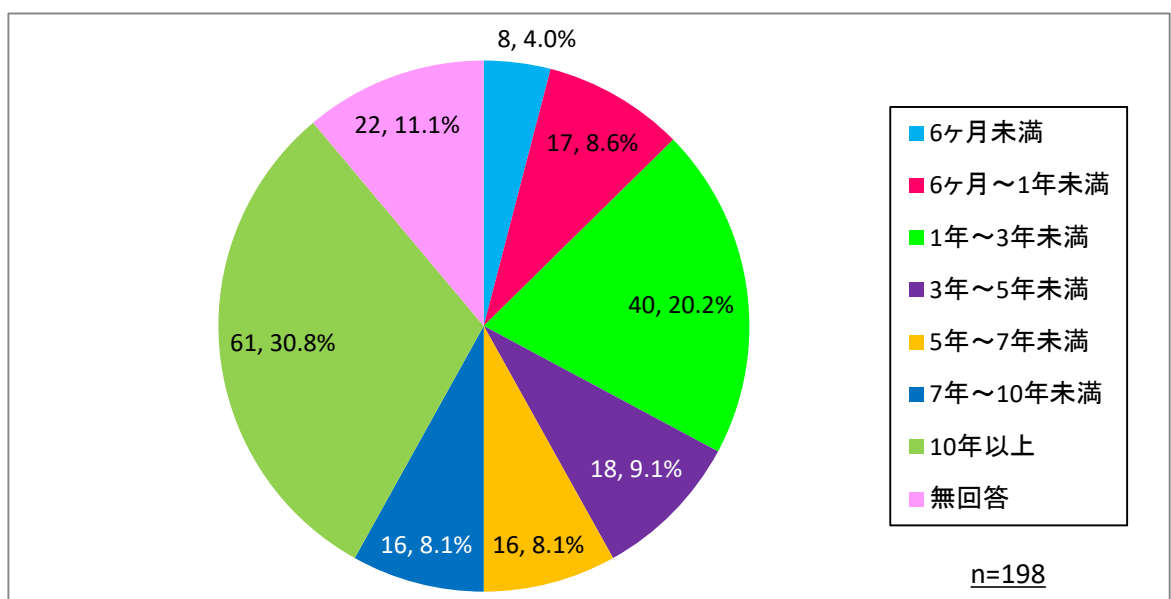
●一番多かったのは「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」(76人、41.3%)、次いで「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」(66人、35.9%)、「ほとんど外出しない」(59人、32.1%)であった。



【図16】該当者の外出状況

問14 その方が現在の状況になって、どのくらい経ちますか。(〇は一つだけ)

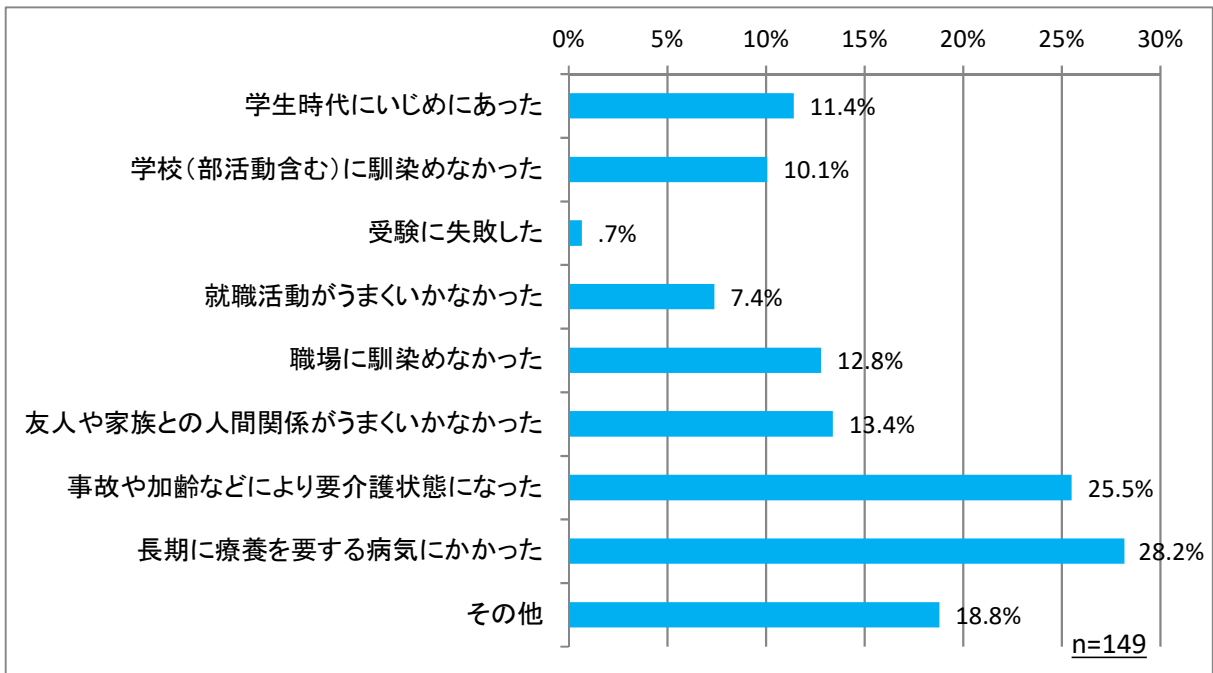
●一番多かったのは「10年以上」(61人、30.8%)、次いで「1年～3年未満」(40人、20.2%)、「3年～5年未満」(18人、9.1%)であった。



【図17】現在の状況になってからの期間

問15 その方が現在の状態に至ったきっかけについてお答えください。(○はいくつでも)

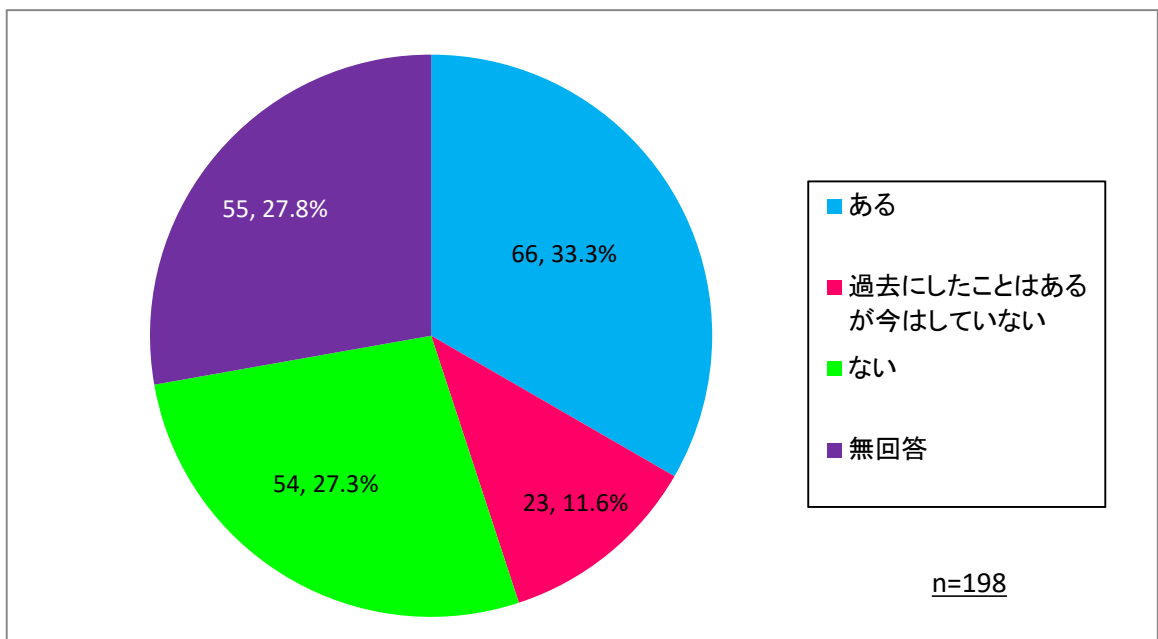
●一番多かったのは「長期に療養を要する病気にかかった」(42人、28.2%)、次いで「事故や加齢などにより要介護状態になった」(38人、25.5%)であった。



【図18】現在の状態に至ったきっかけ

問16 その方の現在の状態について、どなたかに相談したことはありますか。(○は一つだけ)

●相談したことが「ある」と回答した人が66人(33.3%)、「過去にしたことはあるが今はしていない」と回答した人が23人(11.6%)、「相談したことがない」と回答した人が54人(27.3%)であった。



【図19】現在の状態についての相談経験の有無

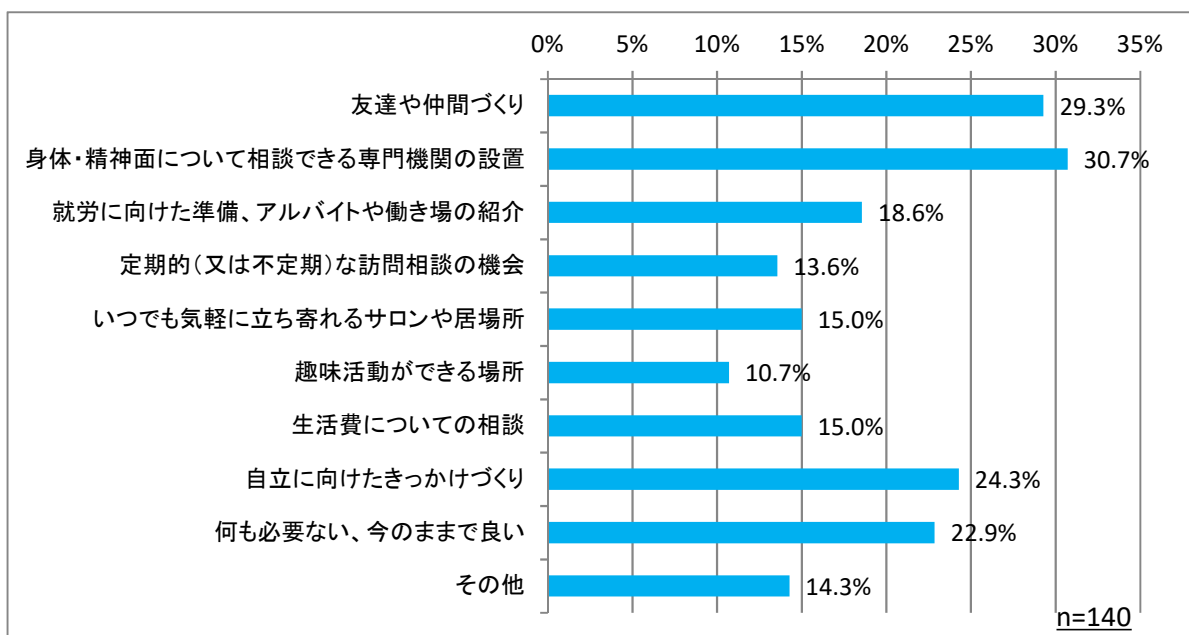
★以下の問16-1は、上記問16で「ある」又は「過去にしたことはあるが今はしていない」と回答した89人が対象。

問16-1 相談した相手や、相談して感じたことをご自由にお書きください。

【相談した相手(一部抜粋)】		
●役場	●社協	●医療機関
●家族、親族	●友人、職場の人	●民生委員、地域の人
●介護関係施設	●教育機関	●ひきこもり親の会
●NPO	●ハローワーク	●カウンセラー
【相談して感じたこと(一部抜粋)】		
●以前よりも生活することが楽しくなった。相談してよかった。		
●重症な人にはあまり適切な支援がない。		
●本人が外出、社交を楽しいと感じないので、今のままで良しと考えています。		
●元気づけられる。		
●専門の相談員を置いてほしい。		
●障害者、精神障害者と相談できる専門機関の設置。個人情報の保護には万全を期していただきたい。		
●親切に対応してくれました。		
●最終的には、本人の気持ち次第。		
●理解してくれる人ができたことで安心できた。		
●気軽に話せる雰囲気してほしい。		

問17 その方にとって、これから必要と思われることはありますか。(○はいくつでも)

●一番多かったのは「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」(43人、30.7%)、次いで「友達や仲間づくり」(41人、29.3%)、「自立に向けたきっかけづくり」(34人、24.3%)であった。



【図20】該当者にとって今後必要と思われること

問18 あなた及びご家族が今の暮らしで感じているお困りごとについて、ご自由にお書きください。

【一部抜粋】

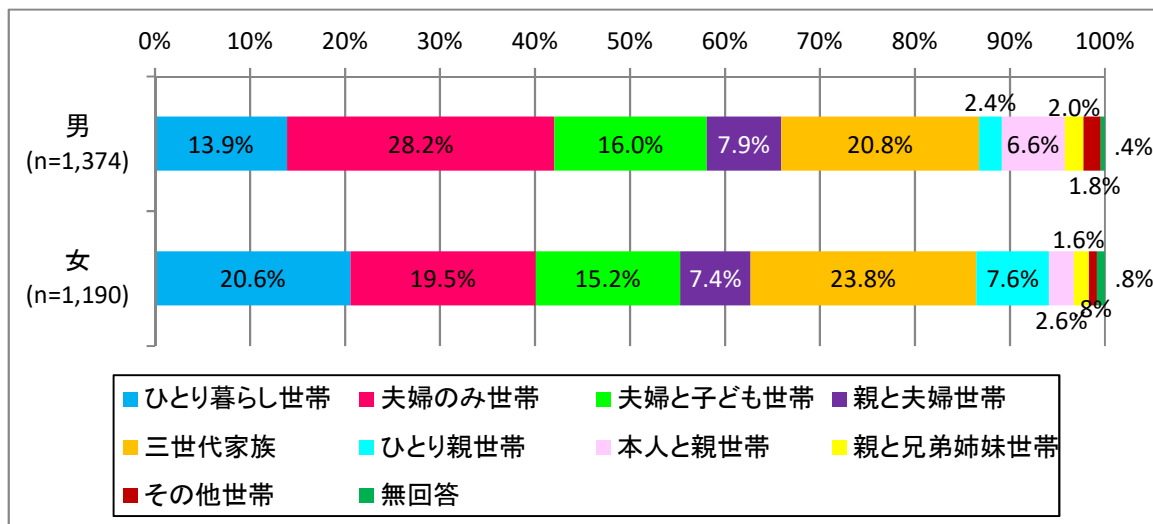
▶ 若者が少なくなっている実感があり、不安を感じている。
▶ 近所の方との交流をもっと深めたいがアパート暮らしでは交流の機会が作れず悲しいです。
▶ 年寄りがいなくなり家族が日中留守になるため鍵をかけないと安心できない状況となり地域との交流は減ると思う。高齢者世帯が多くなり地域での作業参加人数が減り負担が増してきている。
▶ 一人暮らしで老年のためどんな事があるかわからないから、近所の人と仲良くと考えている。近所の人困った事がある時は相談して下さいと云っているが、どの程度の事を云って良いかわからない。
▶ 家族が高齢であり日中など1人で生活する時間があり、転倒などの不安がある。また他の人とのつきあいも少なくなり、(特に冬期間)笑顔が少なくなっているのも心配です。
▶ 日中、祖母が一人で家に居る。緊急時の連絡がうまくとれるか心配。目も耳も悪いから。
▶ 年々集落の人数が減っていき、地域の活動が困難になっていると感じています。
▶ 両親の老後や実家や墓を今後どうするか。少子高齢化で町に魅力がなくなっている。若い人達にとって住みやすい町にしてほしい。
▶ 使用していない畑が広く管理(草取り等)が大変です。自分も高齢になり今後どうしたら良いか悩んでいます。
▶ 田や畑がいっぱいありすぎて耕作するのが大変だが売りたいも買う人がなく税金が大変で困っている。
▶ 畑のまわりの木の手入れ、家のまわりの修繕の具合、庭の木の手入れ、業者に頼めば済むことですが、高齢者にとっては出費も負担になる。
▶ 実家が空き家。
▶ 母子家庭で収入が少ないが、手当は中学までしかなく1番かかる高校などもう少し手当を増やしてほしいと思います。
▶ 今の仕事場がなくならないか(倒産とか)心配。津南は働く場所が少ない。
▶ 若い人の就職先が少ない。若い人が住みつかない。
▶ 働く職場がなくて、困っている。働くにも、車の免許がないので限られる。
▶ 子どもが独身であること。
▶ 少子高齢化の進む中、二人の子供がいまだ独身で居る事が一番の困り事である。若い広場(交流の場)多く設けてほしい。
▶ 結婚してと望んでいる。要するに独身者が多い事。
▶ 買い物をしたいとき、町外に出ないとそろわないものもあるので、不便を感じる。子供が病気、けがをした際の救急診療の病院の選択に困る。町外へ行くことが多い。
▶ 町内の商店が廃業し、十日町等町外に行かないと買い物ができない。
▶ 運転免許がなくなり、外出などの移動が大変になっている(老人)。
▶ 公共交通手段が格段に不便になり、思うように外出できなくなったこと。会やイベントにますます距離感が出ていること。
▶ いずれ免許(車)がなくなったときの交流範囲行動範囲の不安。
▶ 買い物に行くのにバスがなく、困っております。もう少しバスが通るといいと思うのですが病院とか買い物に困っております。何とかしてください。お願い致します。
▶ 妻の認知症の進行が心配です。
▶ 親の認知症(被害妄想)の対応が難しい時がある。
▶ 親の介護と子育てが同時に押し寄せそうです。お金がどれほどかかるのか、子供に諦めさせるのか、収入が増えるわけでもなく、考えるだけで不安になります。
▶ 親の介護。
▶ ケアマネ、看護師さんが相談にのってくださってありがたいと思っておりますが介護者である自分の健康状態が時に不安になり、自分が健康でいなければと思って過ごしております。もし、介護者がダウンしたときの体制を今から作っておかなければと思います。自分だけでなく介護者のフォローをする体制を考えてください。(精神面含む)
▶ 義母の介護があり仕事も外出もできずストレスを感じることが多い。自分の健康も心配である。

▶ 親が寝込んだら仕事が出来なくなって収入がなくなること。自分が体を壊したら、親を見られなくなる、生活が出来なくなる。
▶ 母親が要介護者であるが、家庭内でどのように対応すればよいのやら…。
▶ 災害があった時にベッド生活している親を外に出せない事が不安に思っています。
▶ 除雪を頼みたいが、誰にどうしたら…が分かりません。
▶ 除雪費用がかかり困っている。
▶ 一人暮らしで、身内も高齢になり、将来入院や老人施設に入所するときに保証人がいなくなる。
▶ ゴミ出し、買い物。
▶ ボランティア等で生活支援していただける方がいると助かると思います。
▶ 同じ地域にも一人暮らし等が多くなってきている。民生委員の若返りやフットワークのよい活動を期待しています。
▶ 高齢で一人暮らしは、月日をおうごとに日常生活で出来なくなる事が多様化する。病気や怪我の心配が多くなり、解決策が見い出せない。高齢者の日常全般について援助活動の多様化が望まれる。高齢者は援助なしでは生活が出来ないのに、医療保険や介護保険料の値上げにより自己負担率の引き上げなどで、老後破産の心配が増大する。既存住宅のバリアフリー化や暮らしの改善策の普及など、住まいの持つ介護力を町がすすめてほしい、加齢による介護の重度化の必然について視野が広がらないと対策もみられない。
▶ 年老いた両親と雪深いところで仕事の保証もなく(臨時の仕事)介護と低賃金の中自分でも持病を抱えてこれから先のことを考えると不安しかない。本当に困っている人の福祉は全く置き去りにされている現実がなおさらつらい。

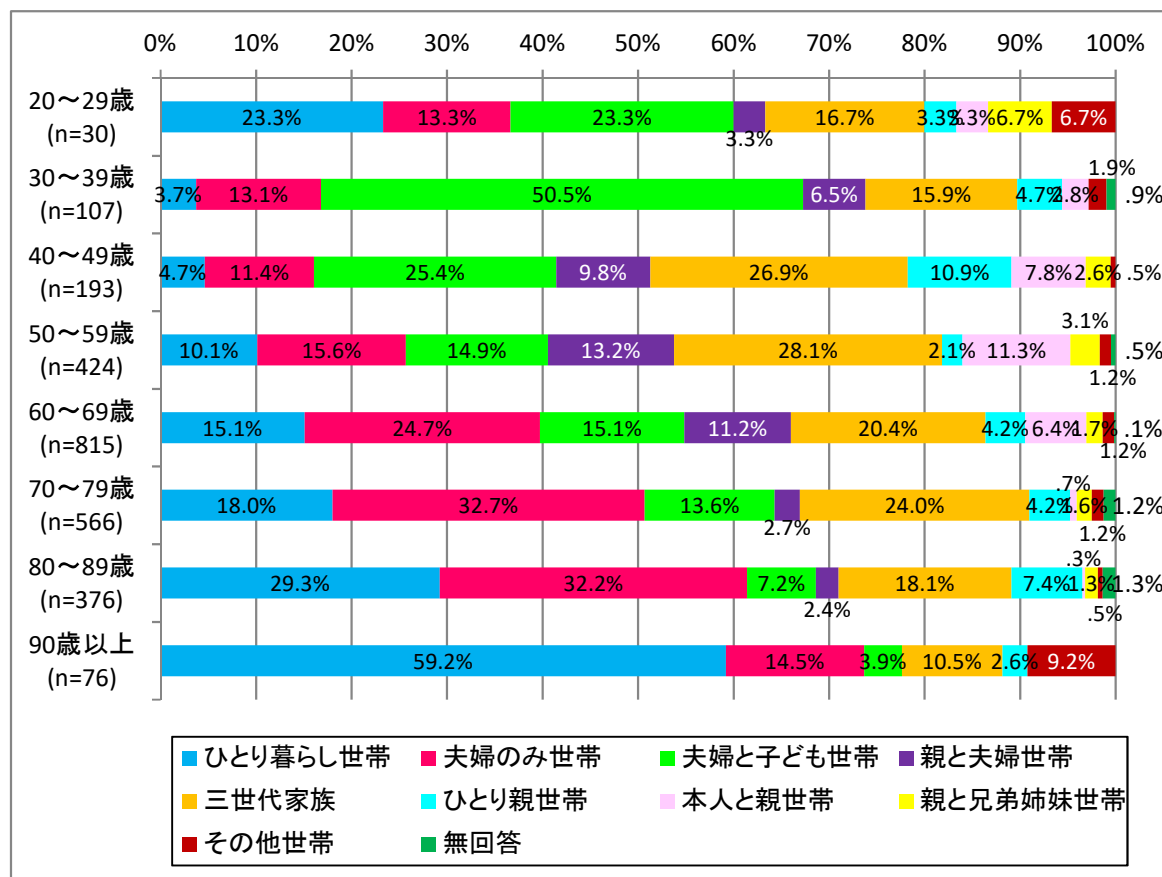
3 クロス集計の結果

問3 あなたは現在どなたと住んでおられますか。(〇はいくつでも)

●男女別にみると、男性の場合、「夫婦のみ世帯」が28.2%、次いで「三世代家族」20.8%、「夫婦と子ども世帯」16.0%であった。一方、女性の場合は「三世代家族」が23.8%、次いで「ひとり暮らし世帯」20.6%、「夫婦のみ世帯」19.5%であった。
 ●年齢別にみると、20歳代の場合、「ひとり暮らし世帯」、「夫婦と子ども世帯」がそれぞれ23.3%、30歳代の場合は「夫婦と子ども世帯」50.5%、40歳代の場合は「三世代家族」26.9%、50歳代の場合は「三世代家族」28.1%、60歳代の場合は「夫婦のみ世帯」24.7%、70歳代の場合は「夫婦のみ世帯」32.7%、80歳代の場合は「夫婦のみ世帯」32.2%、90歳以上の場合は「ひとり暮らし世帯」59.2%と、それぞれ高かった。



【図21】世帯構成(回答者男女別)



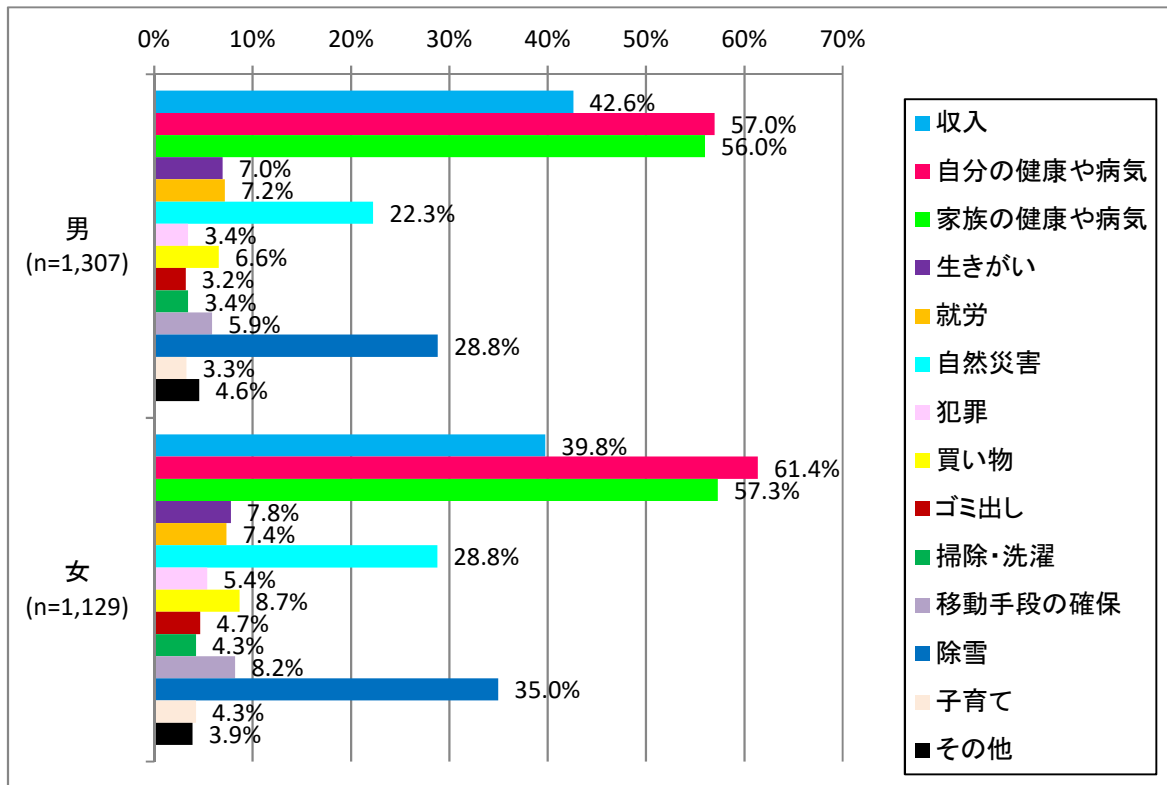
【図22】世帯構成(回答者年齢別)

問4 あなたが日常生活において不安に思っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

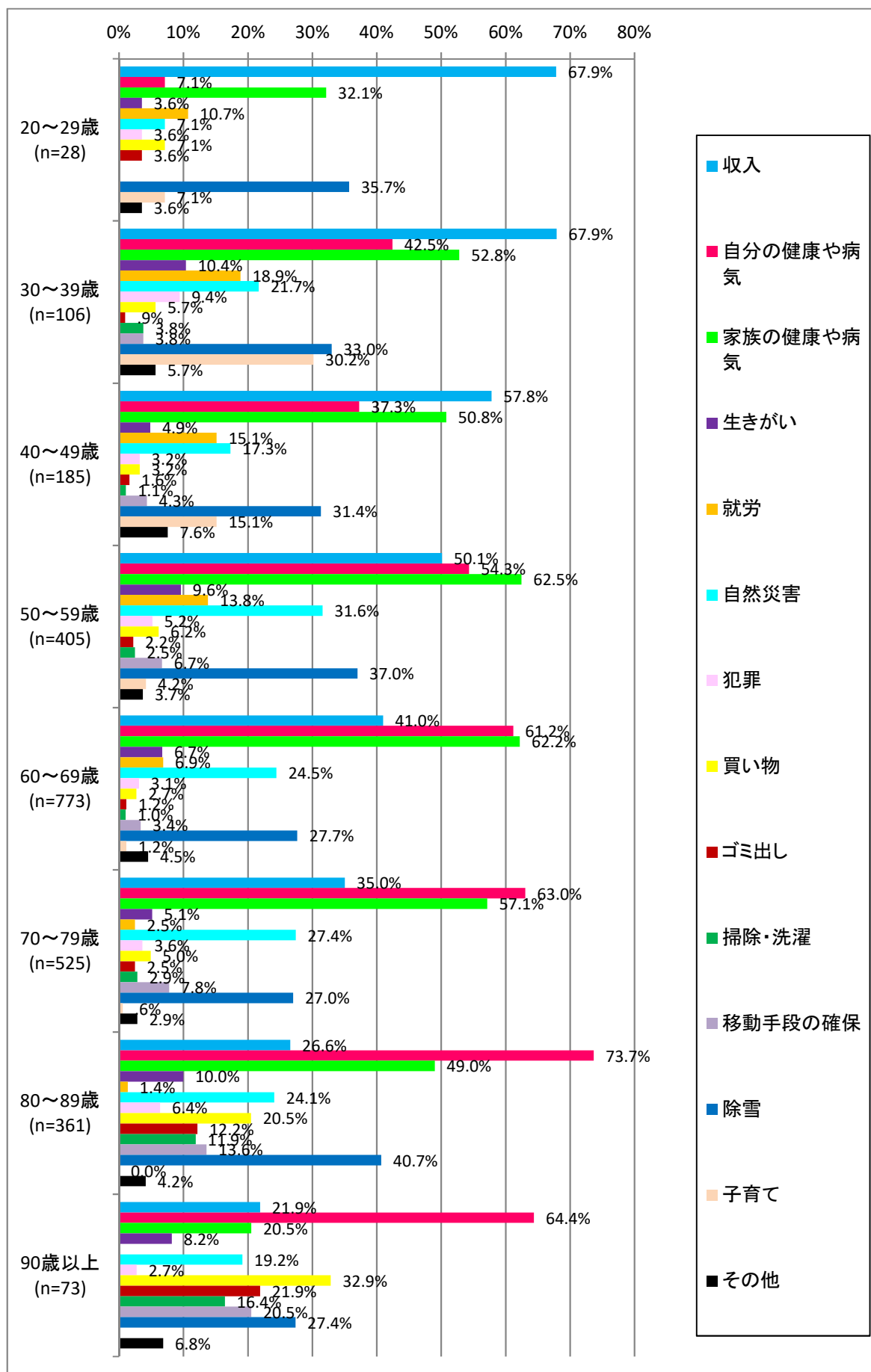
●男女別にみると、男性の場合、「自分の健康や病気」が57.0%、次いで「家族の健康や病気」56.0%、「収入」42.6%であった。一方、女性の場合、「自分の健康や病気」が61.4%、次いで「家族の健康や病気」57.3%、「収入」39.8%であった。

●年齢別にみると、20歳代の場合「収入」が67.9%、30歳代の場合「収入」67.9%、40歳代の場合「収入」57.8%、50歳代の場合「家族の健康や病気」62.5%、60歳代の場合「家族の健康や病気」62.2%、70歳代の場合「自分の健康や病気」63.0%、80歳代の場合「自分の健康や病気」73.7%、90歳以上の場合「自分の健康や病気」64.4%と、それぞれが高かった。

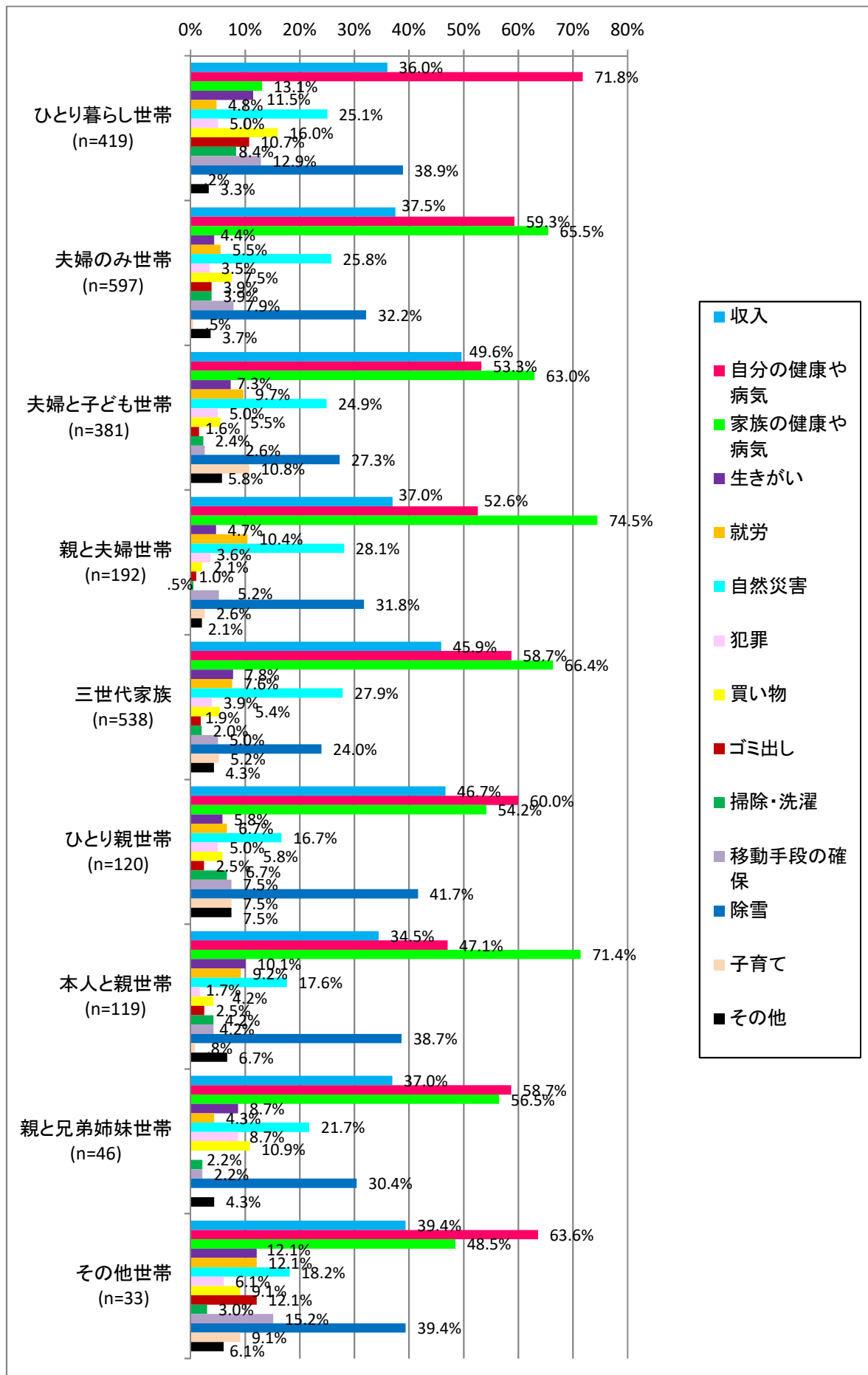
●世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯の場合、「自分の健康や病気」が71.8%、次いで「除雪」38.9%であった。夫婦のみ世帯、夫婦と子ども世帯、親と夫婦世帯、三世大家族、本人と親世帯の場合は「家族の健康や病気」、次いで「自分の健康や病気」の順であった。ひとり親世帯、親と兄弟姉妹世帯、その他世帯の場合は「自分の健康や病気」、次いで「家族の健康や病気」の順であった。



【図23】日常生活上の不安(回答者男女別)



【図24】日常生活上の不安(回答者年齢別)

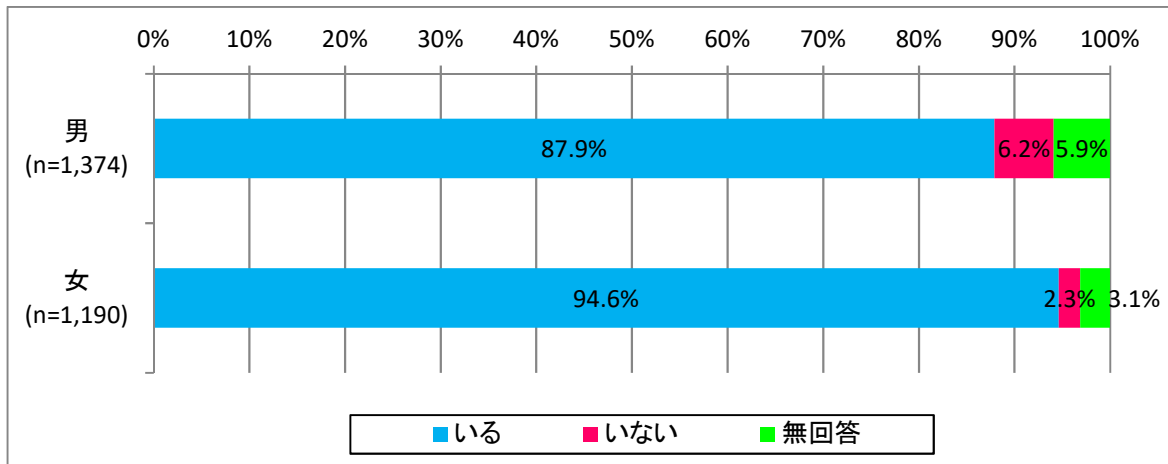


【図25】日常生活上の不安(世帯構成別)

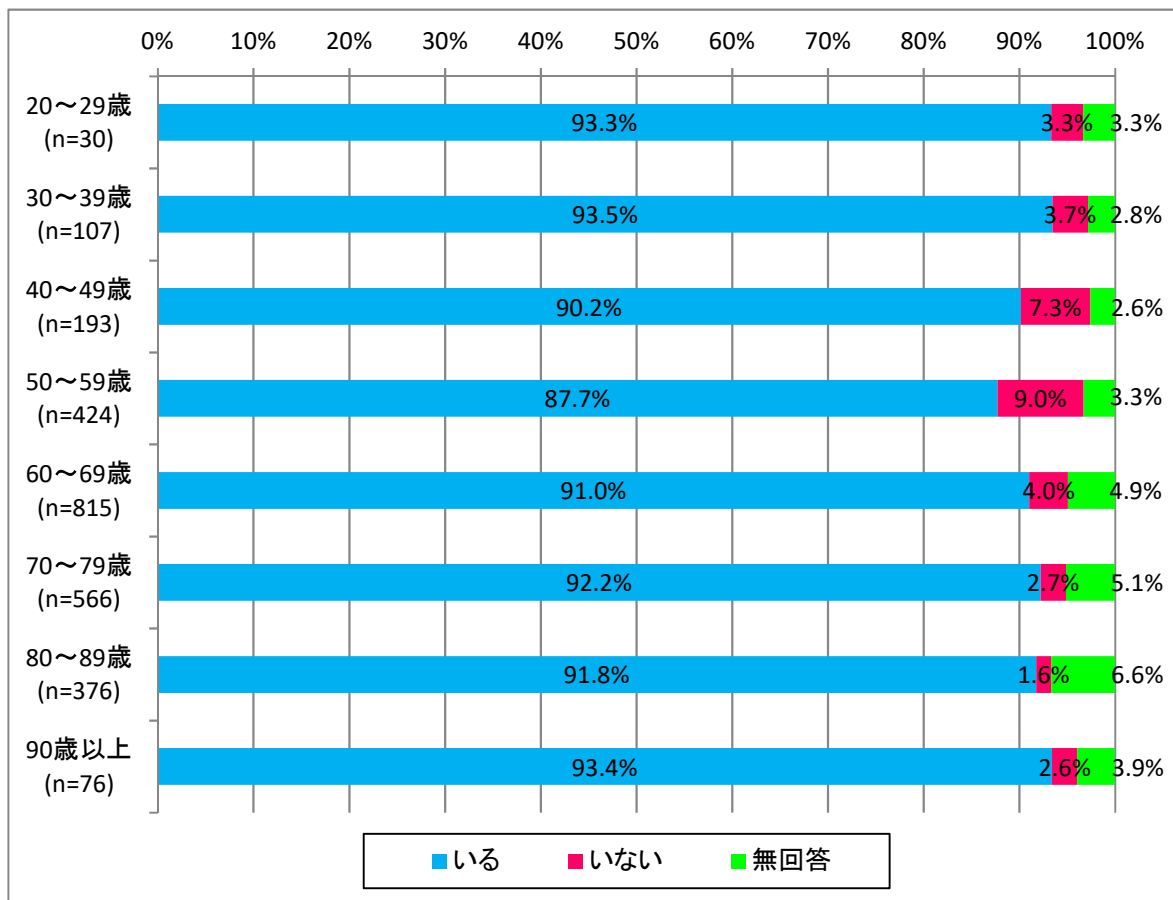
問5 あなたは日常生活の心配ごとや悩みごとの相談を誰にしますか。(〇はいくつでも)

(1)相談相手の有無

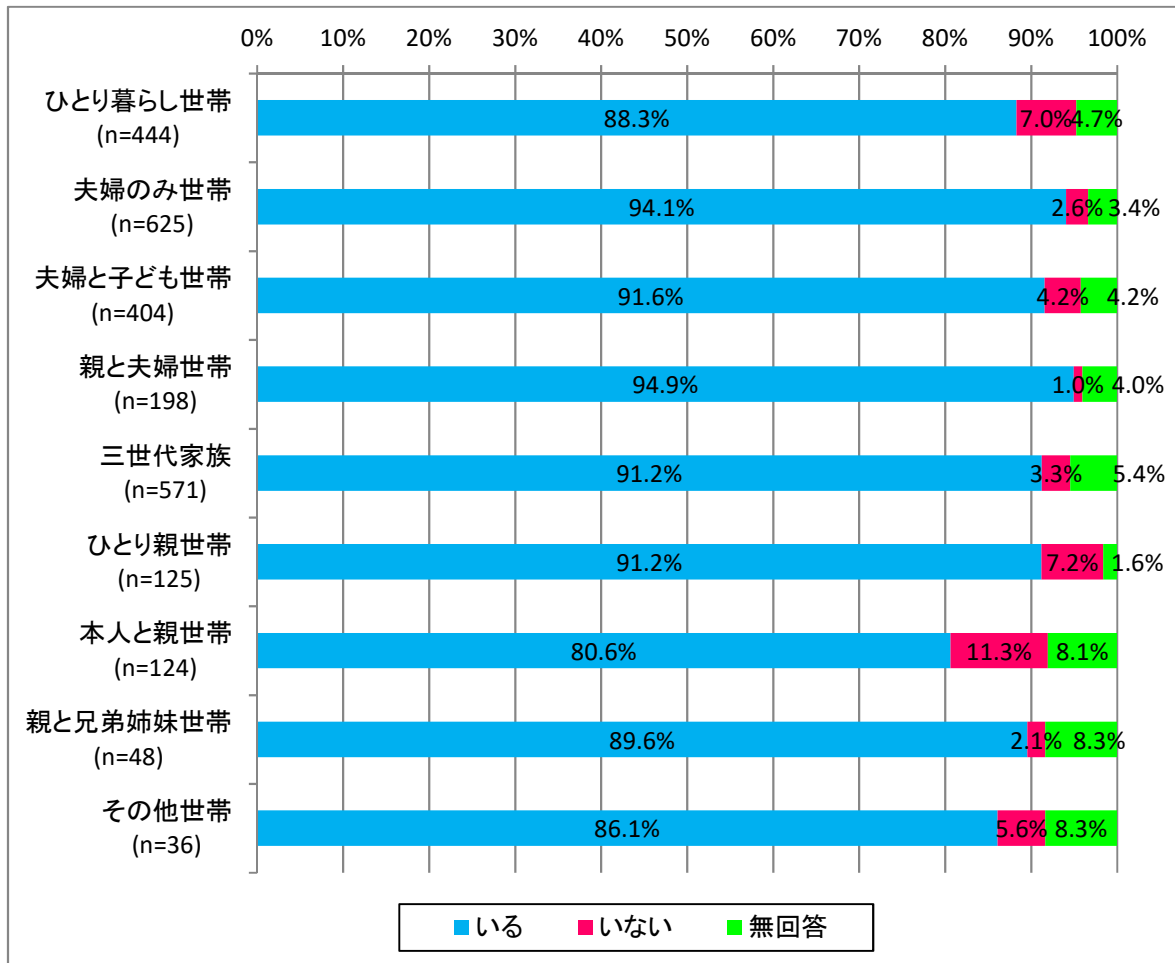
- 相談相手が「いない」方について、男女別で見ると、男性6.2%、女性2.3%であり、男性は女性と比較して高かった。
- 年齢別で見ると、40歳代7.3%、50歳代9.0%で、他の項目と比較すると2倍程度の高さであった。70歳代以上は、1~2%で少なかった。
- 世帯構成別にみると、「本人と親世帯」11.3%、「ひとり親世帯」7.2%、「ひとり暮らし世帯」7.0%で、他の項目と比較すると高かった。



【図26】日常生活における心配ごと等の相談相手の有無(回答者男女別)



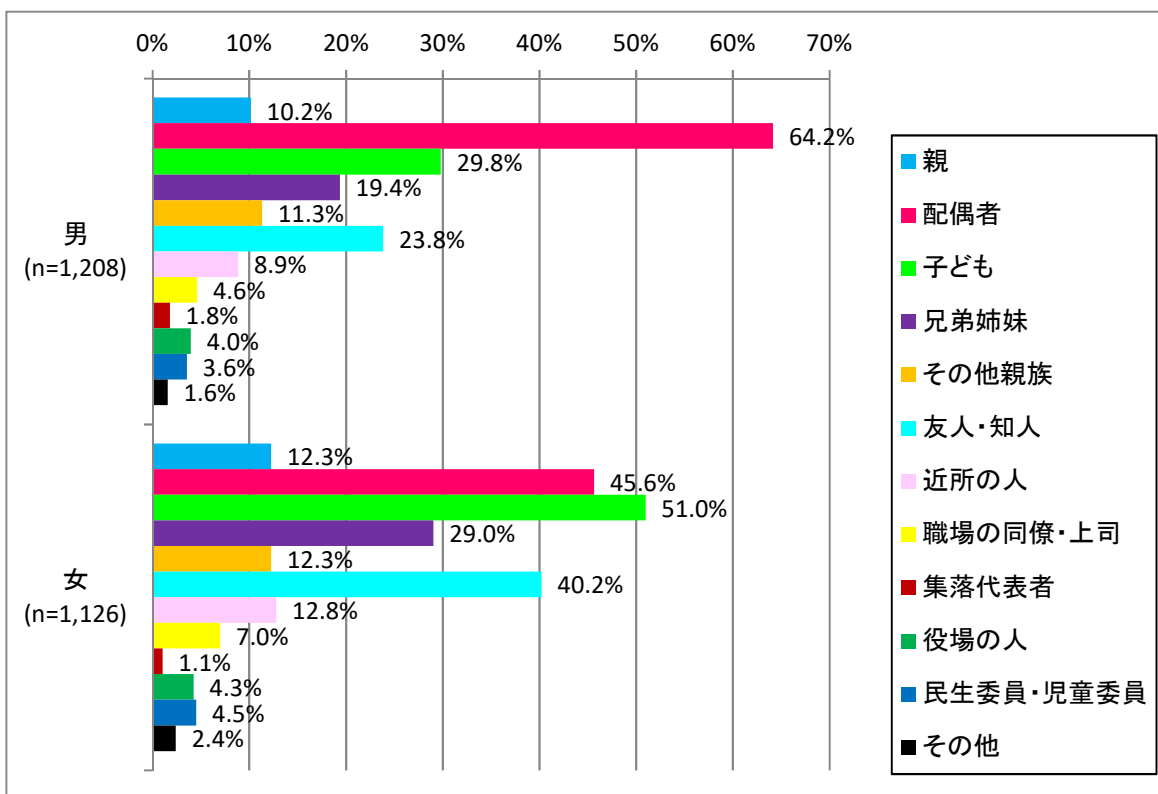
【図27】日常生活における心配ごと等の相談相手の有無(回答者年齢別)



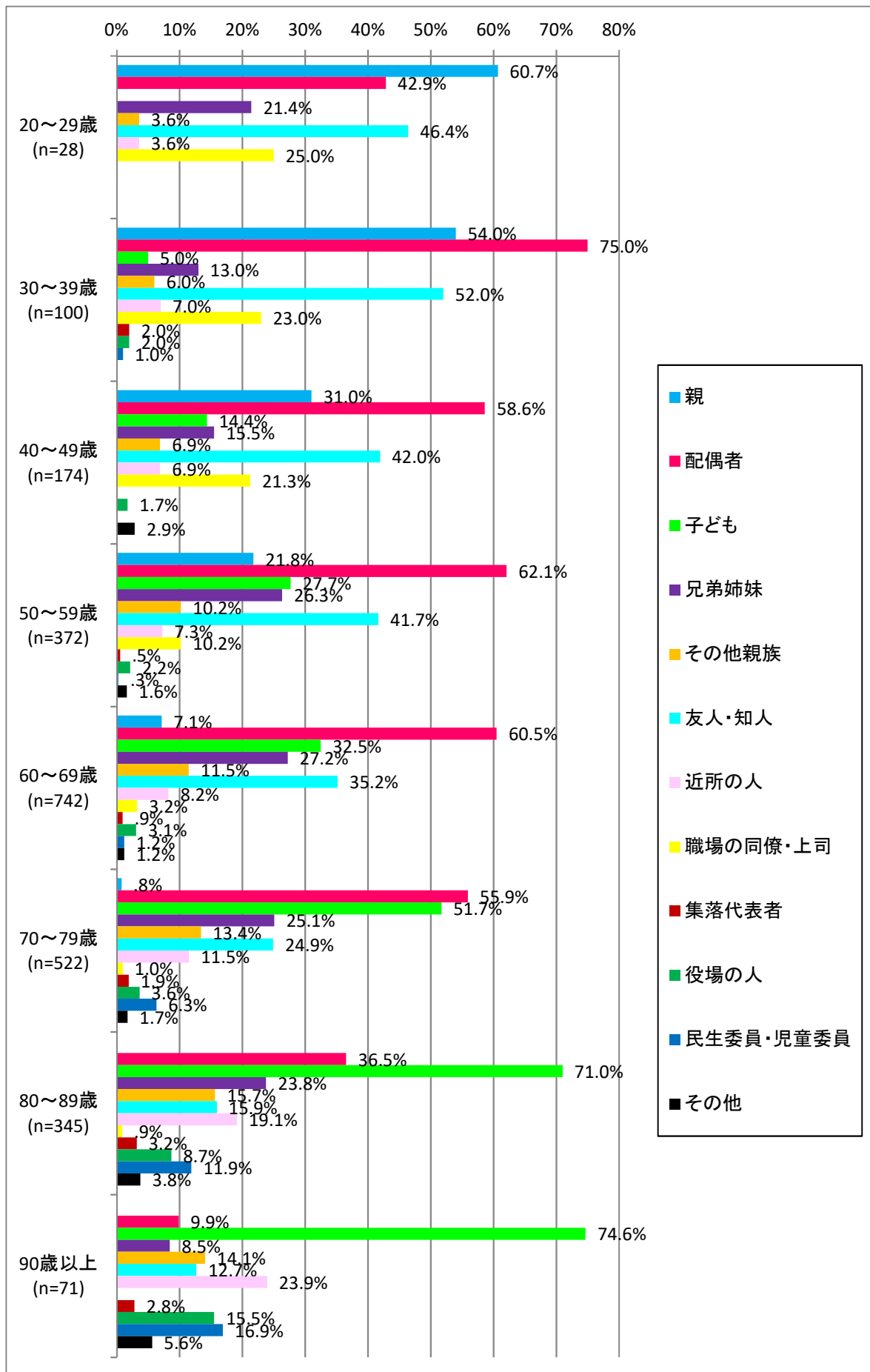
【図28】日常生活における心配ごと等の相談相手の有無(世帯構成別)

(2)相談相手が「いる」場合の相談相手

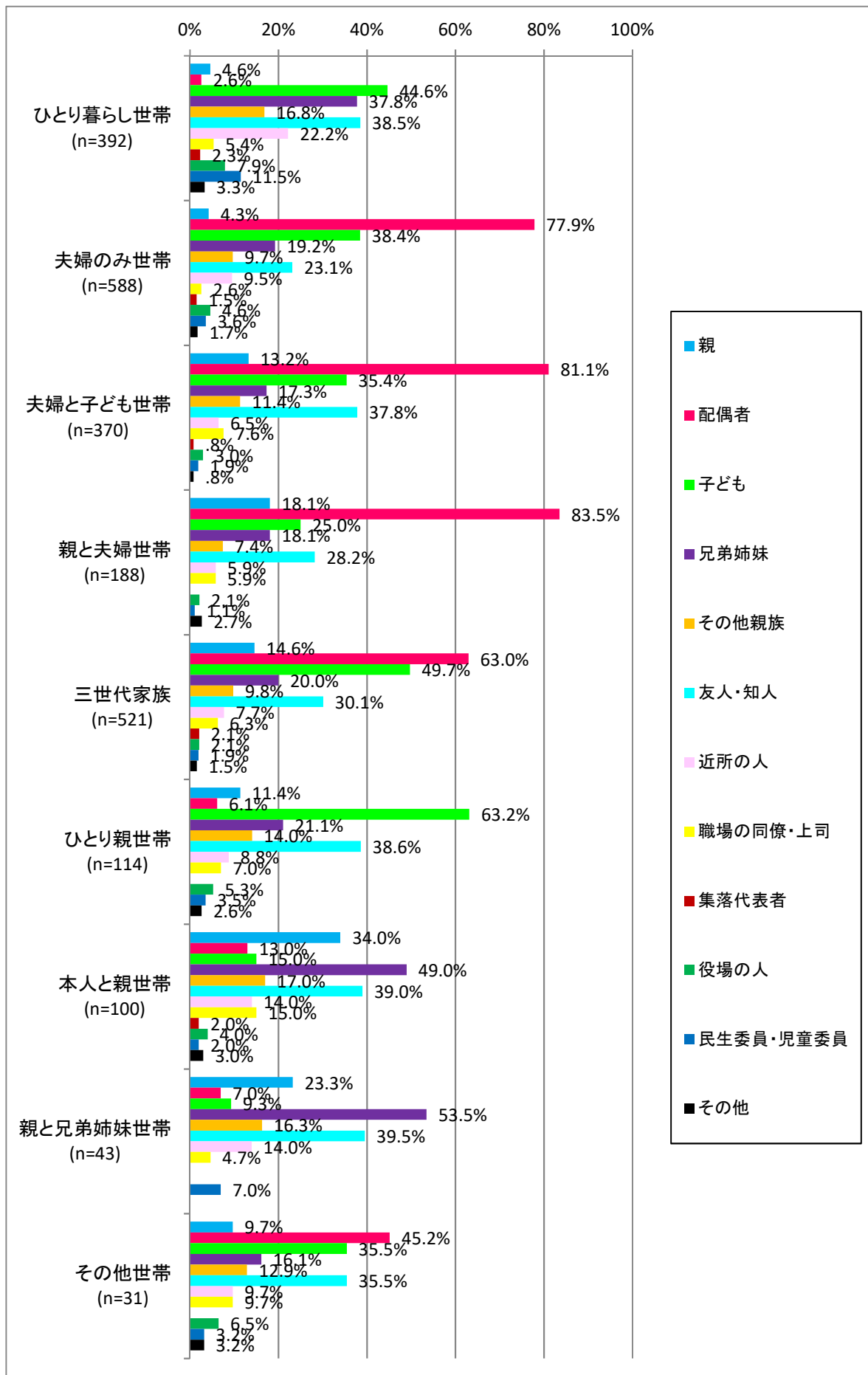
- 男女別にみると、男性の場合、「配偶者」が64.2%、次いで「子ども」29.8%、「友人・知人」23.8%であった。一方、女性の場合、「子ども」が51.0%、次いで「配偶者」45.6%、「友人・知人」40.2%であった。
- 年齢別にみると、20歳代の場合、「親」が60.7%、30歳代の場合「配偶者」75.0%、40歳代の場合「配偶者」58.6%、50歳代の場合「配偶者」62.1%、60歳代の場合「配偶者」60.5%、70歳代の場合「配偶者」55.9%、80歳代の場合「子ども」71.0%、90歳以上の場合「子ども」74.6%と、それぞれ高かった。
- 世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯の場合、「子ども」が44.6%、夫婦のみ世帯、夫婦と子ども世帯、親と夫婦世帯、三世帯家族では「配偶者」が60%を超えていた。ひとり親世帯では「子ども」が63.2%であった。本人と親世帯、親と兄弟姉妹世帯では「兄弟姉妹」が約50%となっていた。その他世帯では「配偶者」が45.2%であった。



【図29】日常生活における心配ごとの相談相手(回答者男女別)



【図30】日常生活における心配ごとの相談相手(回答者年齢別)

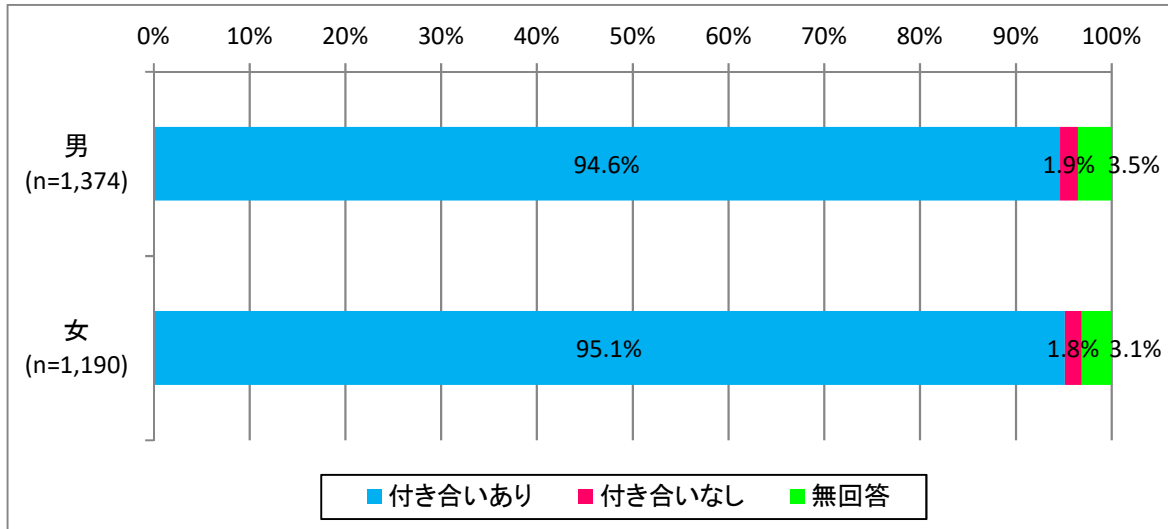


【図31】日常生活における心配ごとの相談相手(世帯構成別)

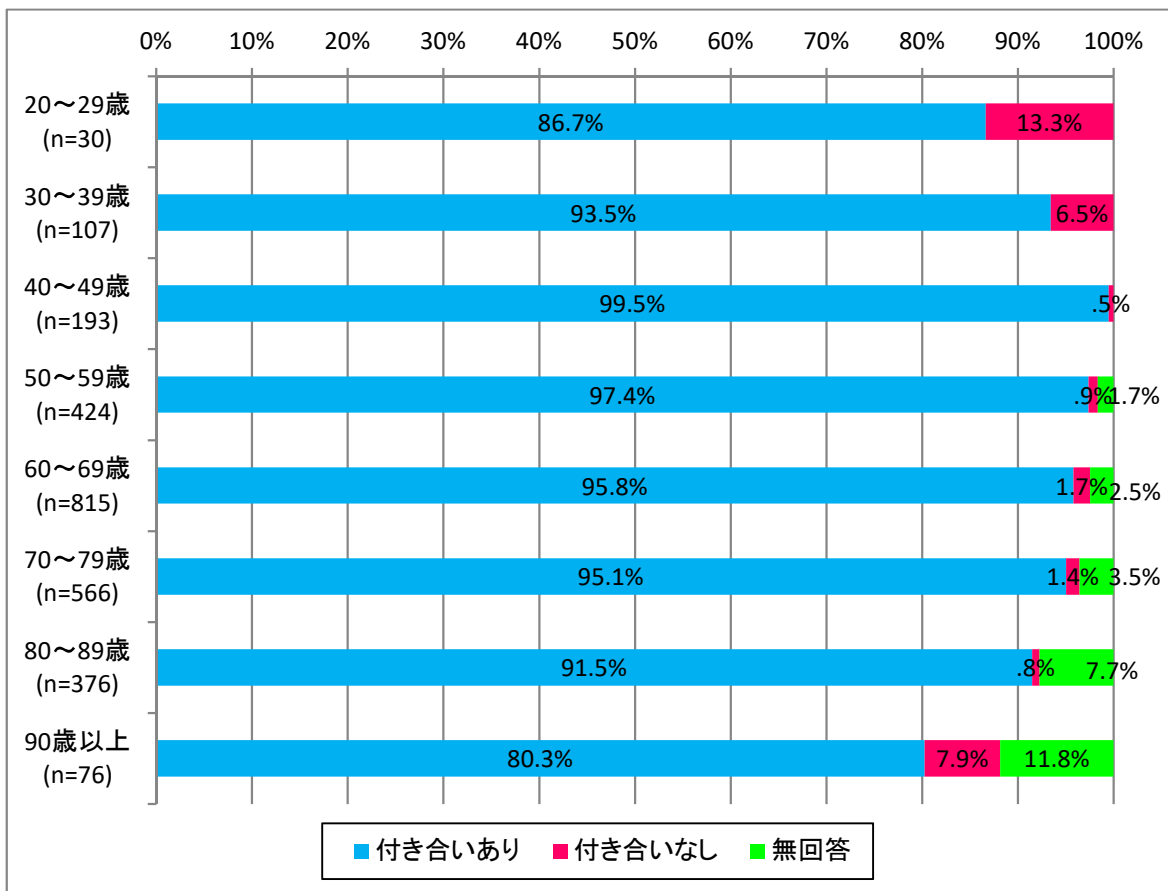
問6 あなたの近所の方との付き合いの状況についてお聞きます。(〇はいくつでも)

(1)近所付き合いの有無

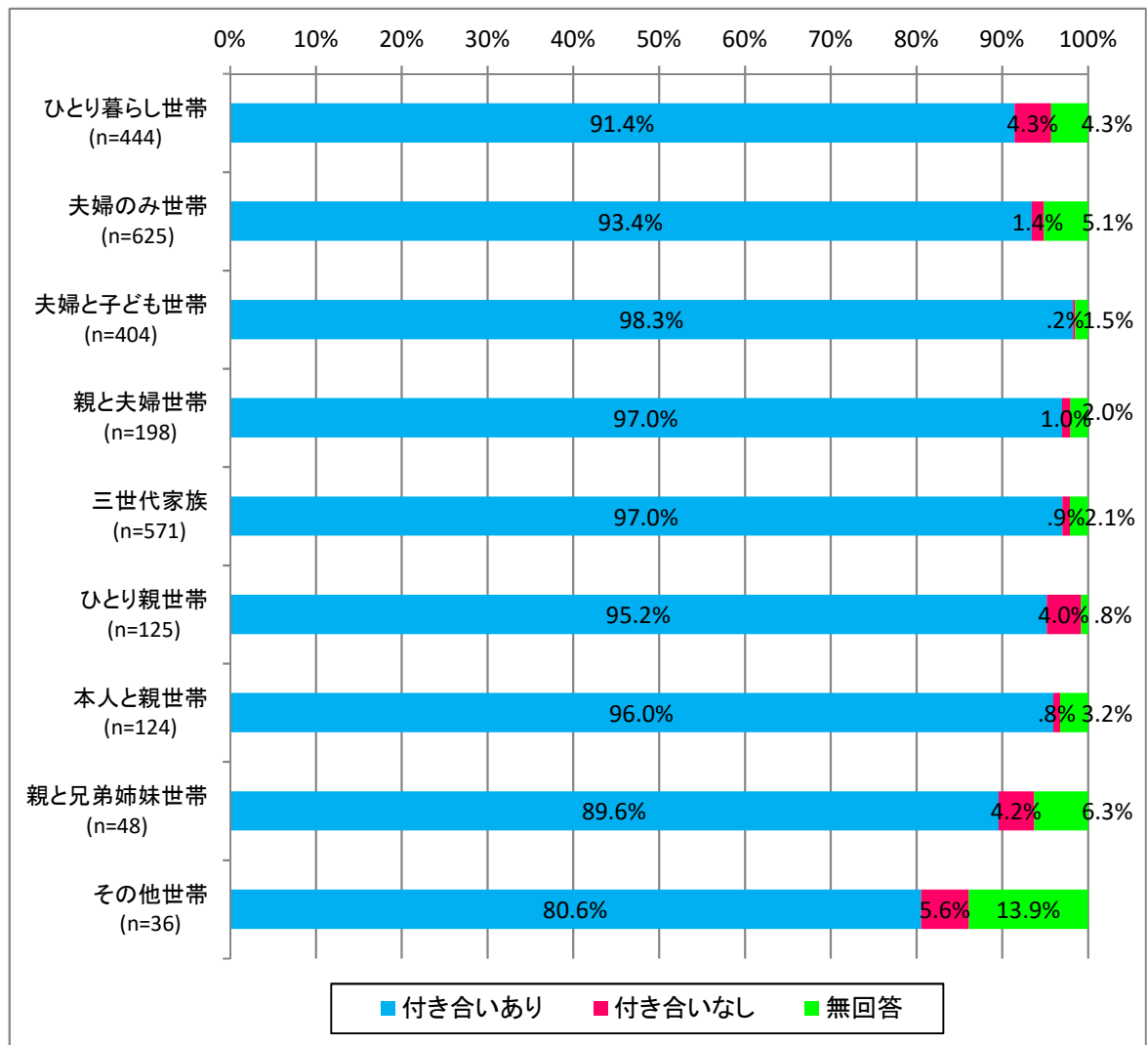
- 近所付き合いが「ない」方について、男女別で見るとその割合はほぼ同じであった。
- 年齢別で見ると、20歳代13.3%、90歳以上7.9%、30歳代6.5%で、他の項目と比較すると高かった。40歳代から80歳代については、1%程度で極めて少なかった。
- 世帯構成別にみると、「ひとり暮らし世帯」4.3%、「ひとり親世帯」4.0%であった。



【図32】近所付き合いの有無(回答者男女別)



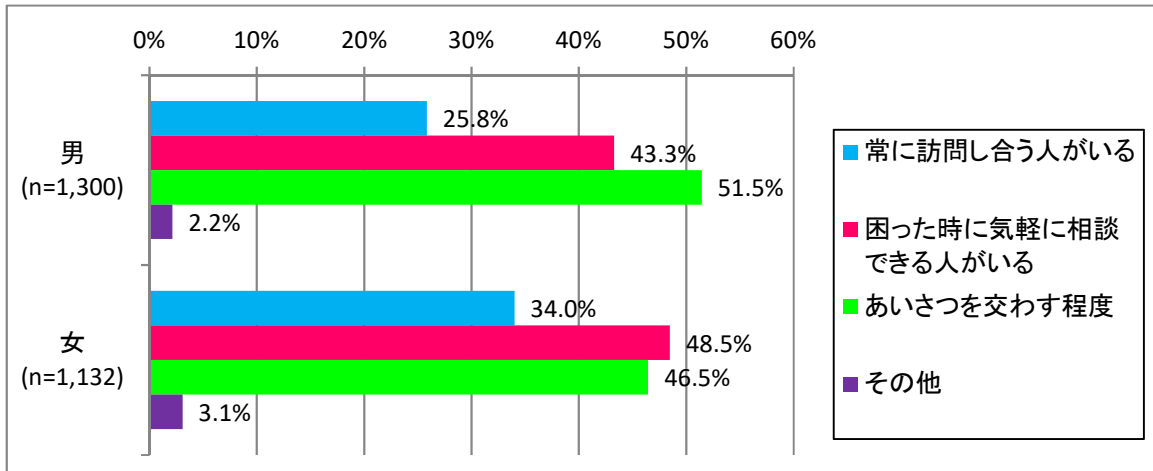
【図33】近所付き合いの有無(回答者年齢別)



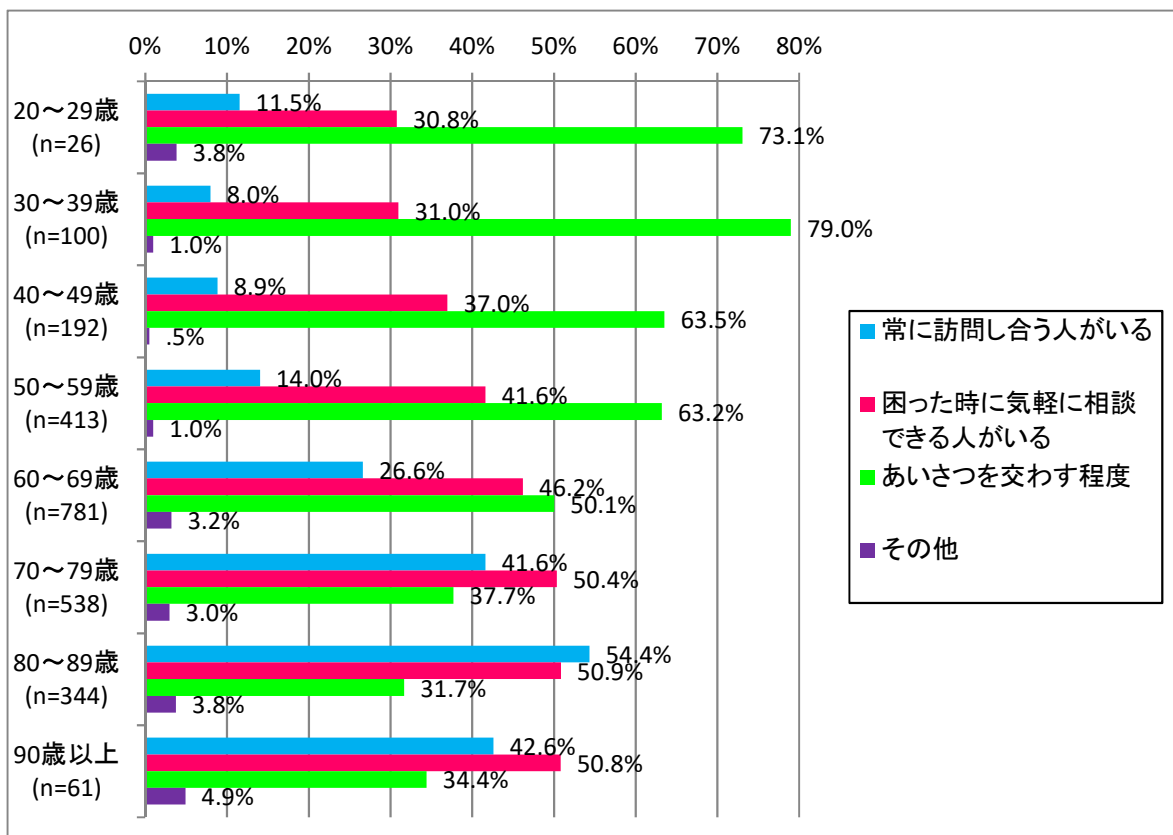
【図34】近所付き合いの有無(世帯構成別)

(2)近所付き合い「あり」の場合の状況

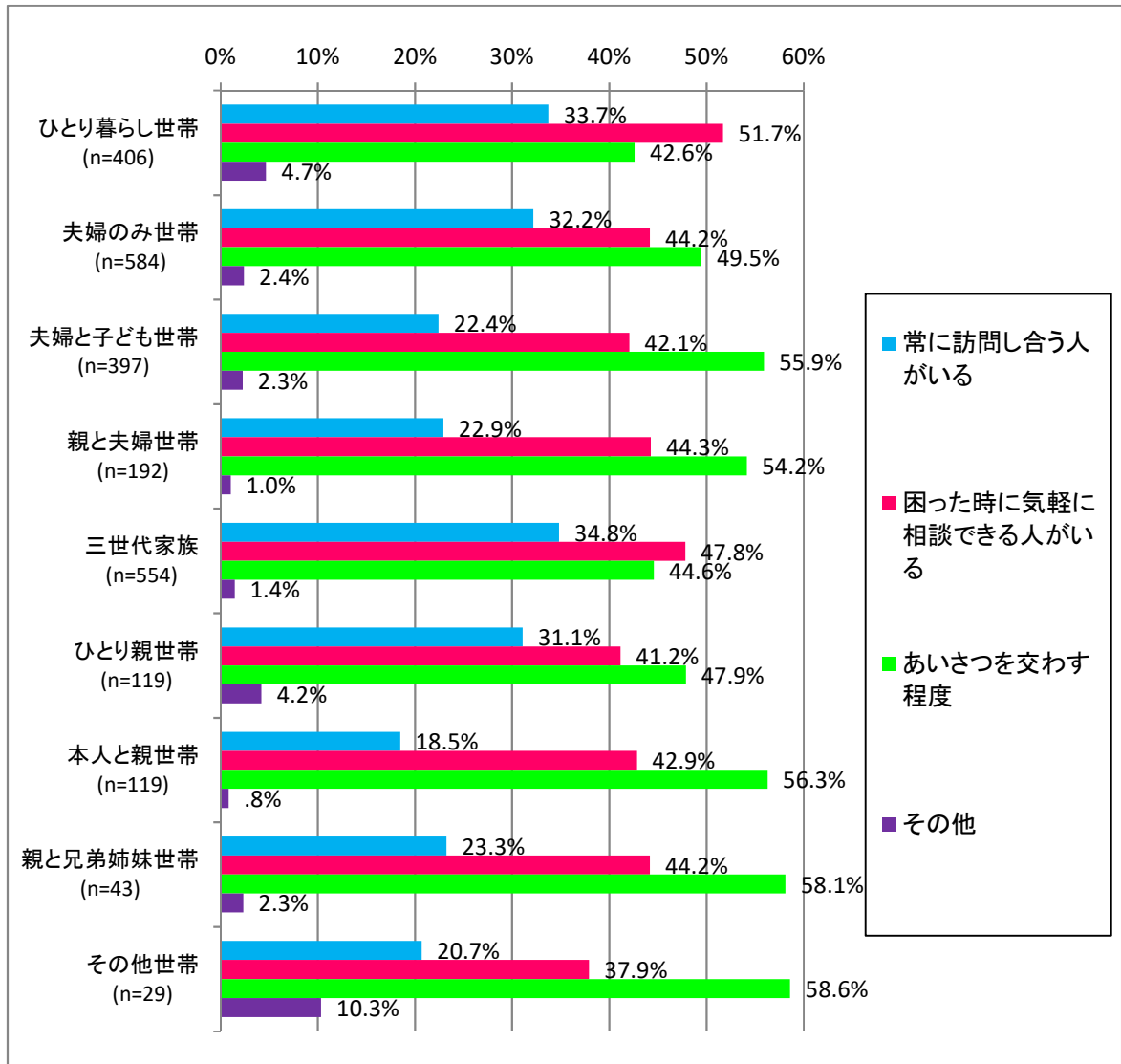
- 男女別にみると、男性では「あいさつを交わす程度」が51.5%、女性では「困った時に気軽に相談できる人がいる」が48.5%であった。「常に訪問し合う人がいる」は、女性が男性よりも10ポイント程度高かった。
- 年齢別にみると、若い世代では「あいさつを交わす程度」が一番高くなっており、20歳代73.1%、30歳代79.0%、40歳代63.5%、50歳代63.2%、60歳代50.1%であった。一方、70歳代以上の場合、「困ったときに気軽に相談できる人がいる」が50%を超えており、「常に訪問し合う人がいる」も40%を超えていた。
- 世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯、三世帯家族の場合、「困った時に気軽に相談できる人がいる」がそれぞれ51.7%、47.8%となっていた。上記以外の世帯では、「あいさつを交わす程度」が50%を超える世帯が多かった。



【図35】近所付き合いの状況(回答者男女別)



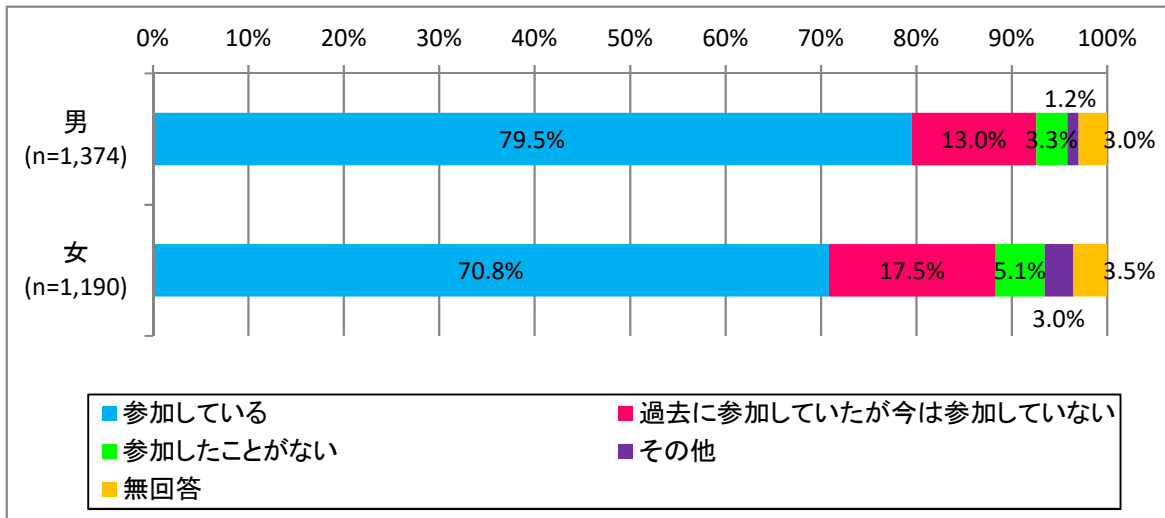
【図36】近所付き合いの状況(回答者年齢別)



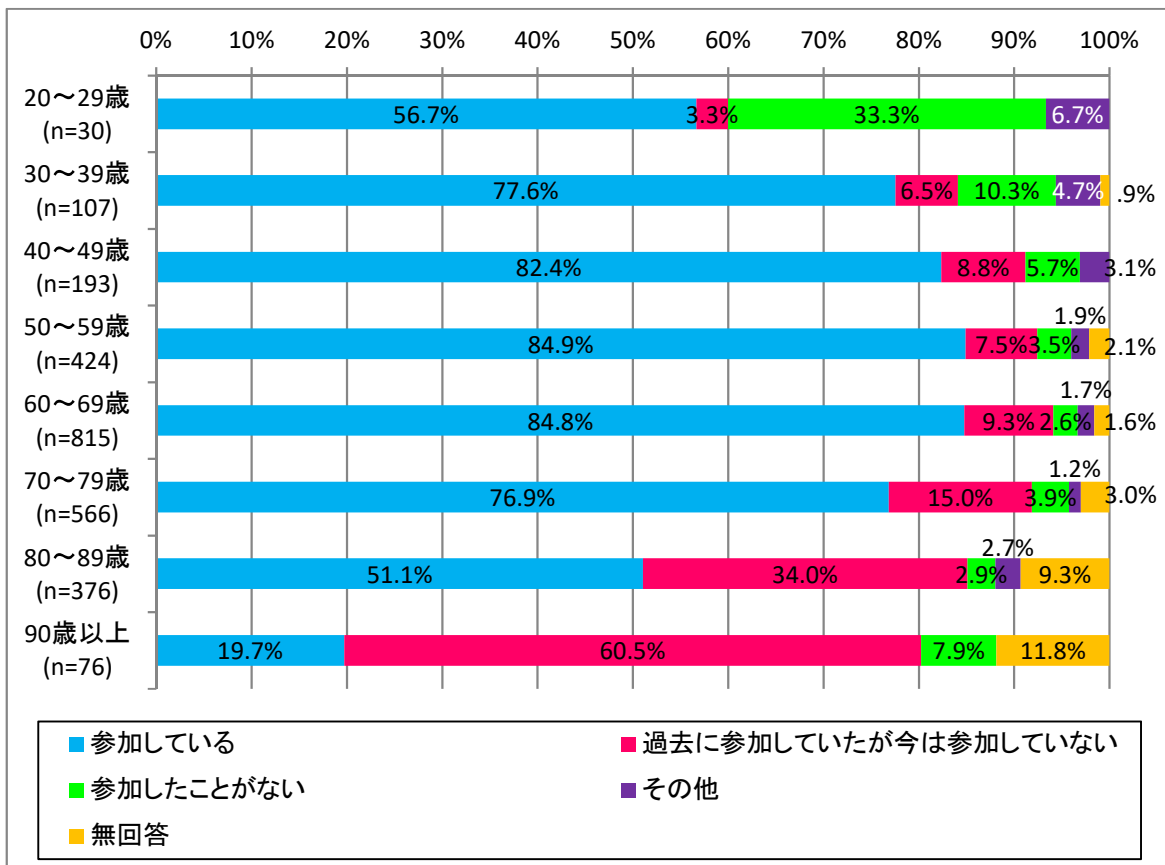
【図37】近所付き合いの状況(世帯構成別)

問7 あなたはお住まいの地域で行っている地域活動(地域の祭りや町内の清掃活動など)に参加していますか。(〇は一つだけ)

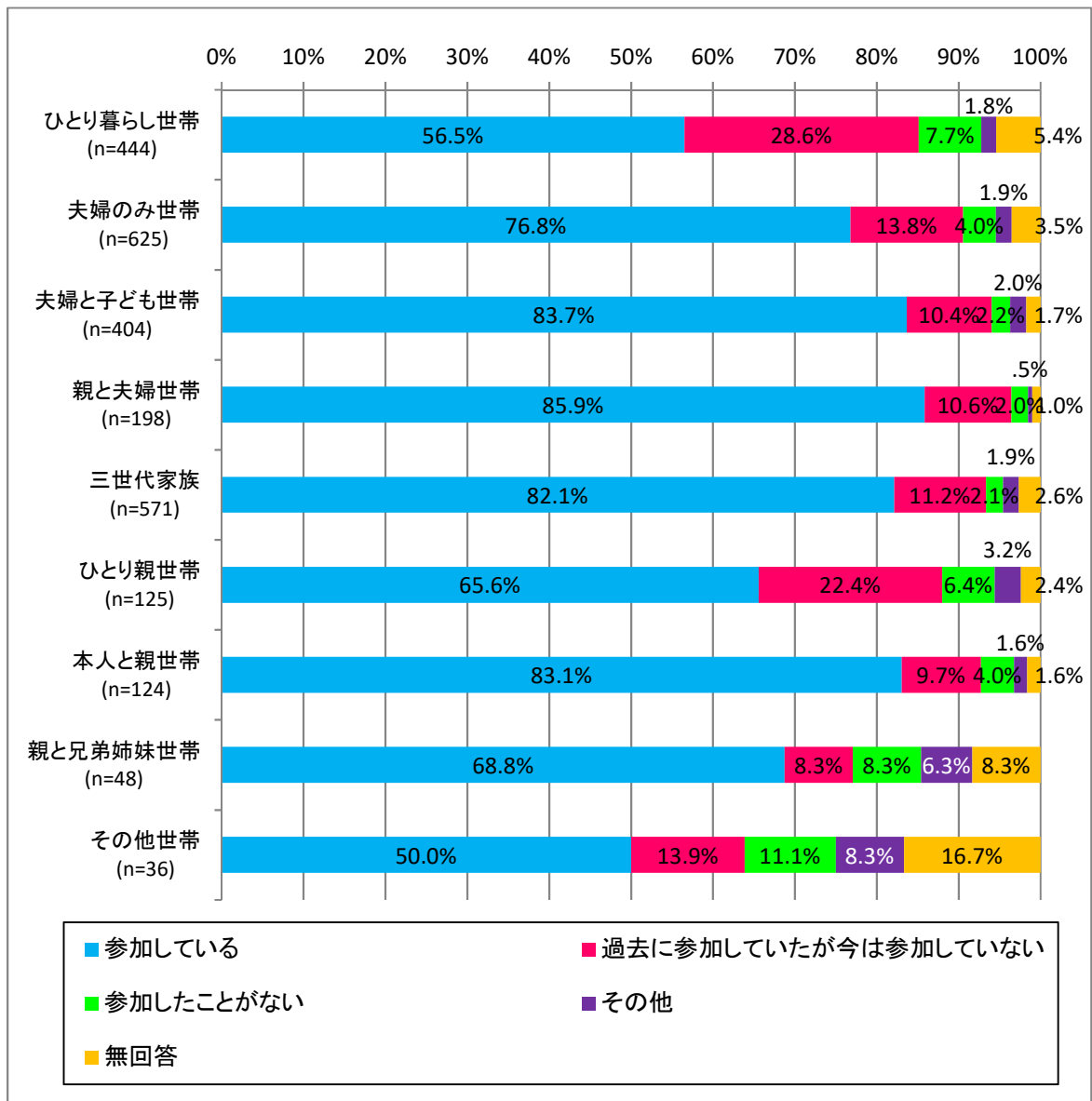
- 男女別では、「参加している」が男性で79.5%、女性で70.8%と、男性の方が地域活動に参加している比率が高かった。
- 年齢別では、「参加している」が30歳代から70歳代にかけては70%から80%と高い割合を占めるが、20歳代では56.7%、80歳代51.1%、90歳以上19.7%であった。80歳代、90歳以上では「過去に参加したことがある」を含めると、80%以上が参加していたことになるが、20歳代では「参加したことがない」が33.3%と高かった。
- 世帯構成別では、「ひとり暮らし世帯」、「ひとり親世帯」については、「参加したことがない」が7.7%、6.4%で他の世帯より高かった。「過去に参加していた」もそれぞれ28.6%、22.4%で、他の世帯より高かった。



【図38】地域活動への参加状況(回答者男女別)

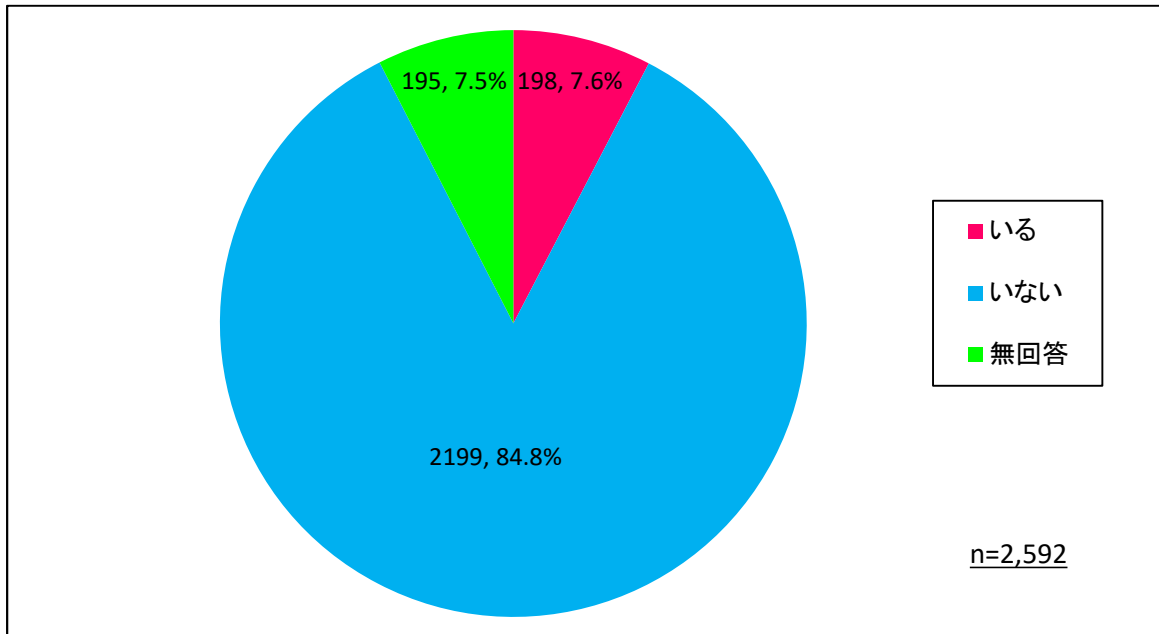


【図39】地域活動への参加状況(回答者年齢別)



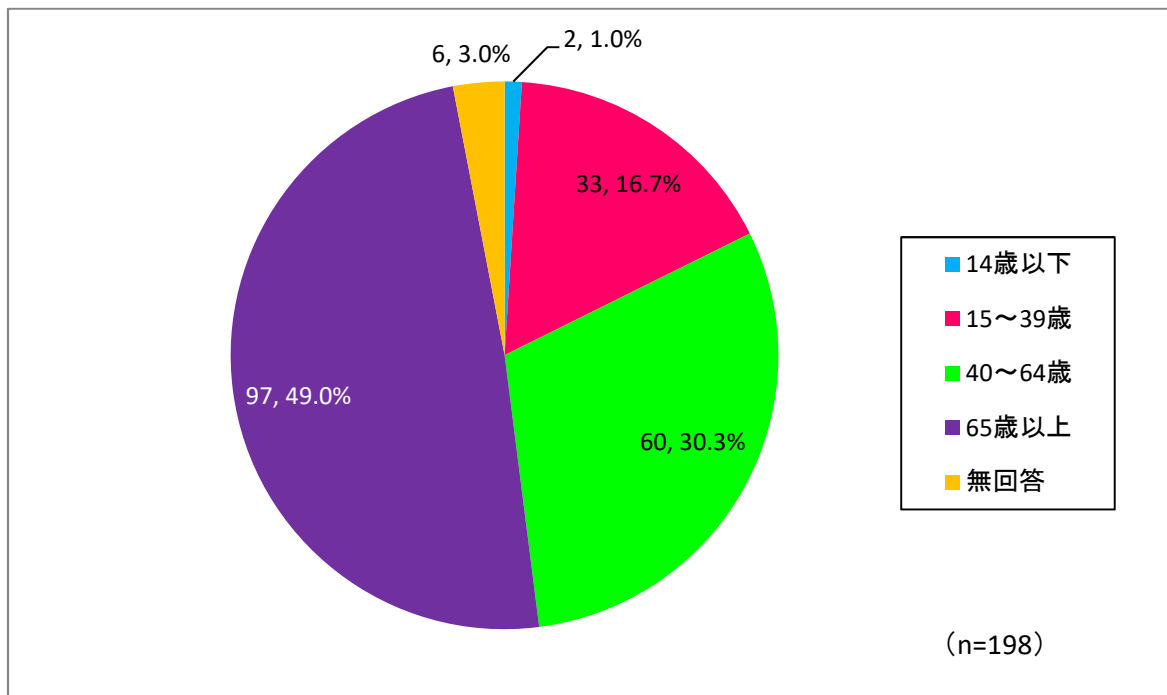
【図40】地域活動への参加状況(世帯構成別)

問8 あなたのご家庭の中に(回答者自身を含めて)、仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方はいらっしゃいますか。(〇は一つだけ)
 いらっしゃる場合はその人数もご記入ください。



【図10】仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方の有無(再掲)

●該当者本人の年齢をみると、「14歳以下」が2人(1.0%)、「15～39歳」が33人(16.7%)、「40～64歳」が60人(30.3%)、「65歳以上」が97人(49.0%)であった。

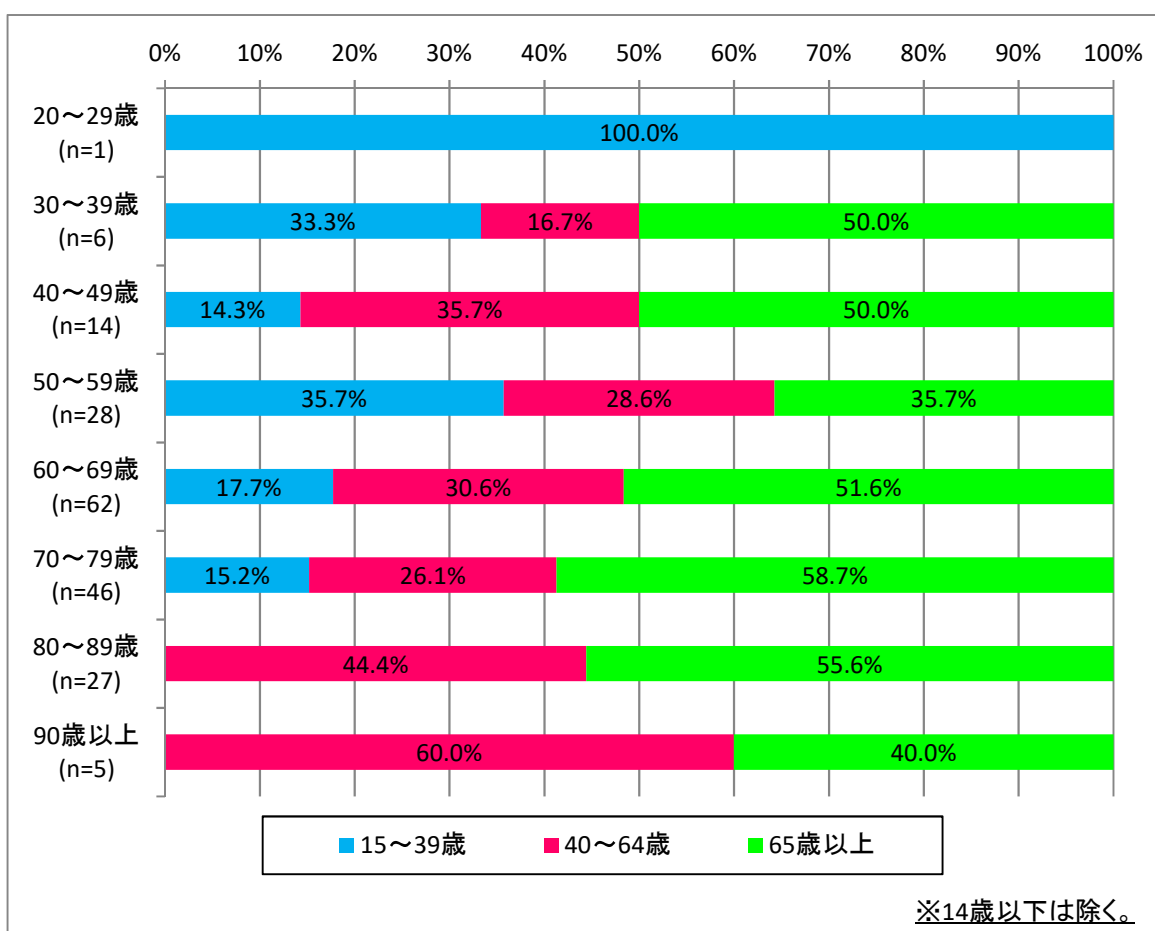


【図41】該当者の年齢(4区分)

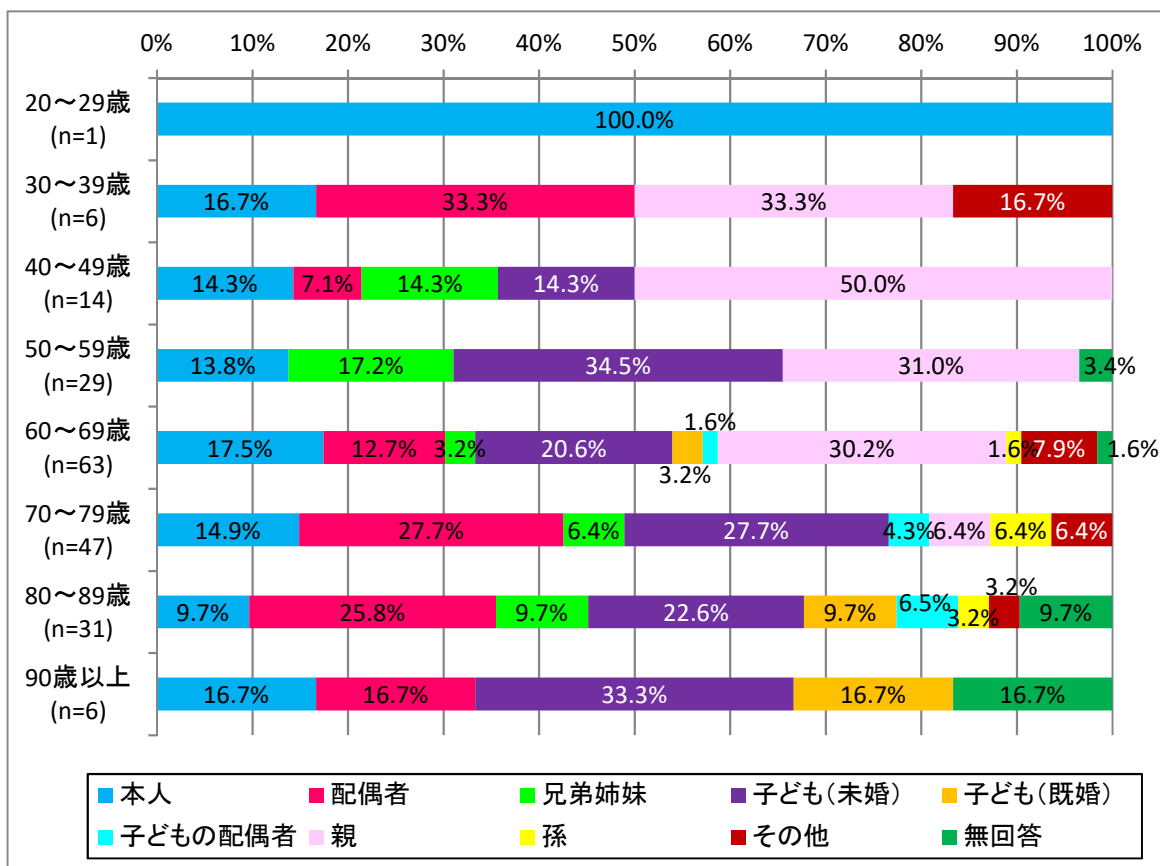
★以下の問9～問17の設問は、問8で「いる」と回答し、該当者の年齢について回答した192人(世帯)が対象。(該当者が2人以上いる世帯の場合は、年齢の一番低い人について回答)

問9 あなたとの続柄をお答えください。(○は一つだけ)

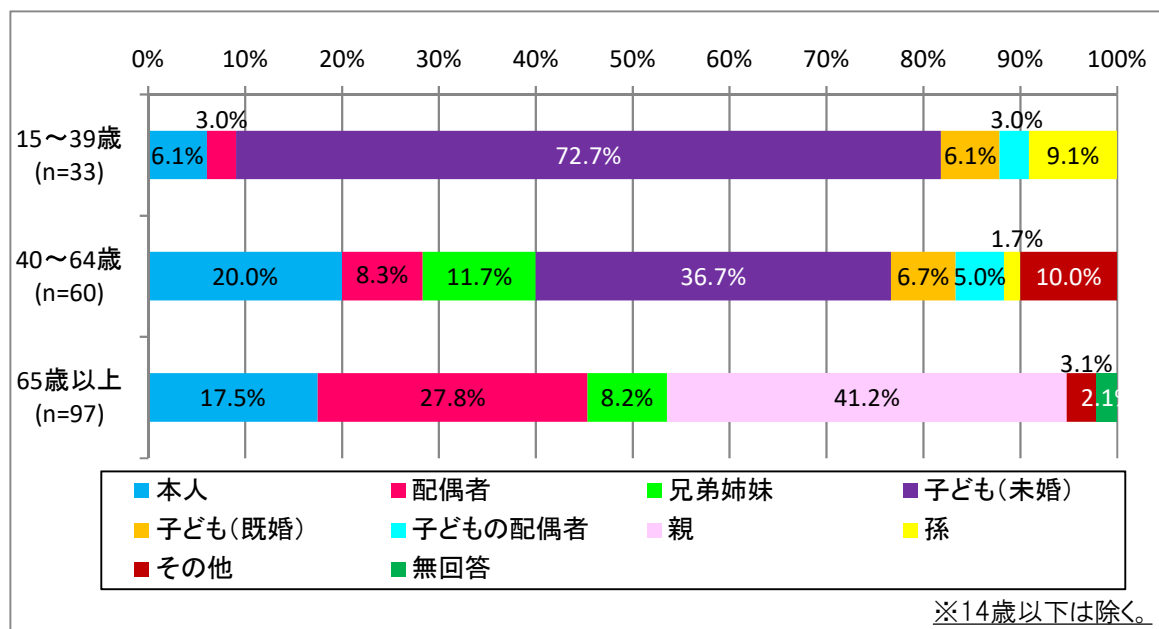
- 回答者の年齢別に該当者の年齢をみると、50歳代では「15～39歳」が35.7%、「40～64歳」28.6%、「65歳以上」35.7%であった。60歳代では「15～39歳」17.7%、「40～64歳」30.6%、「65歳以上」51.6%であった。70歳代では「15～39歳」15.2%、「40～64歳」26.1%、「65歳以上」58.7%であった。
- 回答者の年齢別に該当者の続柄をみると、40歳代では「親」が50.0%、50歳代・60歳代では「子ども(未婚)」「親」の割合が高く、70歳代・80歳代では「配偶者」「子ども(未婚)」の割合が高かった。
- 該当者本人の年齢別に該当者の続柄をみると、15～39歳の場合、「子ども(未婚)」が72.7%、次いで「孫」9.1%とであった。40～64歳の場合、「子ども(未婚)」が36.7%で、次いで「本人」20.0%、「兄弟姉妹」11.7%であった。65歳以上の場合、「親」が41.2%、次いで「配偶者」27.8%、「本人」17.5%であった。



【図42】該当者の年齢(回答者年齢別)



【図43】該当者の続柄(回答者年齢別)

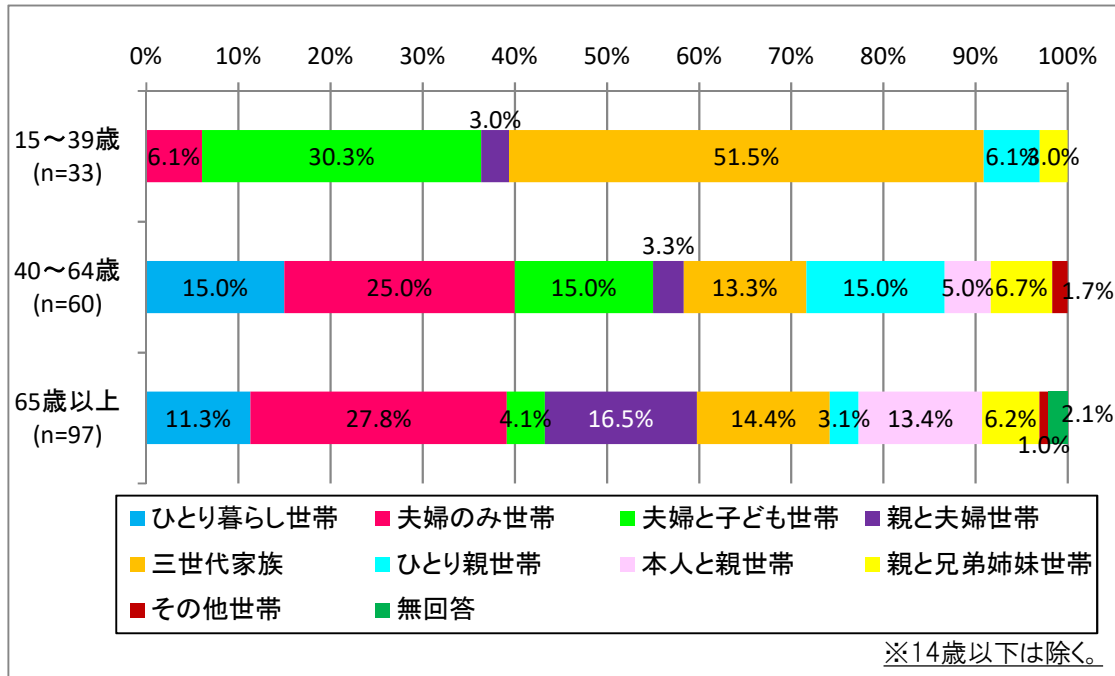


※14歳以下は除く。

【図44】該当者の続柄(該当者年齢別)

問10 その方の年齢をお答えください。(○は一つだけ)

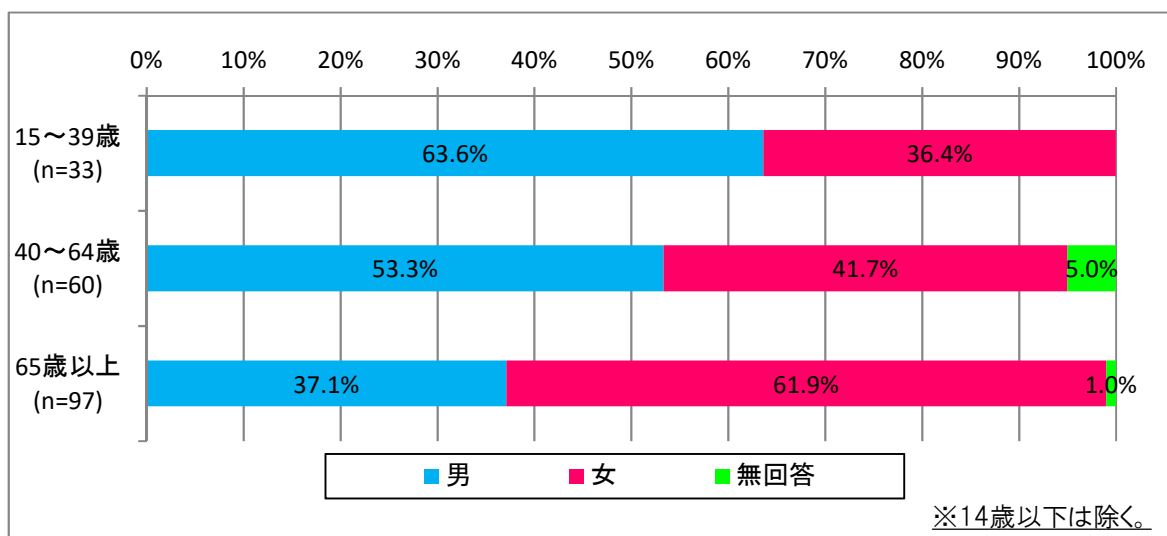
●該当者本人の年齢別に世帯構成をみると、15～39歳では、「三世代家族」51.5%、「夫婦と子ども世帯」30.3%であった。40～64歳では、「夫婦のみ世帯」25.0%、「ひとり暮らし世帯」「夫婦と子ども世帯」「ひとり親世帯」15.0%、「三世代家族」13.3%であった。65歳以上では、「夫婦のみ世帯」27.8%、「親と夫婦世帯」16.5%、「三世代家族」14.4%であった。



【図45】該当者の年齢別世帯構成

問11 その方の性別をお答えください。(○は一つだけ)

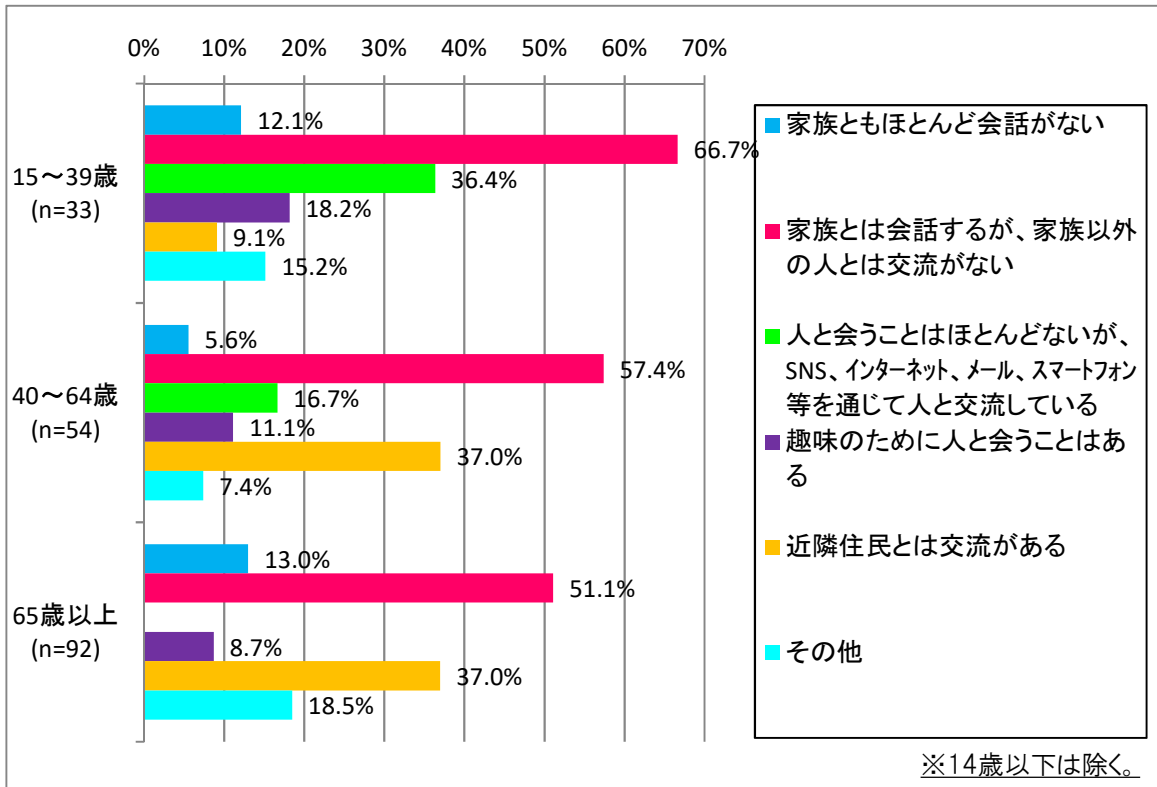
●年齢別にみると、15～39歳では「男性」63.6%、「女性」36.4%、40～64歳では「男性」53.3%、「女性」41.7%、65歳以上では「男性」37.1%、「女性」61.9%であった。



【図46】該当者の性別(該当者年齢別)

問12 その方の交流の状況について、お答えください。(〇はいくつでも)

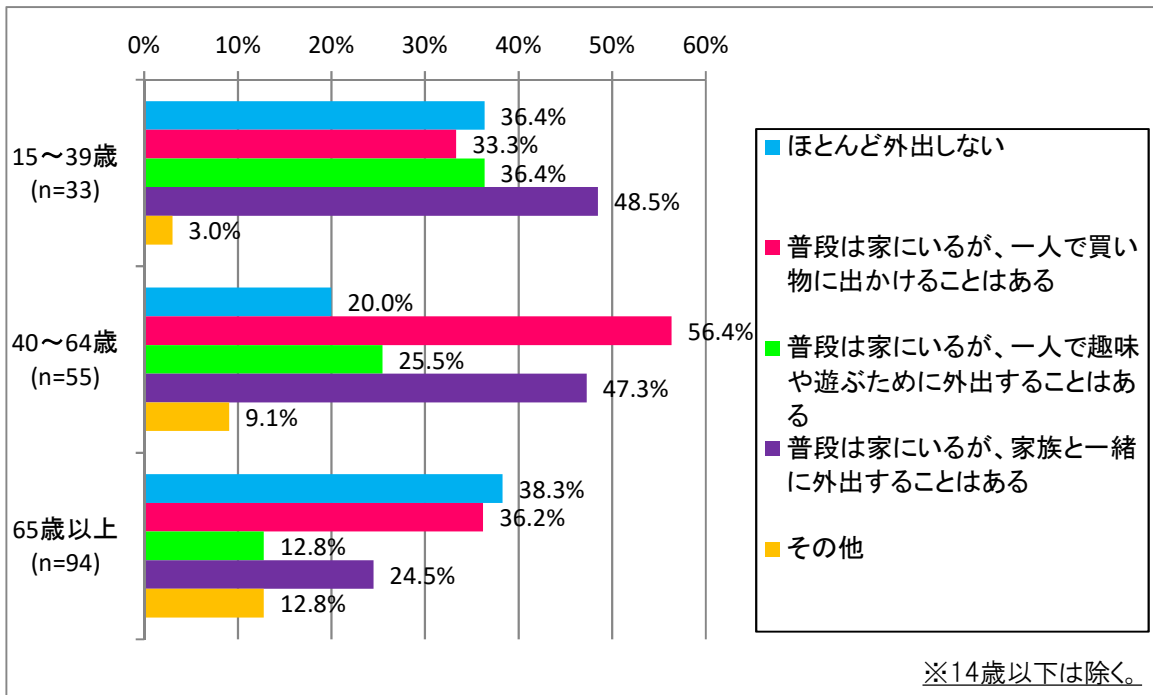
●年齢別にみると、15～39歳では「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」が36.4%、「趣味のために人と会うことはある」18.2%で、他の項目と比較すると2～3倍高かった。一方、「近隣住民とは交流がある」が他の項目と比較すると1/3程度であった。40～64歳では「家族以外の人とは交流がない」57.4%、「近隣住民とは交流がある」37.0%となっており、65歳以上では「家族以外の人とは交流がない」51.1%、「近隣住民とは交流がある」37.0%であった。



【図47】該当者の交流状況(該当者年齢別)

問13 その方の外出の状況について、お答えください。(○はいくつでも)

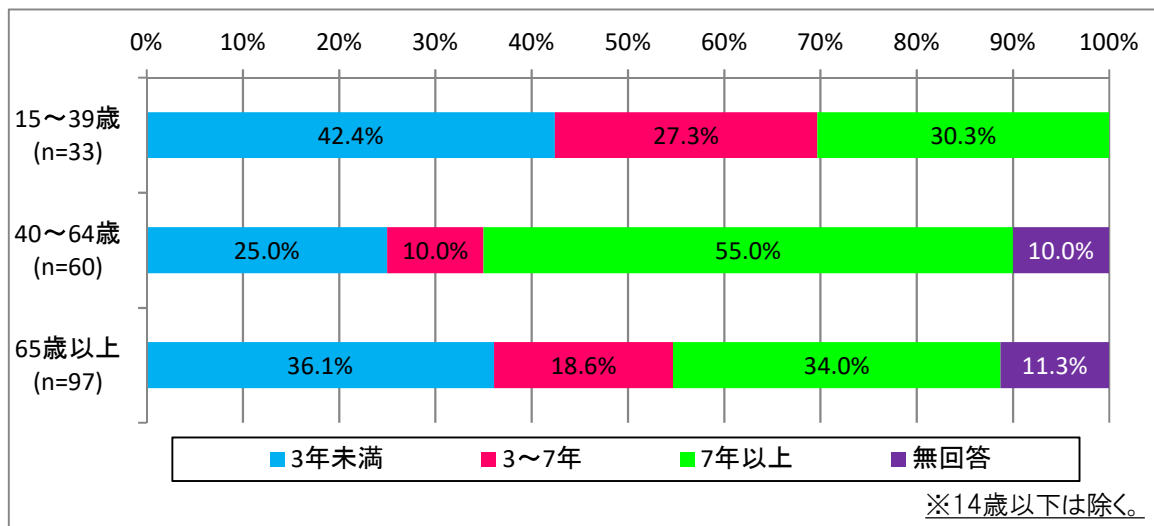
●年齢別にみると、15～39歳では、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」48.5%、「ほとんど外出しない」36.4%、「ほとんど外出しない」「普段は家にいるが、一人で趣味や遊ぶために外出することはある」36.4%であった。40～64歳では、「普段は家にいるが、一人で買い物にでかけることはある」56.4%、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」47.3%であった。65歳以上では、「ほとんど外出しない」38.3%、「普段は家にいるが、一人で買い物にでかけることはある」36.2%であった。



【図48】該当者の外出状況(該当者の年齢別)

問14 その方が現在の状況になって、どのくらい経ちますか。(○は一つだけ)

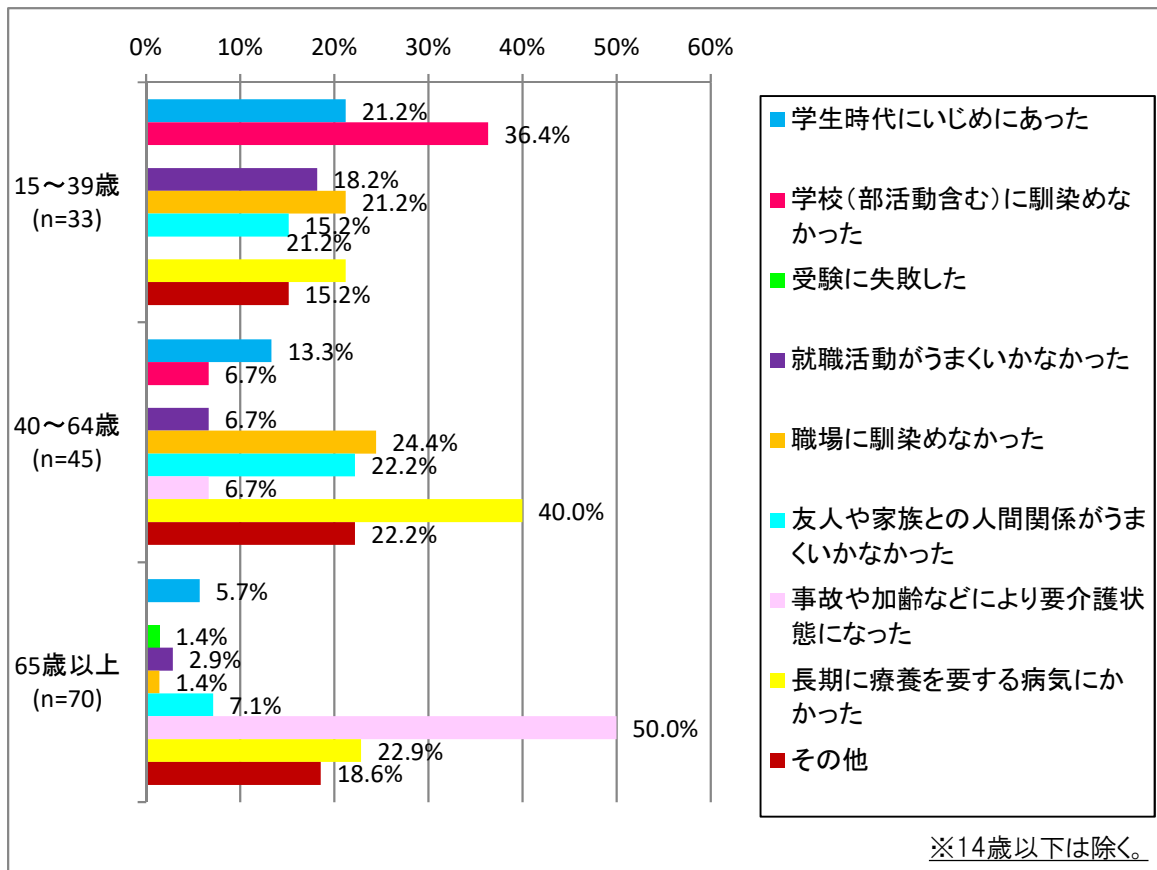
●年齢別にみると、15～39歳の場合、「3年未満」が42.4%、次いで「7年以上」30.3%、「3～7年」27.3%であった。40～64歳の場合、「7年以上」が55.0%、次いで「3年未満」25.0%、「3～7年」10.0%であった。65歳以上の場合、「3年未満」が36.1%、次いで「7年以上」34.0%、「3～7年」18.6%であった。



【図49】現在の状況になってからの期間(該当者の年齢別)

問15 その方が現在の状態に至ったきっかけについてお答えください。(〇はいくつでも)

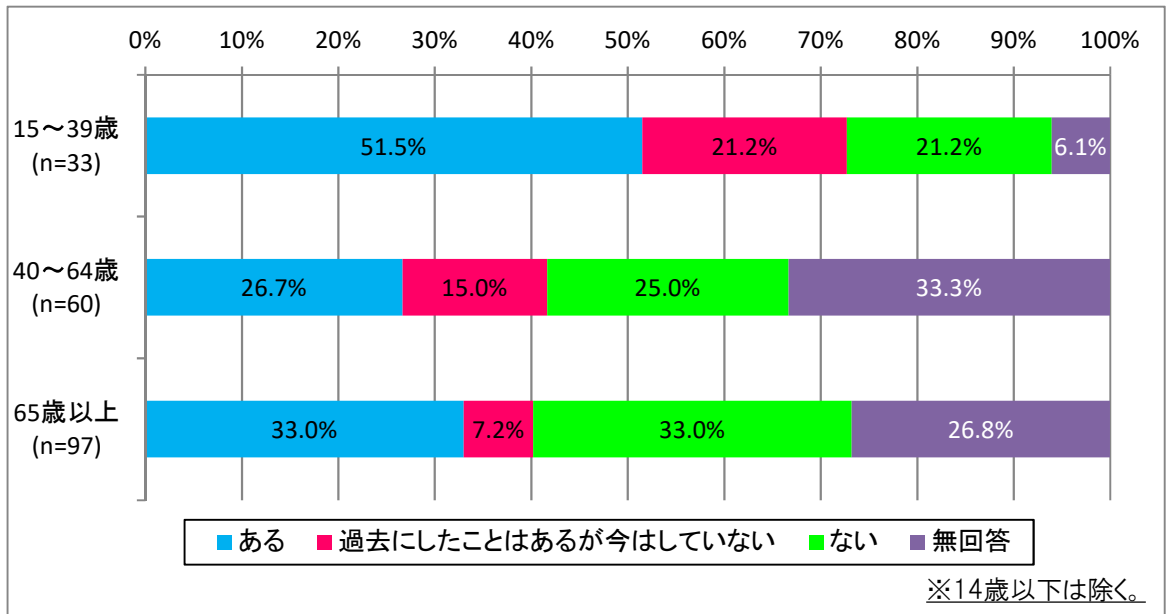
●年齢別にみると、15～39歳の場合、「学校(部活動含む)に馴染めなかった」が36.4%、次いで「学生時代にいじめにあった」「職場に馴染めなかった」がそれぞれ21.2%であった。40～64歳の場合、「長期に療養を要する病気にかかった」が40.0%、次いで「職場に馴染めなかった」24.4%であった。65歳以上の場合、「事故や加齢などにより要介護状態になった」が50.0%、次いで「長期に療養を要する病気にかかった」22.9%であった。



【図50】現在の状態に至ったきっかけ(該当者の年齢別)

問16 その方の現在の状態について、どなたかに相談したことはありますか。(○は一つだけ)

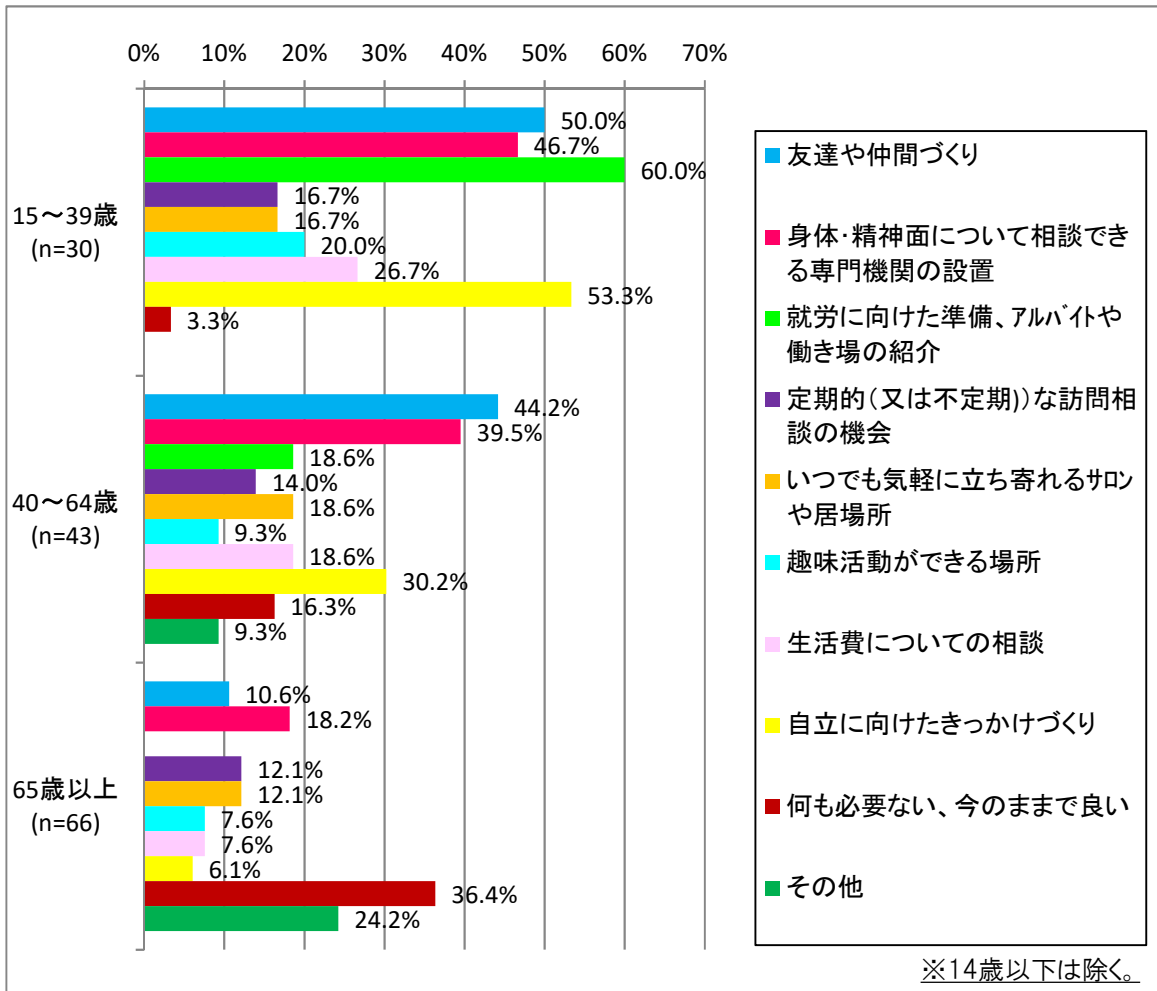
●年齢別にみると、15～39歳の場合、「ある」51.5%、「過去にしたことはあるが、今はしていない」21.2%であった。40～64歳の場合、「ある」26.7%、「相談したことがない」25.0%であった。65歳以上の場合、「ある」33.0%、「相談したことがない」33.0%であった。



【図51】現在の状態についての相談経験の有無(該当者の年齢別)

問17 その方にとって、これから必要と思われることはありますか。(〇はいくつでも)

●年齢別にみると、15～39歳の場合、「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」が60.0%、次いで「自立に向けたきっかけづくり」53.3%、「友達や仲間づくり」50.0%であった。40～64歳の場合、「友達や仲間づくり」が44.2%、次いで「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」39.5%、「自立に向けたきっかけづくり」30.2%であった。65歳以上の場合、「何も必要ない、今のままで良い」が36.4%、次いで「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」18.2%であった。



【図52】該当者にとって今後必要と思われること(該当者の年齢別)

調査結果 第Ⅱ部

1 調査結果の概要

調査結果 第1部の内容から、本調査問8において「家庭の中に（回答者自身を含めて）、仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方」が「いる」と回答した世帯が198世帯あったことや、近所付き合いや地域活動などつながりの希薄化を背景とした社会的孤立のひろがりが見られたこと等を踏まえ、津南町民のお困りごとにおいてひきこもり状態と思われる者がいる世帯に焦点をあて、日常生活の状態やお困りごと等について詳細に分析した。

(1) 本調査における「ひきこもり状態」の定義について

内閣府が実施した「若者の生活に関する調査（2016年9月結果公表）」並びに「生活状況に関する調査（2019年3月結果公表）」における「広義のひきこもり群」の定義を参考に、本調査における「ひきこもり状態」の操作的定義を次のとおりとする。

調査票の問8で「家庭の中に（回答者自身を含めて）仕事や学校に行かず、家族以外の人と交流をほとんどしない方」が世帯の中に「いる」と回答した中から、問10で「15歳以上64歳以下」に該当し、かつ、問15で「事故や加齢などにより要介護状態になった」以外の項目に該当する者。

なお、本調査結果から上記の操作的定義により「ひきこもり状態」と思われる者がいると回答した世帯は90世帯（有効回収数に占める割合3.5%）であった。

(2) 調査結果

「ひきこもり状態の者がいる世帯といない世帯の回答内容の比較を中心に」

① 基本属性（回答者全体）

ひきこもり状態の者がいる世帯の回答者は、男性64.4%、女性35.6%であった。年齢別では、20歳代1.1%、30歳代3.3%、40歳代7.8%、50歳代18.9%、60歳代33.3%、70歳代20.0%、80歳代12.2%、90歳以上3.3%であった。ひきこもり状態の者がいる世帯、いない世帯にかかわらず、回答者は50～70歳代が全体の約7割を占めた。【図53・54】

② 世帯構成は、「三世代家族」が最も多い

ひきこもり状態の者がいる世帯は、「三世代家族」が27.8%、「夫婦と子ども世帯」が21.1%、「夫婦のみ世帯」が17.8%、「ひとり暮らし世帯」が10.0%であった。それ以外の世帯では、「夫婦のみの世帯」が24.3%、「三世代家族」が21.8%、「ひとり暮らし世帯」が17.4%であった。【図55】

③ 日常生活における不安は、自分や家族の「健康・病気」や「収入」のこと

ひきこもり状態の者がいる世帯の回答者は、日常生活における不安として「自分の病気や健

康」、「家族の病気や健康」がそれぞれ6割を超え、次いで「収入」が5割強であった。

それ以外の世帯も同じ項目が5割以上と高い傾向であるが、「収入」は40.8%と、10ポイントほど低かった。また、「除雪」が両世帯ともに3割以上にのぼっていたことから、調査実施時期（冬季）や地域特性（豪雪地）を示していると考えられる。【図56】

④ 日常生活の心配ごと、悩みごとを相談できる相手がいる（8割以上）

ひきこもり状態の者がいる世帯では、相談相手がいらないは7.8%、それ以外の世帯では4.2%であった。なお、ひきこもり状態の者がいる世帯を該当者の年齢層別にみると、中高年層（40～64歳）がいる世帯では、相談相手がいらないが12.3%を占めていた。【図57・58】

⑤ 主な相談相手は、「配偶者」が5割以上（複数回答）

ひきこもり状態の者がいる世帯の主な相談相手は、「配偶者」54.5%、「子ども」26.0%、「友人・知人」24.7%で、それ以外の世帯の40.5%、32.0%と比べて低かった。一方で、「役場の人」は15.6%で、それ以外の世帯の3.7%より高かった。【図59】

ひきこもり状態の者がいる世帯では、若年層（15～39歳）がいる世帯は「配偶者」が67.7%、「友人・知人」が29.0%の順に割合が高かったが、中高年層（40～64歳）がいる世帯は「配偶者」が45.7%、「子ども」30.4%の順に割合が高かった。【図60】

⑥ 近所付き合いはある（9割以上）

回答者の近所付き合いの内容をみると、ひきこもり状態の者がいる世帯で最も多かったのは「あいさつを交わす程度」が60.7%で、それ以外の世帯の48.7%より10ポイント以上高かった。【図61・62】

⑦ 地域活動への参加者が多い（7割以上）

回答者の地域活動について、ひきこもり状態の者がいる世帯では「参加したことがない」が8.9%で、それ以外の世帯より2倍以上高かった。年齢層別にみると、中高年層（40～64歳）がいる世帯は「過去に参加していたが今は参加していない」が26.3%を占め、若年層（15～39歳）がいる世帯の3倍近かった。さらに、該当者が「女性」の方が回答者の「地域活動への参加」が低かった。【図63・64・65】

「ひきこもり状態の者の生活状況（若年層と中高年層の比較を中心に）」

⑧ ひきこもり状態の者がいる世帯は90世帯（全体の3.5%）

ひきこもり状態の者がいる世帯の内、該当者が「2人以上」いる世帯は8世帯（8.9%）であった。ほとんどの世帯ではひきこもり状態の者が1人であったが、該当者が複数名いる世帯が1割弱確認できた。【図67】

⑨ ひきこもり状態にあたる世帯員（回答者との続柄）

「子ども（未婚）」が、若年層（15～39歳）72.7%、中高年層（40～64歳）38.6%と最も高かった。「本人」は、若年層6.1%、中高年層19.3%であった。【図72】

⑩ 男性が 56.7%、女性が 40.0%

ひきこもり状態の者がいる世帯における該当者の年齢をみると、10 歳代 10.0%、20 歳代 10.0%、30 歳代 16.7%、40 歳代 21.1%、50 歳代 22.2%、60 歳代 20.0%であった。これを便宜的に 2 つに分けると、若年層（15～39 歳）が 33 人（36.7%）、中高年層（40～64 歳）が 57 人（63.3%）であった。【図 68・69・70】

若年層では男性 63.6%、女性 36.4%、中高年層では男性 52.6%、女性 42.1%であった。ともに男性の比率が高く、特に若年層では 6 割を超えていた。【図 78】

⑪ ひきこもり状態の者の交流の状況（複数回答）

若年層（15～39 歳）では「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」が 66.7%であり、次いで「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」が 36.4%であった。なお、SNS 等の利用については、中高年層（40～64 歳）では 15.7%であり、若年層の方が 2 倍以上高かった。【図 80】

⑫ ひきこもり状態の者の外出状況（複数回答）

若年層（15～39 歳）では「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」が 48.5%、中高年層（40～64 歳）では「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」が 55.8%と最も高かった。一方、「ほとんど外出しない」は若年層では 36.4%で、中高年層の 19.2%を上回った。男女別では、「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」が、女性 32.4%に対して男性 56.3%であった。女性は、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」が 52.9%で、男性の 41.7%を上回った。【図 83・84】

⑬ ひきこもり状態になった期間

ひきこもり状態の期間は、「3 年未満」は 31.1%、「3 年～7 年未満」15.6%、「7 年以上」46.7%であった。若年層（15～39 歳）では、「3 年未満」が 42.4%、中高年層（40～64 歳）では「7 年以上」が 56.1%と最も高かった。男女ともに「7 年以上」が 5 割弱を占めていた。【図 71・86・87】

⑭ ひきこもり状態に至ったきっかけ（複数回答）

若年層（15～39 歳）では「学校（部活動含む）に馴染めなかった」が 36.4%と最も高く、次いで「職場に馴染めなかった」「学生時代にいじめにあった」「長期に療養を要する病気にかかった」が 21.2%であった。中高年層（40～64 歳）では、「長期に療養を要する病気にかかった」40.5%、「職場に馴染めなかった」26.2%、「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」23.8%の順に割合が高かった。ひきこもり状態の期間別では、「3 年～7 年未満」において、「長期に療養を要する病気にかかった」50.0%と高かった。【図 89・91】

⑮ ひきこもり状態について相談経験の有無

若年層（15～39 歳）は、相談経験が「ある」が 51.5%に対し、中高年層（40～64 歳）は 22.8%と低かった。男女別では、相談経験が「ある」が女性 47.2%に対して男性 25.5%で、女性の方が相談経験が高かった。また、「ある」と回答した者のうち期間別では、「3 年～7 年

未満」が 57.1%で最も高く、「7年以上」は 31.0%であった。【図 92・93・94】

⑩ これから必要と思われることについて（複数回答）

若年層（15～39 歳）の 60%が「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」を選択していた。次いで「自立に向けたきっかけづくり」が 53.3%、「友だちや仲間づくり」が 50.0%であった。中高年層（40～64 歳）は、「友だちや仲間づくり」が 42.5%、「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」40.0%であった。

期間別でみると、「友だちや仲間づくり」が「3 年未満」50.0%、「3 年～7 年未満」75.0%と最も高かった。「7 年以上」では、「自立に向けたきっかけづくり」42.9%が最も高かった。

【図 95・97】

表 1. 津南町におけるひきこもり状態の者の世代間比較

項目	世代	若年層（15～39 歳）	中高年層（40～64 歳）
1 性別		男性が多い	
2 続柄		子ども（未婚）の割合が高い	
3 期間		短・中期化の傾向 （3 年未満が 4 割強）	長期化の傾向 （7 年以上が 5 割強）
4 交流の状況		家族以外の人とは交流が乏しい	
5 外出状況		普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある （約 5 割）	普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある （5 割以上）
6 今の状況になったきっかけ		①学校（部活動含む）に馴染めなかった ②職場に馴染めなかった ②学生時代にいじめにあった ②長期に療養を要する病気にかかった	①長期に療養を要する病気にかかった ②職場に馴染めなかった ③友人や家族との人間関係がうまくいかなかった
7 相談経験の有無		ある（5 割以上）	ある（約 2 割）
8 これから必要と思われること		①就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介 ②自立に向けたきっかけづくり ③友だちや仲間づくり ④身体・精神面について相談できる専門機関の設置 ⑤生活費についての相談 ⑥趣味活動ができる場所	①友だちや仲間づくり ②身体・精神面について相談できる専門機関の設置 ③自立に向けたきっかけづくり ④就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介 ④生活費についての相談 ⑥いつでも気軽に立ち寄れるサロンや居場所

(3) 調査結果から見えてきたもの

① 世帯構成において、「三世代家族」、「配偶者」、「親」の同居率が高い

現在の生活が維持できているのは、同居家族の収入や様々な支えによるものであると考えられる。該当者が一人になった時の生活力が懸念される。

② 日常生活の不安は、自分や家族の「健康や病気」と「収入」

現在の心身状況と将来の生活への不安が読み取れる。今回の調査においては、ひきこもり状態の原因となった病気（精神疾患等）の詳細までは明らかにできなかったが、対人関係や該当者の内面的な要因が原因の場合には、その状態に応じた適切なケアが必要である。また、この状態が長期化することにつれて生活の困窮化が懸念される。

③ 日常的な相談相手が限られている（回答者）

困り事などの主な相談相手が身内だけである場合が多く、該当者が中高年層においては職場の同僚・上司が一番低かった。

④ 同一世帯内に複数の該当者がいる場合がある

これまでは、ひきこもり状態の者＝子（若者）＝一人というイメージが強かったが、今回の調査から兄弟姉妹・親子などの一世帯に2人以上の該当者がいる場合を考慮する必要が出てきた。

⑤ 世代やひきこもった期間の長短によって、異なる対応が必要

表1のように、世代及びひきこもり状態の期間によって当事者の傾向や意向が違う。ひきこもり＝画一的な支援では対応できないことがわかる。

⑥ 外出状況や就労経験の有効活用

該当者の一定の外出状況、中高年層においてはなんらかの働いた経験を潜在能力と捉え、解決の原動力につなげることが重要である。

⑦ ひきこもり状態の者に対して充分に対応できる専門人材の確保・育成、地域住民の協力

現状の施策で早急な対応が難しい中、今後の施策転換には時間がかかる。現実的には、対応可能な受け皿も十分とはいえない。ひきこもりに関する専門的知識と実践力を持つ人材の確保のために関係機関の協力とネットワークづくりが必要である。

⑧ 就労や自立に関する支援と友だち・仲間や居場所づくりを取り分けた支援

表1のように、該当者たちがこれから希望していることが異なっている。これまでのひきこもり支援が若者の就労、自立支援を中心に進められてきたが、これからは就労の場、家庭、第3の居場所づくりが重要である。また本人と家族の望みのすれ違いがないようにマッチングするアプローチが必要である。

⑨ 地域住民の理解と協力

近所付き合いや地域活動への参加率が高い傾向から、近隣住民との関係が希薄化しているとは言えない状況と思われる。今後、仲間や居場所づくりにおける地域住民の柔軟な対応、住民主体の支援体制づくりが有効と考えられる。子どもの貧困をきっかけに全国的に広がりつつある子ども食堂の取り組みが良い実践例である。

⑩ 相談機能の強化・拡大・技術力アップ

ひきこもり状態の者の状態について、誰にも相談したことがないと回答した割合が2割を超えている。最近起きた一連の事件の影響で、一部のメディアからはひきこもり状態の者に対する偏見や不安、その家族にも不安が広がりつつあると報道された。今後、当事者や家族からの相談が増えると予測される中、相談機能の強化が重要である。また、ひきこもりの実態を把握するためには地域へ出向いて、本人の意向を最大限に尊重しながら手を差し伸べるアウトリーチ手法の活用が望ましい。

⑪ 本人の自尊心を守りながら、現状の原因や本人を責めない

これから必要と思われることについて、「何も必要ない、今のままで良い」は、若年層（15～39歳）で3.3%、中高年層（40～64歳）で15.0%と低い割合となっているが、そのように思われている人たちへの支援も重要である。特に中高年層においては、今までの生活経験を考慮する必要があり、現状だけを見て「支援する」という姿勢ではなく、当事者には「〇〇を手伝ってもらいたい」、「〇〇を助けてほしい」、「〇〇に力になってほしい」という気持ちを伝える姿勢が重要である。

⑫ 家族への支援

相談相手、外出同行、生活の支えなど家族の存在は大きい。しかし、何をしてあげれば良いのかわからないまま苦しむ家族も多いと思われる。ひきこもり状態が長くなればその分、家族の負担も重くなる。相談や支援に関する情報提供を含めて、家族が孤立しないよう、家族会の広報の促進や、近隣住民、他の支援者等とつながることが重要である。

⑬ 本人も家族もあきらめていない

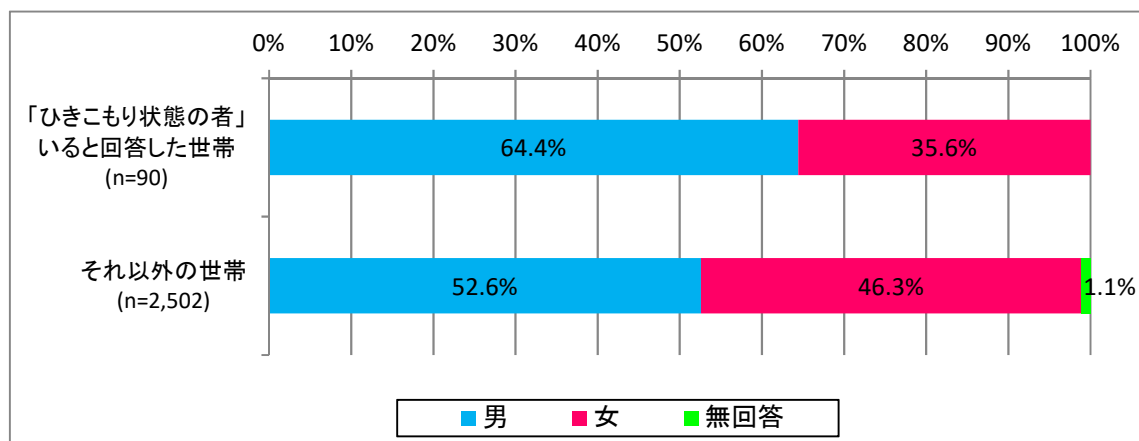
これから必要と思われることについて、該当者が若年層の場合、「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」「自立に向けたきっかけづくり」、中高年層の場合、「友達や仲間づくり」「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」の割合が高くなっていた。現在の状況から立ち直りたいと思っている当事者や家族への適切なかわりが重要である。

2 クロス集計の結果

★問1～問8はすべての方がお答えください。(世帯のうち1名の方が代表してご記入ください。)

問1 あなたの性別を教えてください。(○は一つだけ)

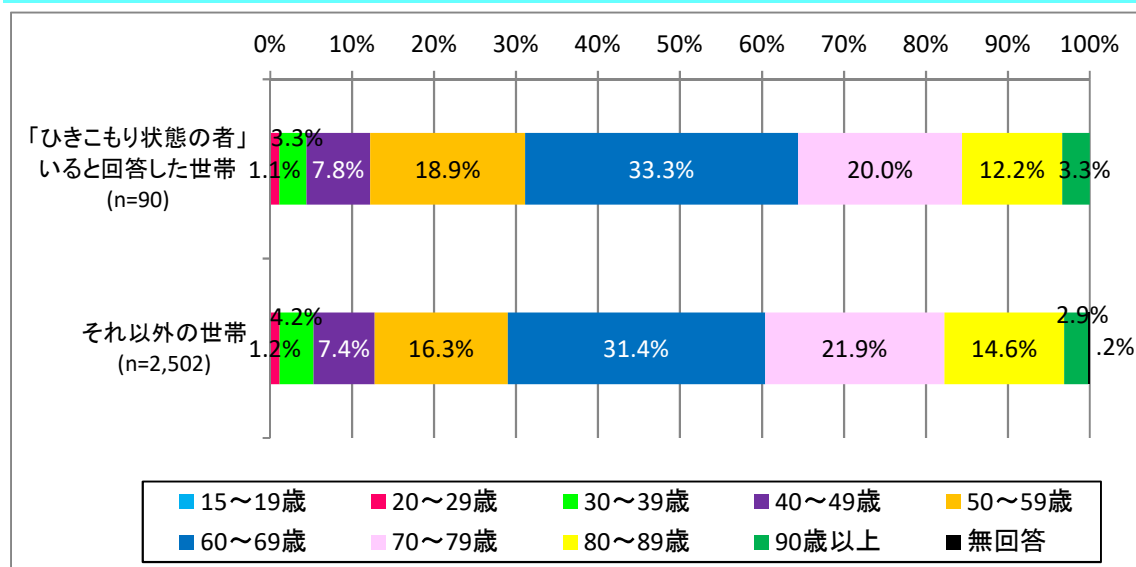
- 「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯では、「男性」64.4%、「女性」35.6%であった。
- それ以外の世帯では、「男性」52.6%、「女性」46.3%であった。



【図53】回答者の性別(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。(○は一つだけ)

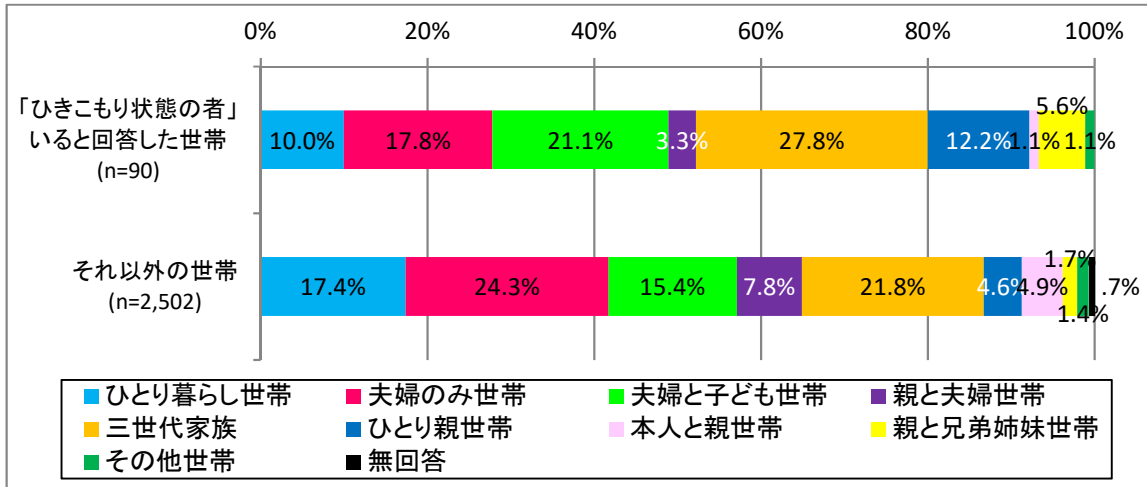
- 「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯では、割合の高い順に、「60～69歳」33.3%、「70～79歳」20.0%、「50～59歳」18.9%であった。
- それ以外の世帯では、割合の高い順に、「60～69歳」31.4%、「70～79歳」21.9%、「50～59歳」16.3%であった。



【図54】回答者の年齢(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

問3 あなたは現在どなたと住んでおられますか。(〇はいくつでも)

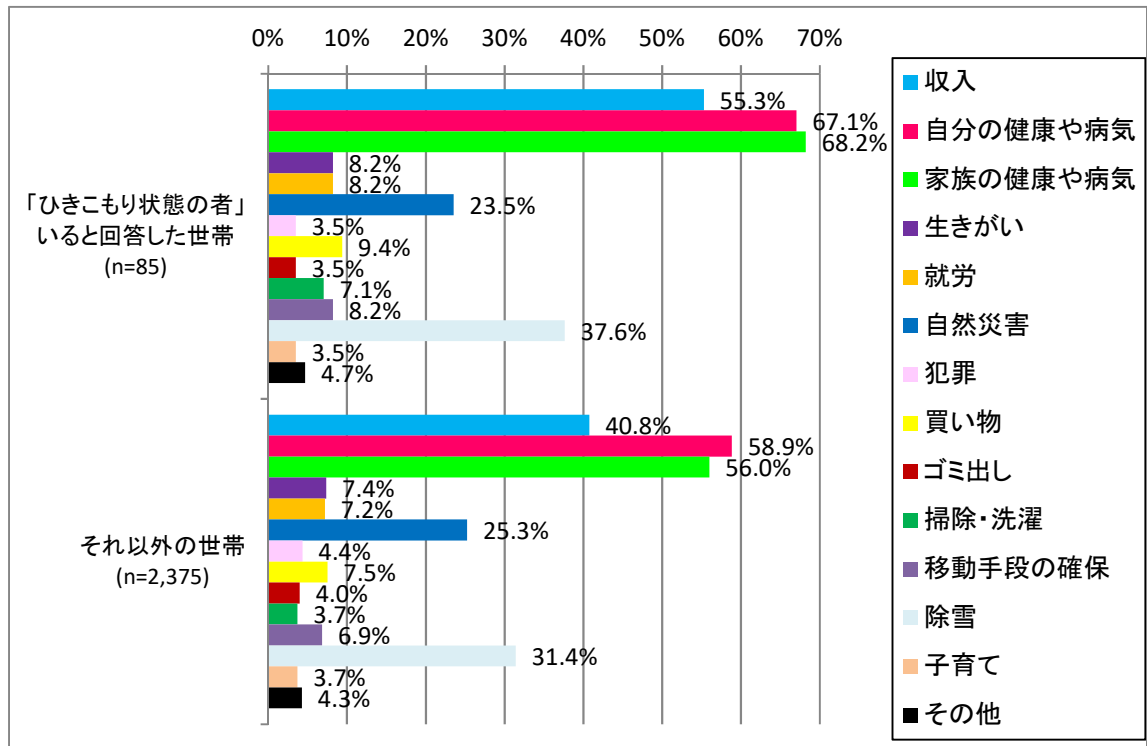
●世帯構成は、「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯では、割合の高い順に、「三世代家族」27.8%、「夫婦と子ども世帯」21.1%、「夫婦のみ世帯」17.8%であった。
 ●それ以外の世帯では、割合の高い順に「夫婦のみ世帯」24.3%、「三世代家族」21.8%、「ひとり暮らし世帯」17.4%であった。



【図55】世帯構成(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

問4 あなたが日常生活において不安に思っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

●「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯では、割合の高い順に、「家族の健康や病気」68.2%、「自分の健康や病気」67.1%、「収入」55.3%であった。
 ●それ以外の世帯では、割合の高い順に、「自分の健康や病気」58.9%、「家族の健康や病気」56.0%、「収入」40.8%であった。



【その他の内容(※回答の一部を抜粋)】

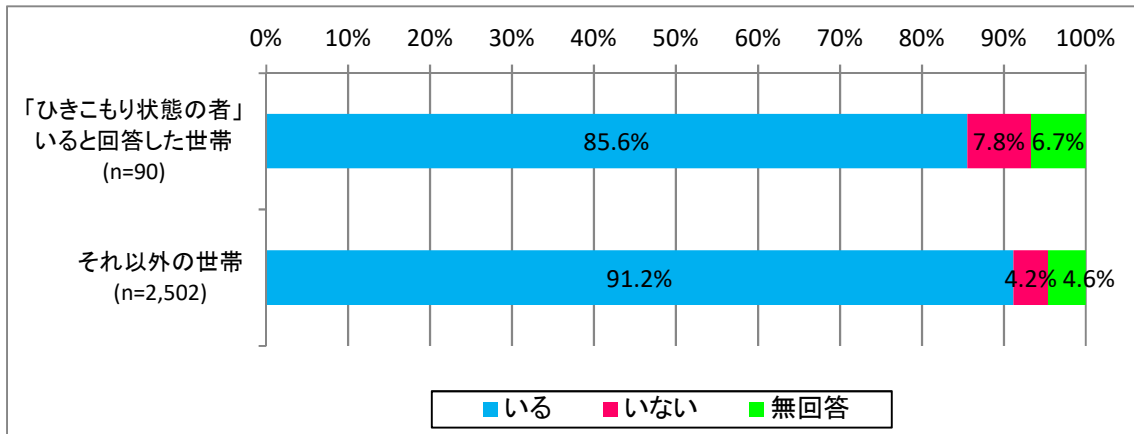
- 親の介護
- 自分達の老後や子供たちの将来
- 田畑の管理
- 自分たちが亡くなった後の家の始末
- 子どもの結婚
- 子どもの就労
- 冬場の道路の悪さ(国道以外)
- 近所付き合い
- 就労企業不足

【図56】日常生活上の不安(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

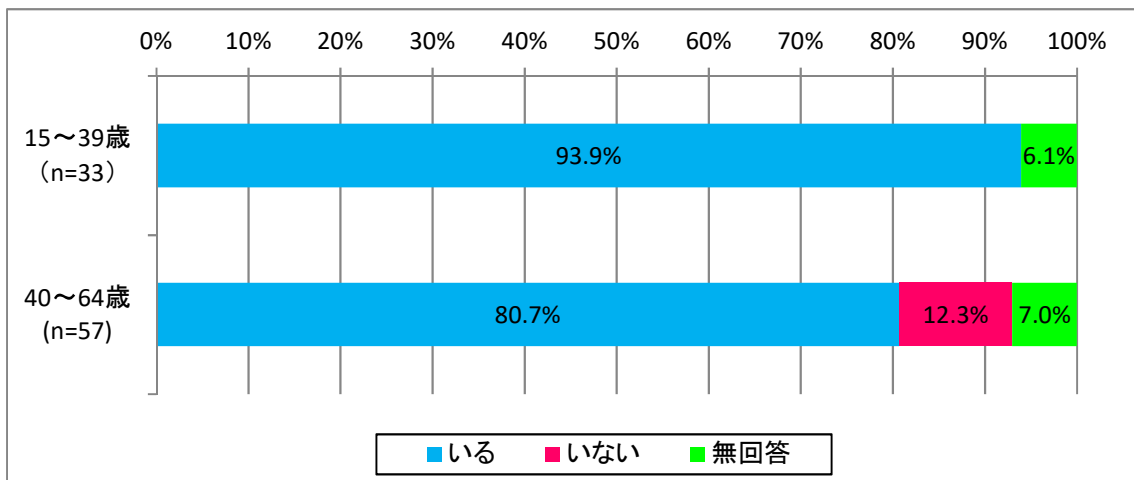
問5 あなたは日常生活の心配ごとや悩みごとの相談を誰にしますか。(〇はいくつでも)

(1)相談相手の有無

- 「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯では、「いる」85.6%、「いない」7.8%であった。
- それ以外の世帯では、「いる」91.2%、「いない」4.2%であった。
- なお、「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯において、該当者の年齢層別に相談相手の有無をみると、中高年層(40～64歳)がいる世帯では、相談相手がないが12.3%であった。



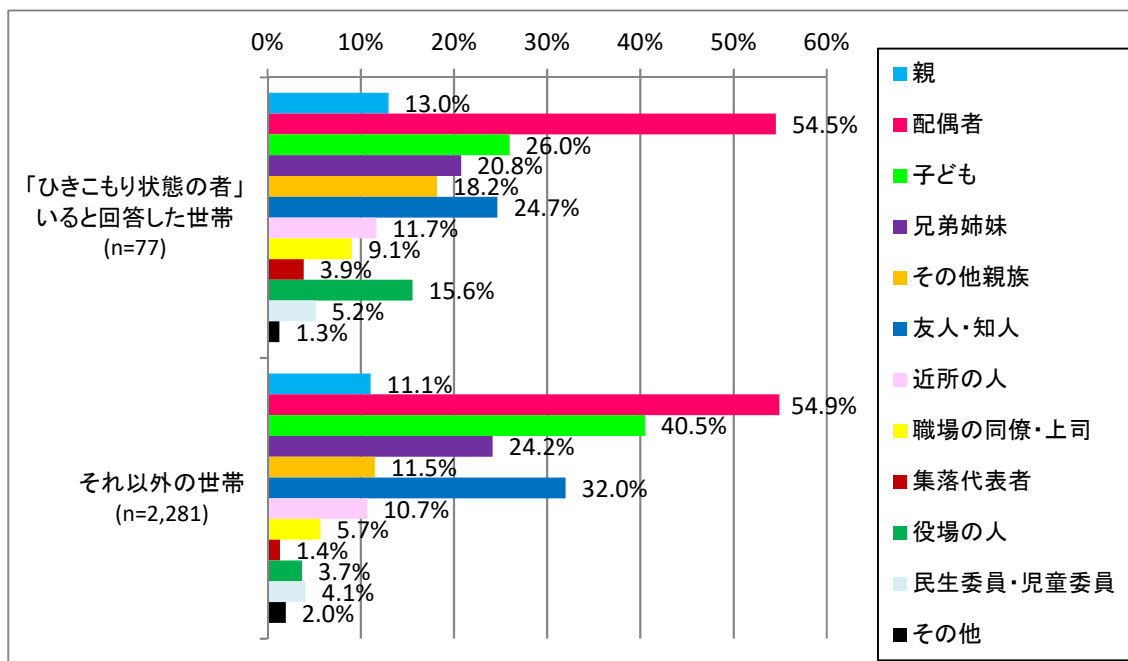
【図57】日常生活における心配ごと等の相談相手の有無
(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)



【図58】日常生活における心配ごと等の相談相手の有無
(ひきこもり状態の者いる世帯における該当者の年齢層別)

(2)相談相手が「いる」場合の相談相手

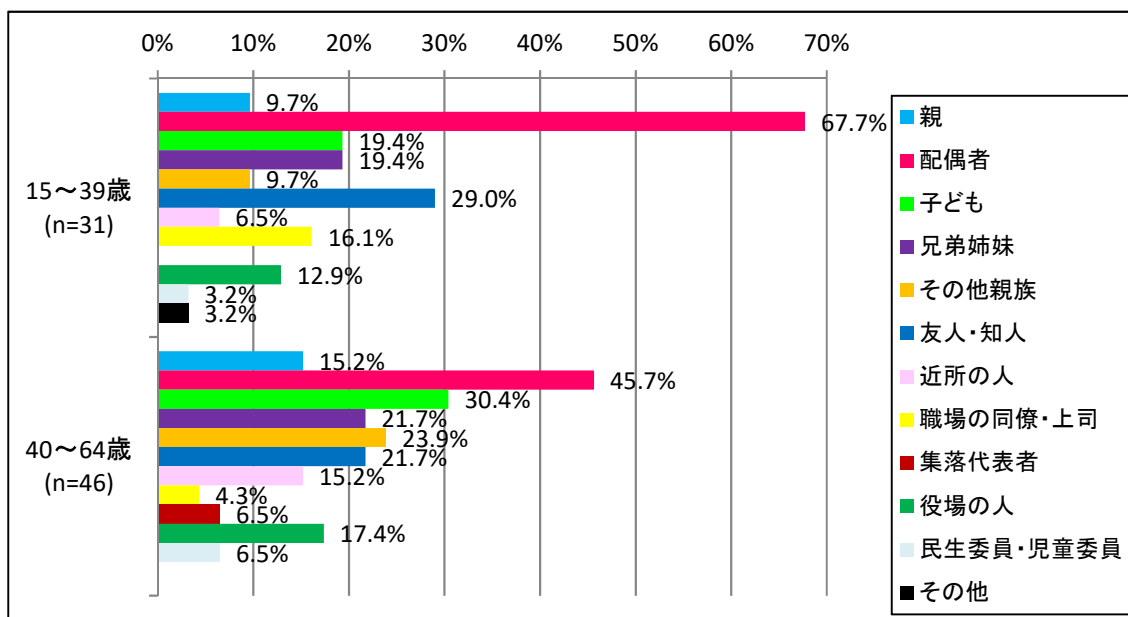
- 「ひきこもり状態の者」と回答した世帯では、割合の高い順に、「配偶者」54.5%、「子ども」26.0%、「友人・知人」24.7%であった。
- それ以外の世帯では、割合の高い順に、「配偶者」54.9%、「子ども」40.5%、「友人・知人」32.0%であった。
- なお、「ひきこもり状態の者」と回答した世帯において、年齢層別に相談相手を見ると、若年層(15歳～39歳)がいる世帯では「配偶者」67.7%、「友人・知人」29.0%の順であったが、中高年層(40歳～64歳)がいる世帯では「配偶者」45.7%、「子ども」30.4%の順であった。



【その他の内容(※回答の一部を抜粋)】

- ケアマネージャー ● 医師 ● 町 ● 社会福祉協議会
- 相談支援センター ● 学校 ● 保育園 ● 町外の同じ悩みを持つ人
- 相談しない

【図59】日常生活における心配ごとの相談相手(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

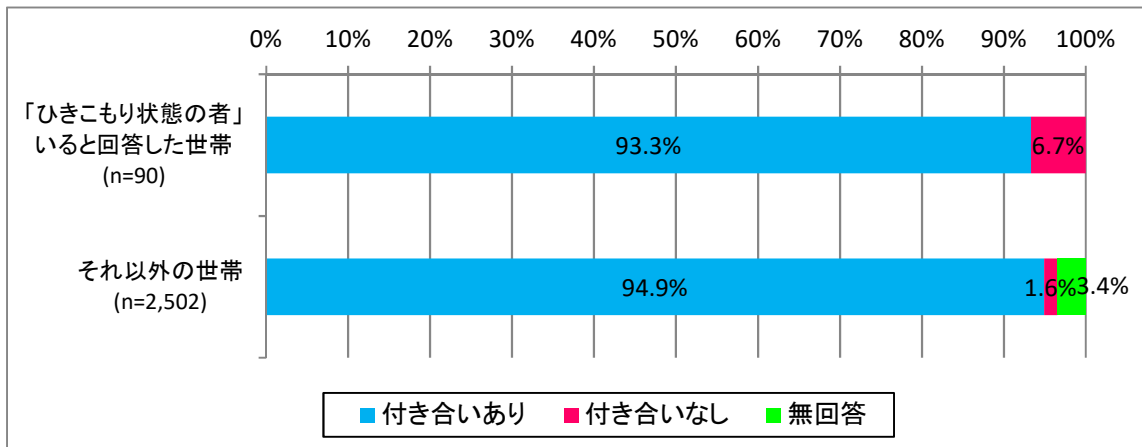


【図60】日常生活における心配ごとの相談相手
(ひきこもり状態の者いる世帯における該当者の年齢層別)

問6 あなたの近所の方との付き合いの状況についてお聞きます。(〇はいくつでも)

(1) 近所付き合いの有無

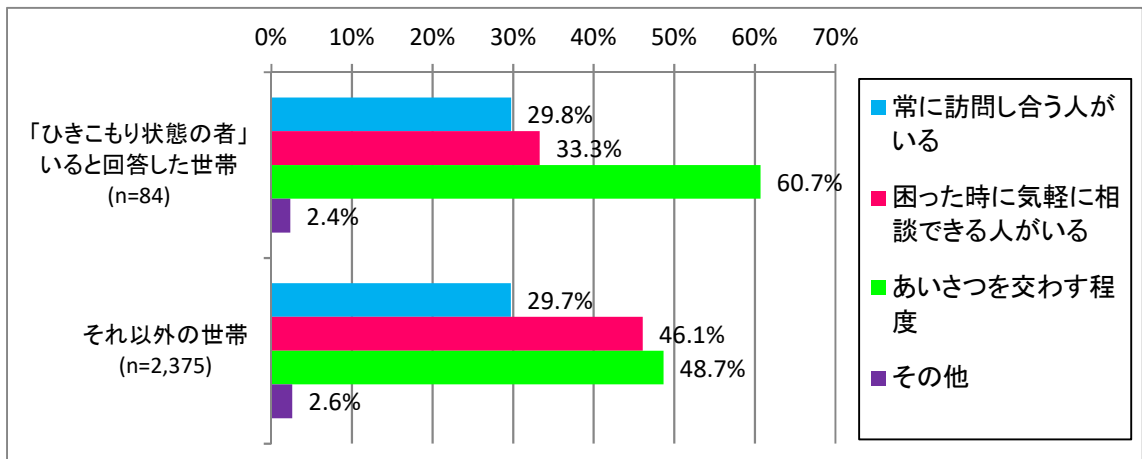
- 「ひきこもり状態の者」と回答した世帯では、「付き合いあり」93.3%、「付き合いなし」6.7%であった。
- それ以外の世帯では、「付き合いあり」94.9%、「付き合いなし」1.6%であった。



【図61】近所付き合いの有無(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

(2) 近所付き合い「あり」の場合の状況

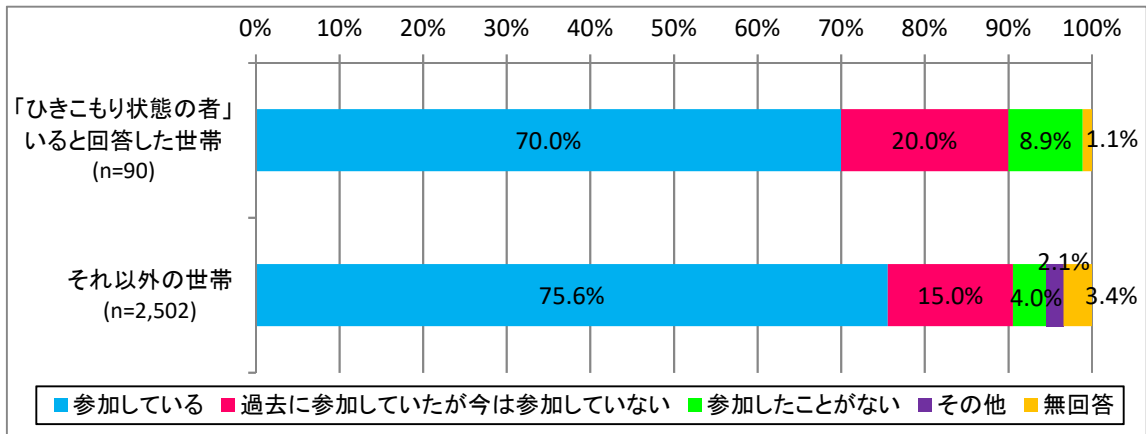
- 「ひきこもり状態の者」と回答した世帯では、割合の高い順に、「あいさつを交わす程度」60.7%、「困った時に気軽に相談できる人がいる」33.3%、「常に訪問し合う人がいる」29.8%であった。
- それ以外の世帯では、割合の高い順に、「あいさつを交わす程度」48.7%、「困った時に気軽に相談できる人がいる」46.1%、「常に訪問し合う人がいる」29.7%であった。



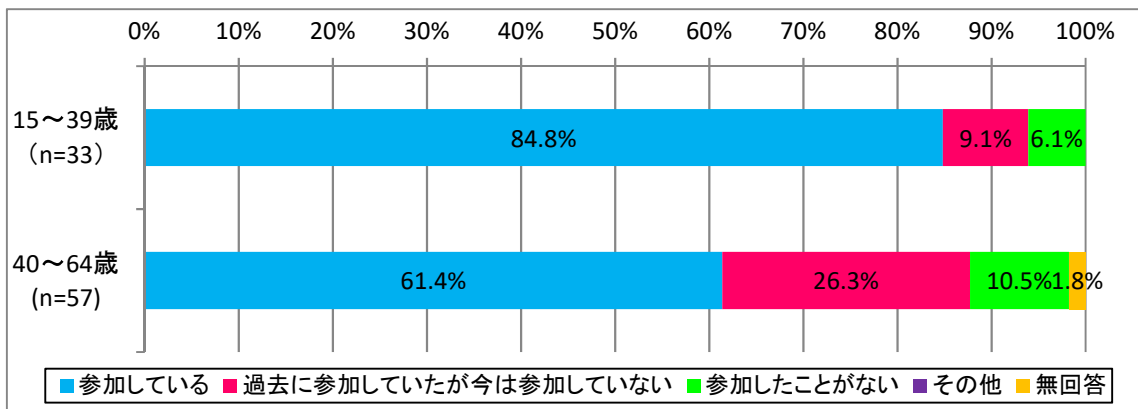
【図62】近所付き合いの状況(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

問7 あなたはお住まいの地域で行っている地域活動(地域の祭りや町内の清掃活動など)に参加していますか。(○は一つだけ)

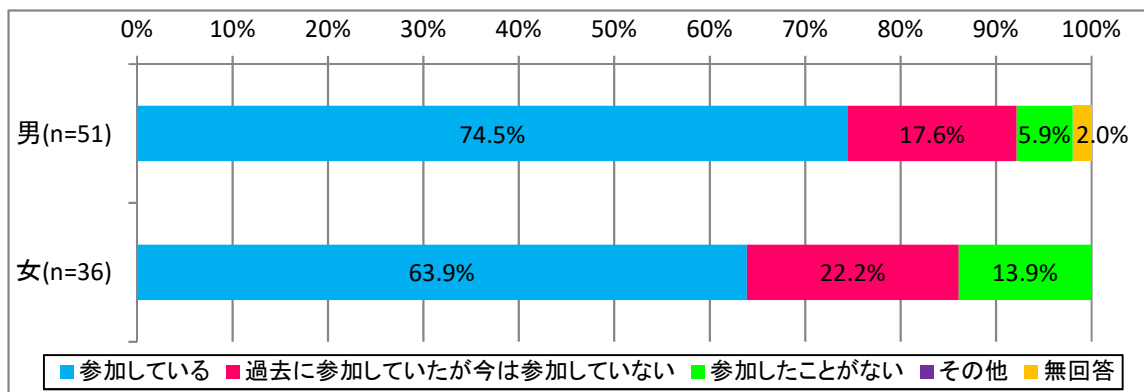
- 「ひきこもり状態の者」と回答した世帯では、「参加している」70.0%、「過去に参加していたが今は参加していない」20.0%、「参加したことがない」8.9%であった。
- それ以外の世帯では、「参加している」75.6%、「過去に参加していたが今は参加していない」15.0%、「参加したことがない」4.0%であった。
- なお、「ひきこもり状態の者」と回答した世帯において、該当者の年齢層別に地域活動への参加状況を見ると、中高年層(40～65歳)がいる世帯では「過去に参加していたが今は参加していない」26.3%と、若年層(15～39歳)がいる世帯よりも3倍近く高かった。また、「ひきこもり状態の者」が女性の方が、回答者の地域活動への参加が低かった。



【図63】地域活動への参加状況(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)



【図64】地域活動への参加状況(ひきこもり状態の者いる世帯における該当者の年齢層別)

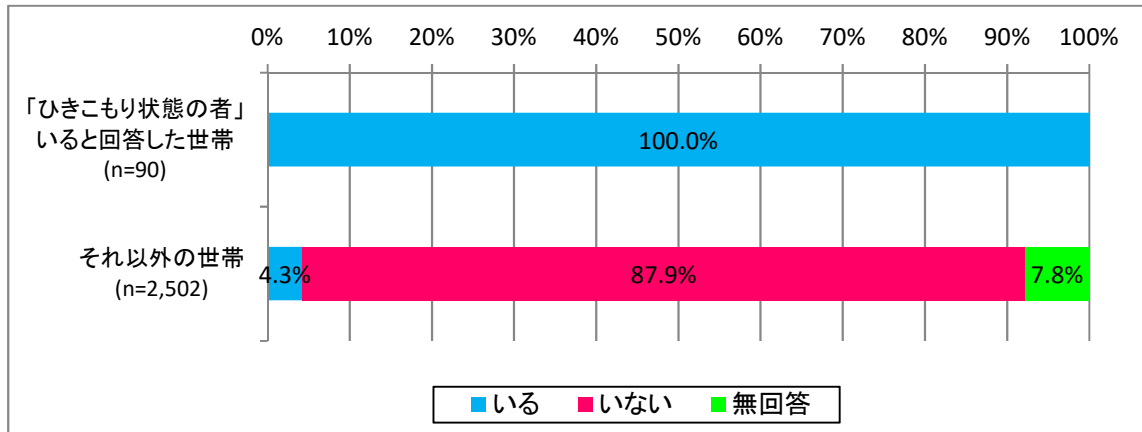


【図65】地域活動への参加状況(ひきこもり状態の者いる世帯における該当者の男女別)

問8 あなたのご家庭の中に(回答者自身を含めて)、仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方はいらっしゃいますか。(○は一つだけ)
 いらっしゃる場合はその人数もご記入ください。

(1)「仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方」の有無

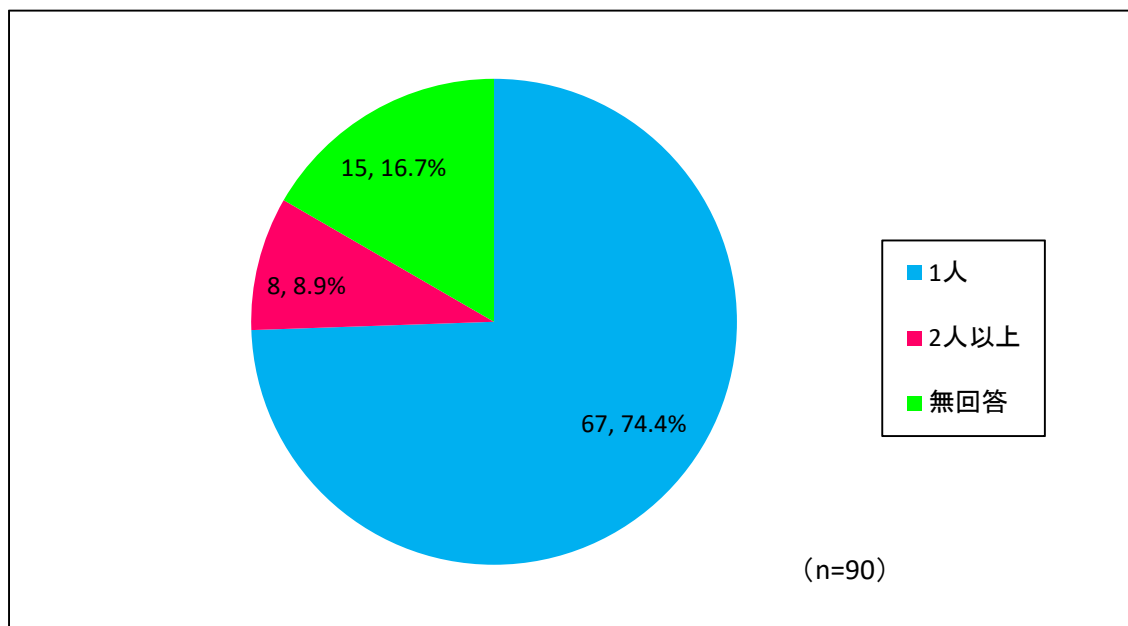
●「ひきこもり状態の者」いると回答した全90世帯において「いる」と回答。(有効回答数全体(2,592世帯)に占める割合は3.5%)



【図66】仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流がほとんどない方の有無(ひきこもり状態の者いる世帯とそれ以外の世帯の別)

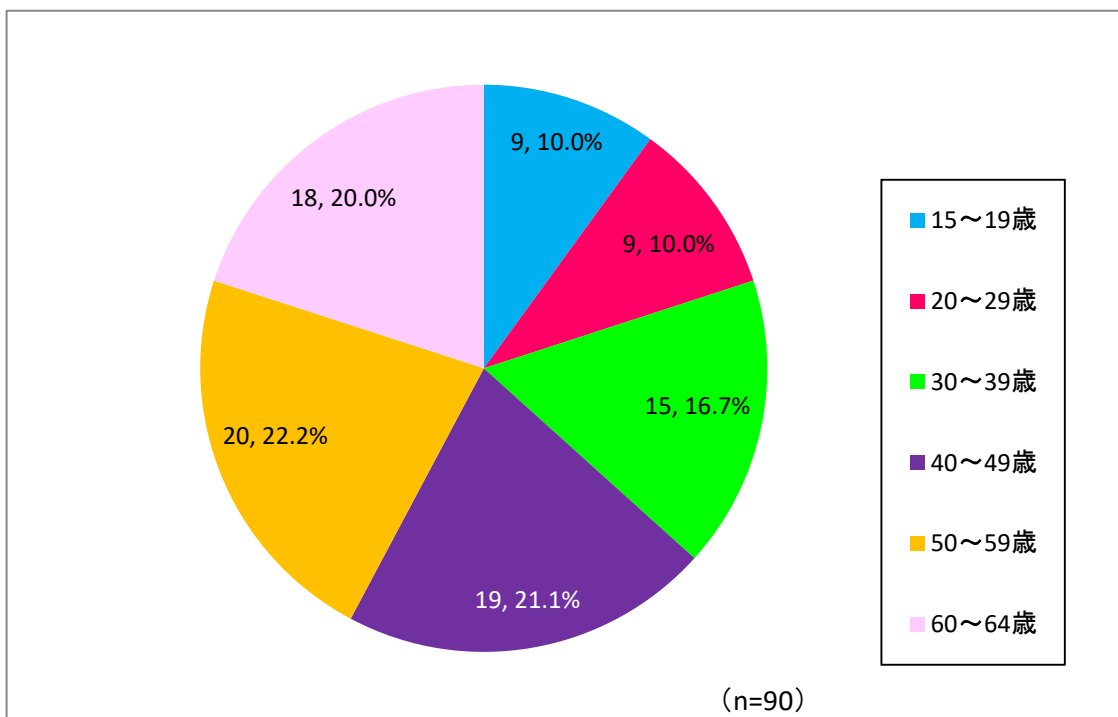
(2)「仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方」がいる世帯における該当者の人数

●「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯において、世帯内における該当者の人数を「1人」と回答した者が67人(74.4%)、「2人以上」と回答した者が8人(8.9%)であった。

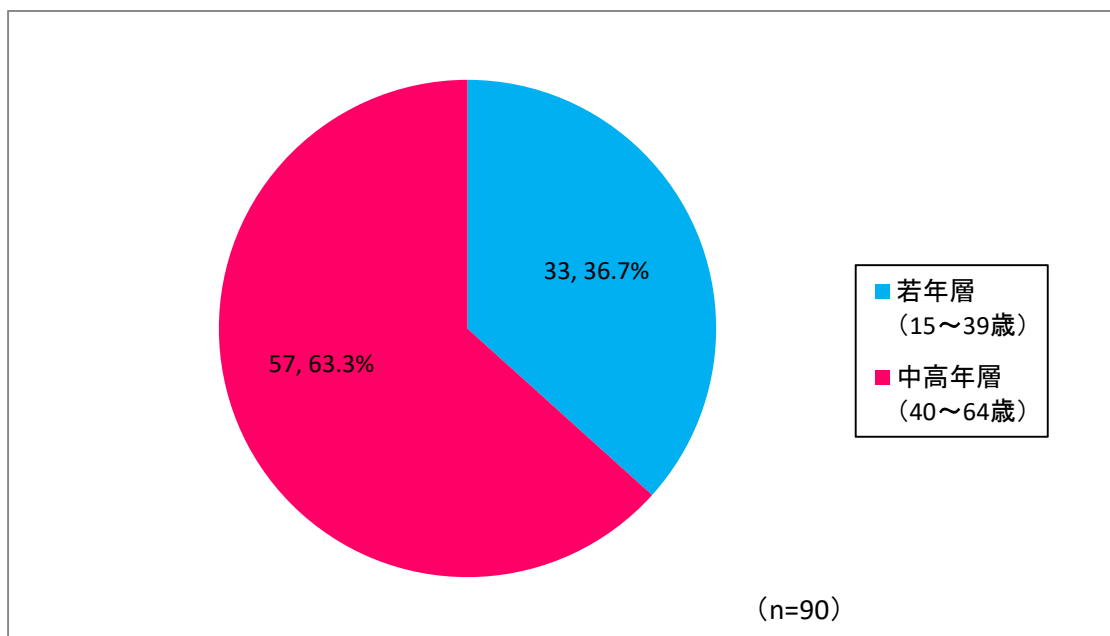


【図67】ひきこもり状態の者いる世帯における該当者の世帯内人数

●「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯において、該当者の年齢をみると10歳代と20歳代がそれぞれ9人(10.0%)、30歳代が15人(16.7%)、40歳代が19人(21.1%)、50歳代が20人(22.2%)、60歳代が18人(20.0%)であった。
 ●これを便宜的に2つの区分に分けると、若年層(15～39歳)が33人(36.7%)、中高年層(40～64歳)が57人(63.3%)であった。

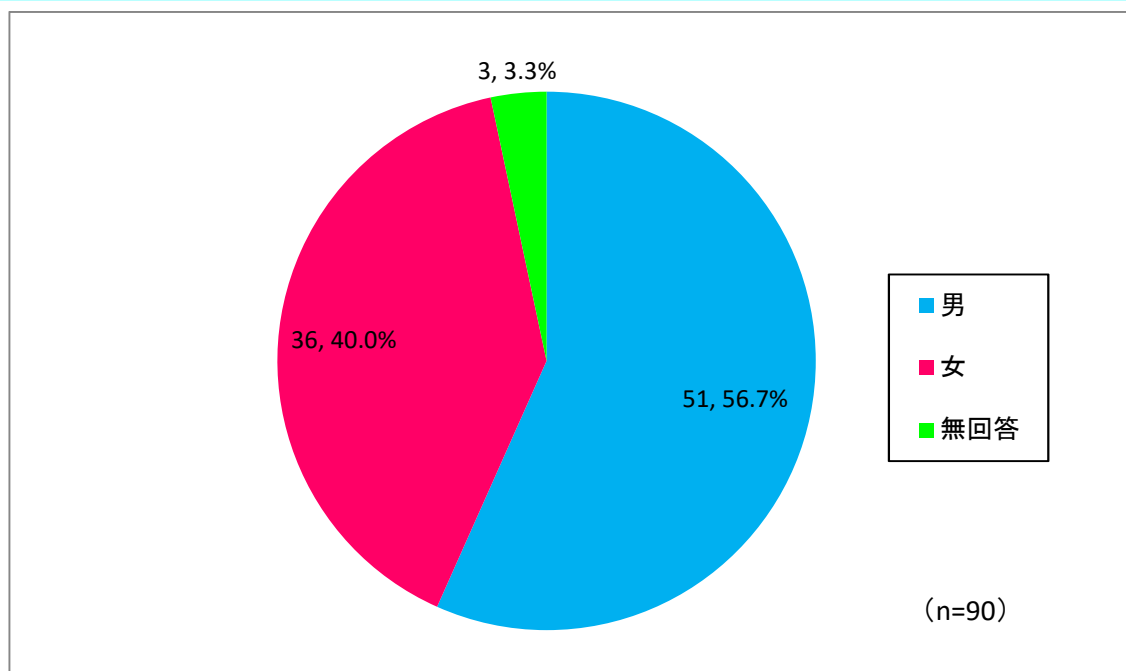


【図68】該当者の年齢



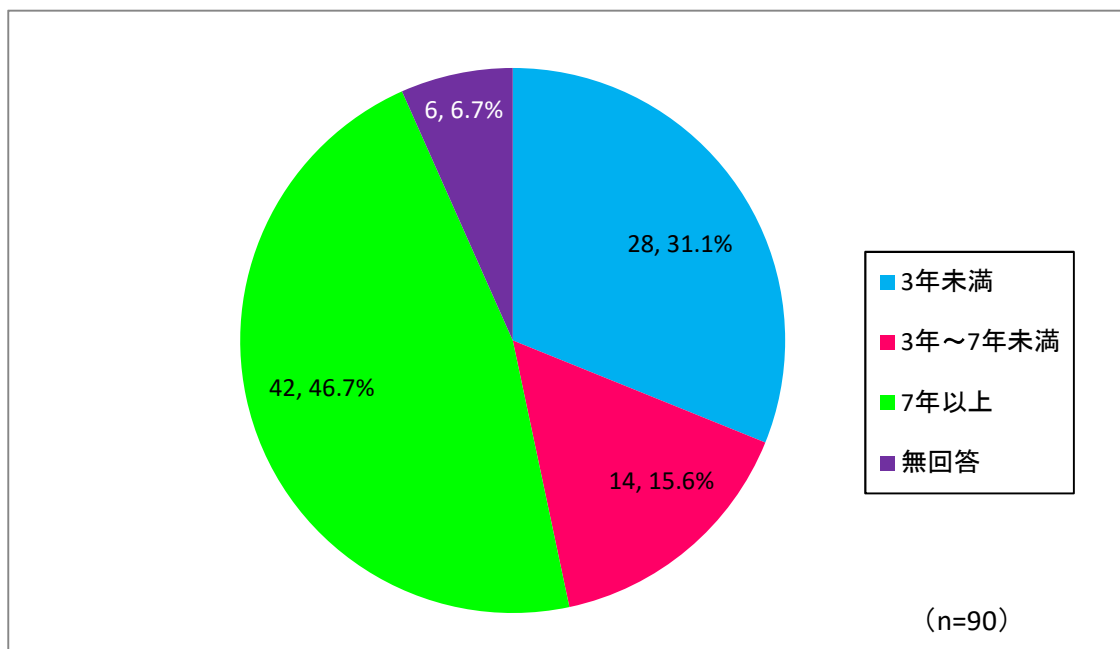
【図69】該当者の年齢(2区分)

●「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯において、該当者の性別をみると、「男性」が51人(56.7%)、「女性」が36人(40.0%)であった。



【図70】該当者の性別

●「ひきこもり状態の者」いると回答した世帯において、該当者のひきこもり状態の期間をみると、「3年未満」が28人(31.1%)、「3年～7年未満」が14人(15.6%)、「7年以上」が42人(46.7%)であった。



【図71】該当者のひきこもり状態の期間(3区分)

問9～問17は、「ひきこもり状態の者がいる世帯」(90世帯)を対象とした上で、各設問について下記3類型のクロス集計をした結果を記載した。

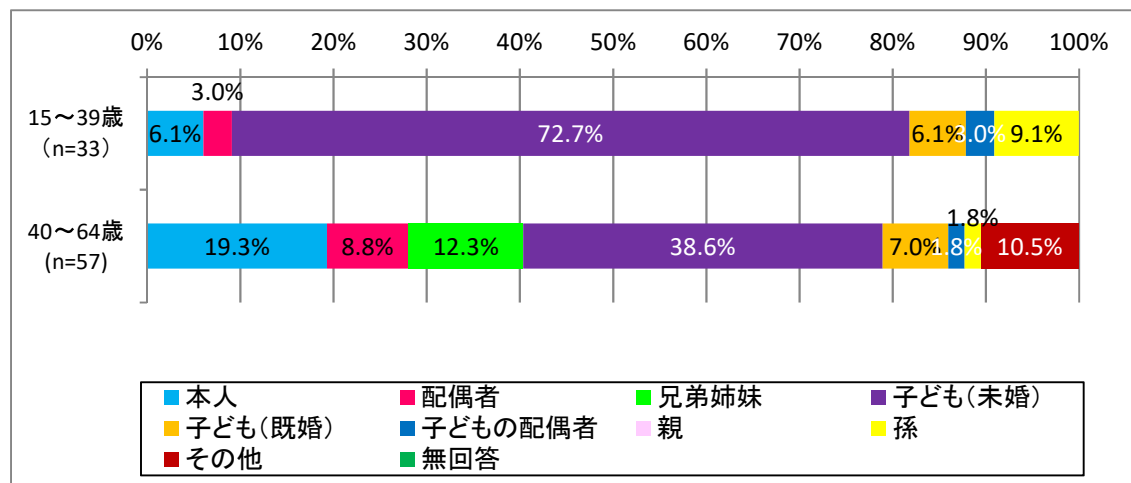
- ① 該当者の年齢層別(若年層(15歳～39歳)／中高年層(40～64歳)の別)
- ② 該当者の男女別(男／女の別 ※無回答を除く)
- ③ 該当者のひきこもり状態の期間別(3年未満／3年～7年未満／7年以上の別 ※無回答を除く)

なお、「ひきこもり状態の者」が2人以上いる世帯においては、そのうち年齢の一番低い者の状況が回答対象となっている。

問9 あなたとの続柄をお答えください。(○は一つだけ)

●若年層(15～39歳)では、「子ども(未婚)」が72.7%と最も高く、次いで「孫」9.1%、「本人」及び「子ども(既婚)」が6.1%であった。

●中高年層(40歳～64歳)では、「子ども(未婚)」が38.6%と最も高く、次いで「本人」19.3%、「兄弟姉妹」12.3%であった。

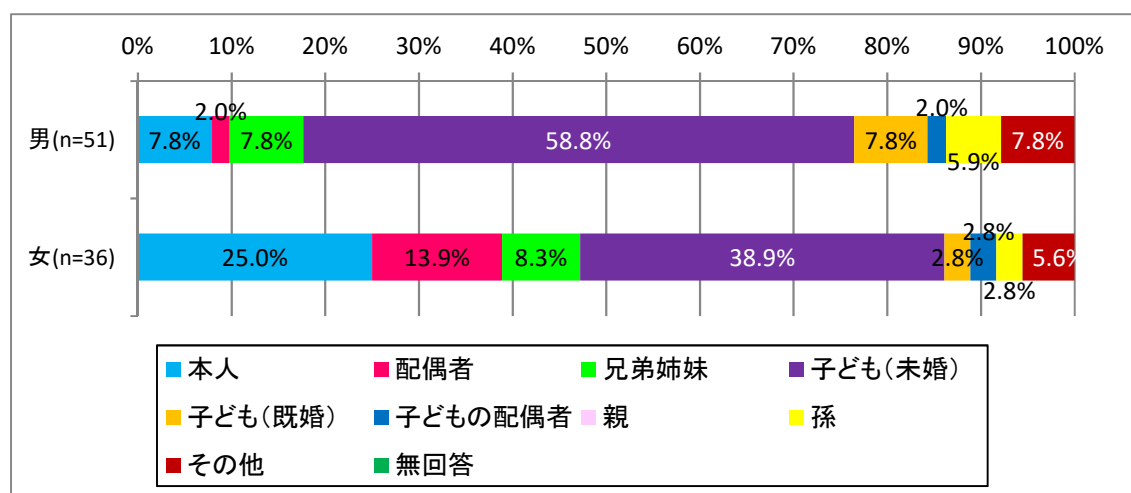


【図72】該当者の続柄(年齢層別)

●男女とも「子ども(未婚)」が一番多く、男性では58.8%、女性では38.9%であった。

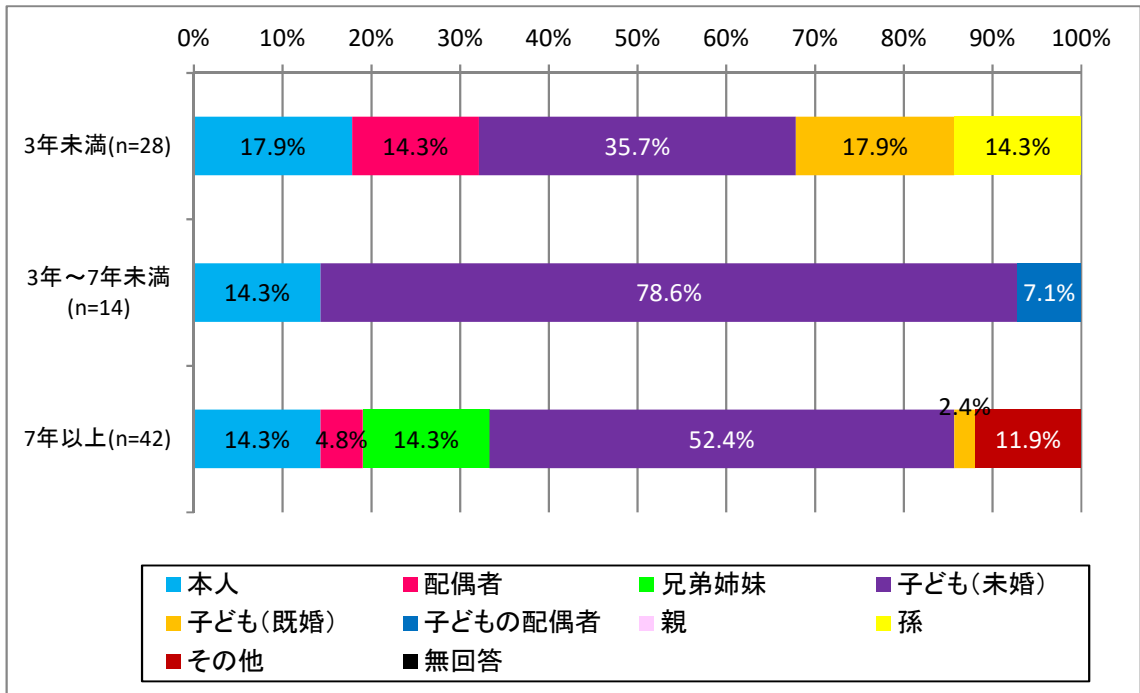
●男性では、「本人」、「兄弟姉妹」、「子ども(既婚)」がそれぞれ7.8%であった。

●女性では、「本人」25.0%、「配偶者」13.9%であった。



【図73】該当者の続柄(男女別)

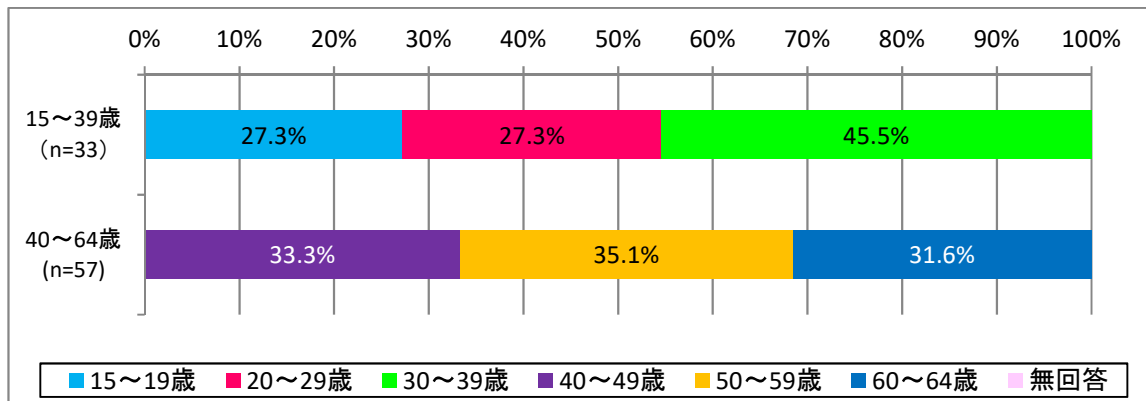
- いずれの期間においても、「子ども(未婚)」が最も高くなっていた。
- 3年未満では、「本人」、「子ども(既婚)」がそれぞれ17.9%であった。
- 3年～7年未満では、「本人」14.3%、「子どもの配偶者」7.1%であった。
- 7年以上では、「本人」、「兄弟姉妹」がそれぞれ14.3%であった。



【図74】該当者の続柄(ひきこもり状態の期間別)

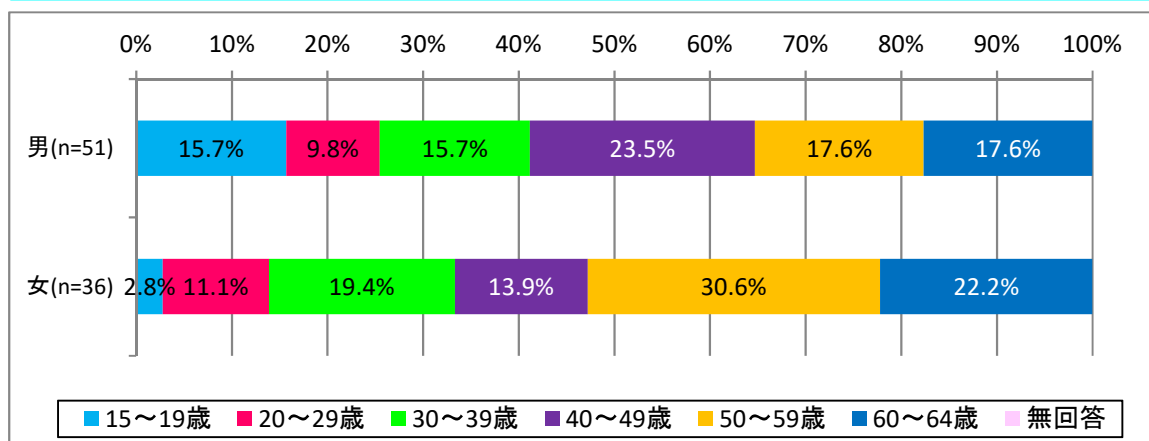
問10 その方の年齢をお答えください。(○は一つだけ)

●若年層(15～39歳)は、「30～39歳」が45.5%と最も高く、「15～19歳」、「20～29歳」がそれぞれ27.3%であった。
 ●中高年層(40歳～64歳)では、「50～59歳」が35.1%と最も高く、次いで「40～49歳」が33.3%、「60～64歳」が31.6%であった。



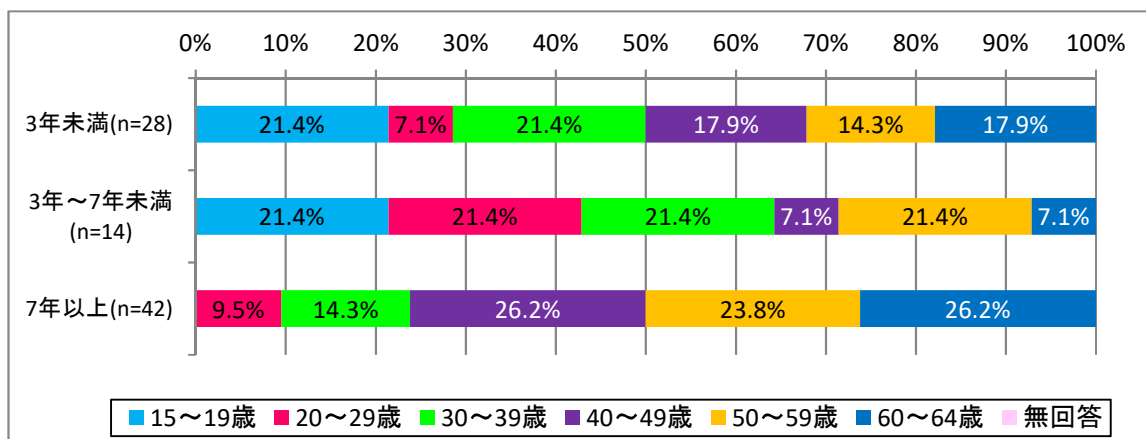
【図75】該当者の年齢(年齢層別)

●男性では、「40～49歳」が23.5%と最も高く、次いで「50～59歳」、「60～64歳」がそれぞれ17.6%であった。
 ●女性では、「50～59歳」が30.6%と最も高く、次いで「60～64歳」22.2%、「30～39歳」19.4%であった。



【図76】該当者の年齢(男女別)

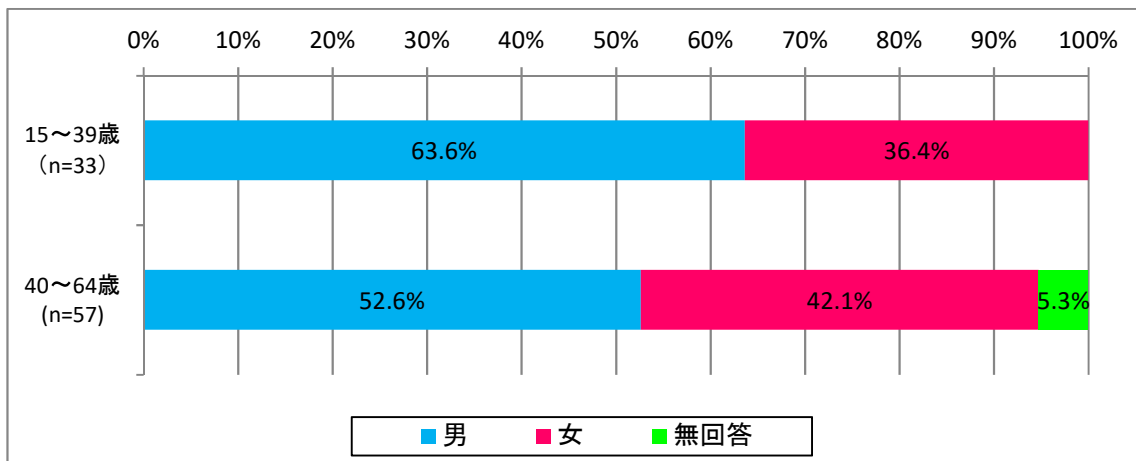
●3年未満では、「15～19歳」、「30～39歳」がそれぞれ21.4%であった。
 ●3年～7年未満では、「15～19歳」、「20～29歳」、「30～39歳」、「50～59歳」がそれぞれ21.4%であった。
 ●7年以上では、「40～49歳」、「60～64歳」がそれぞれ26.2%であった。



【図77】該当者の年齢(ひきこもり状態の期間別)

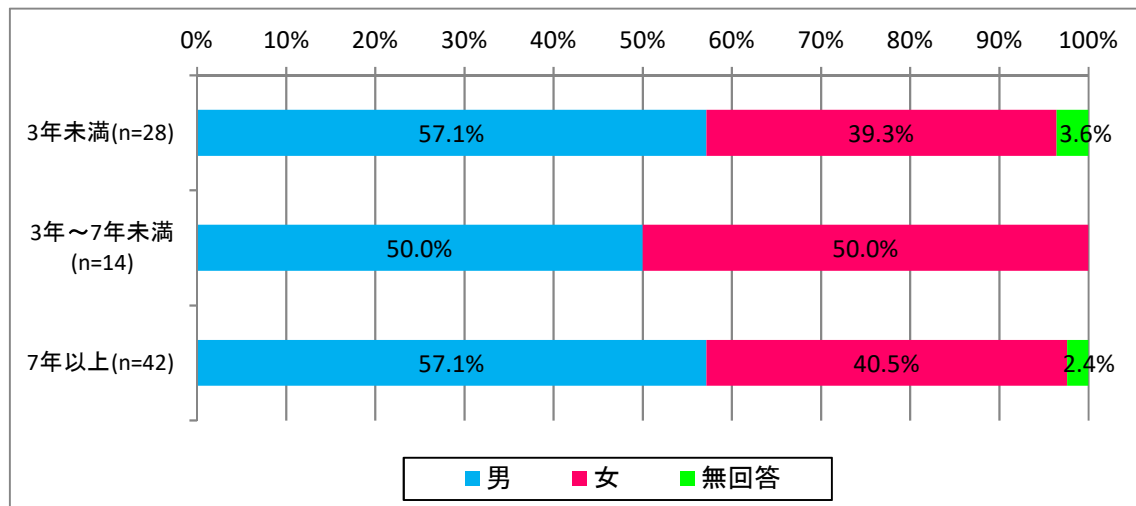
問11 その方の性別をお答えください。(○は一つだけ)

- 男性が若年層(15～39歳)で63.6%、中高年層(40～64歳)で52.6%であった。
- 中高年層において、女性の占める割合が42.1%で、若年層の36.4%を上回った。



【図78】該当者の性別(年齢層別)

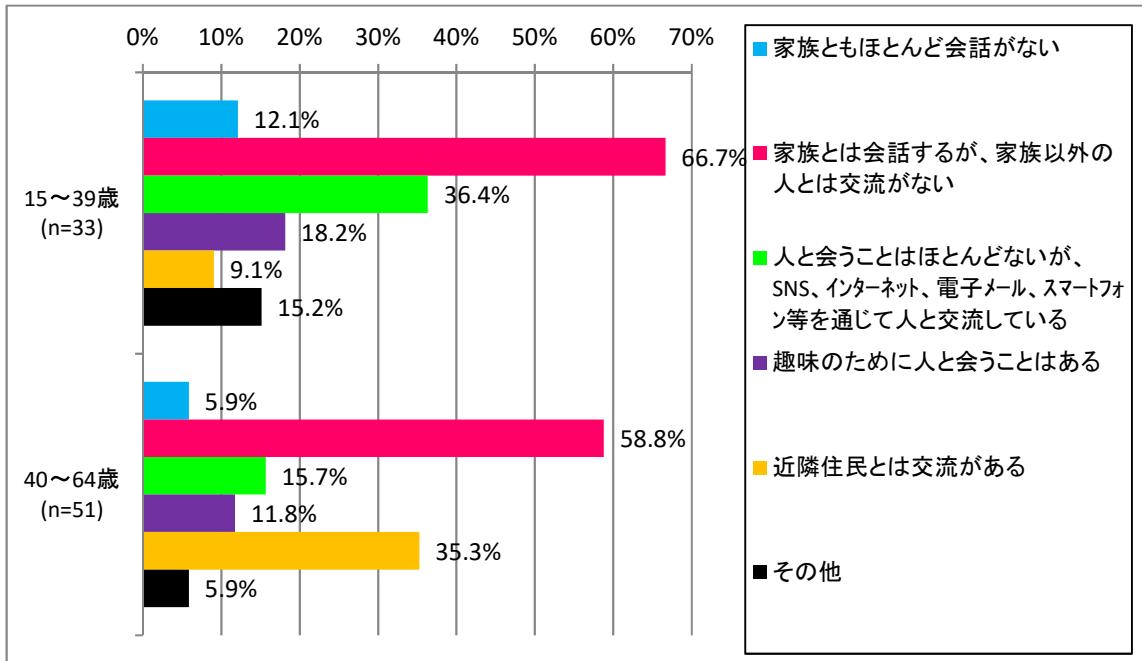
- 3年～7年未満では、男女割合が50.0%ずつとなっているが、他の期間では、いずれも「男性」が57.1%となり、「女性」を上回った。



【図79】該当者の性別(ひきこもり状態の期間別)

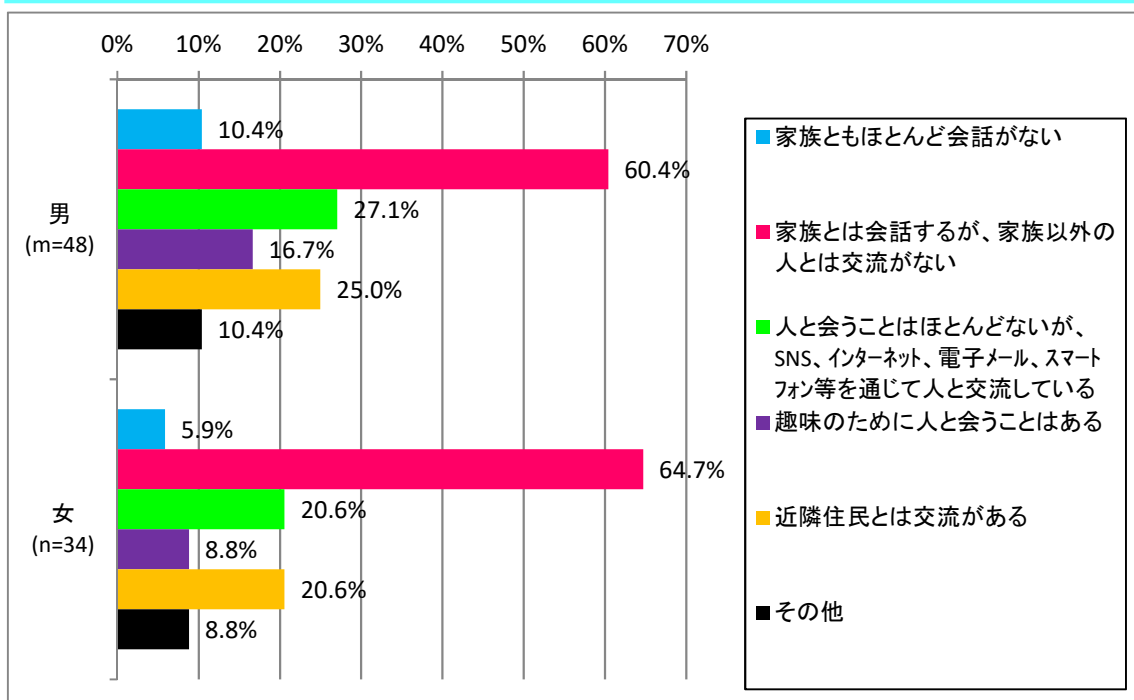
問12 その方の交流の状況について、お答えください。(〇はいくつでも)

- 若年層(15～39歳)、中高年層(40～64歳)ともに、「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」がそれぞれ66.7%、58.8%と割合が最も高かった。
- 「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」と回答した割合は、若年層36.4%と、中高年層15.7%よりも約2倍高かった。
- 「近隣住民とは交流がある」は、若年層9.1%に対し、中高年層35.3%と高かった。



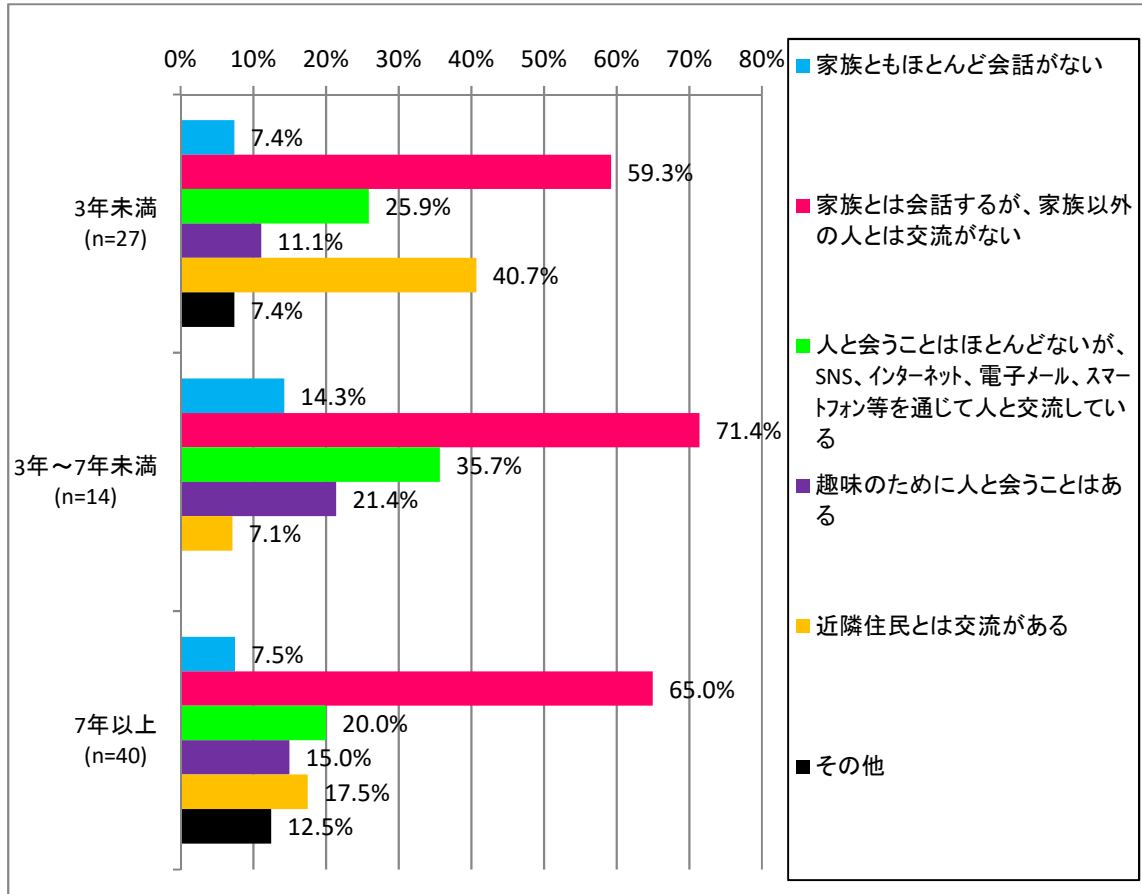
【図80】該当者の交流状況(年齢層別)

- 男女ともに「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」が6割を超えていた。
- 「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」と回答した割合は、男性27.1%、女性20.6%であった。
- 「近隣住民とは交流がある」と回答した割合は、男性25.0%、女性20.6%であった。



【図81】該当者の交流状況(男女別)

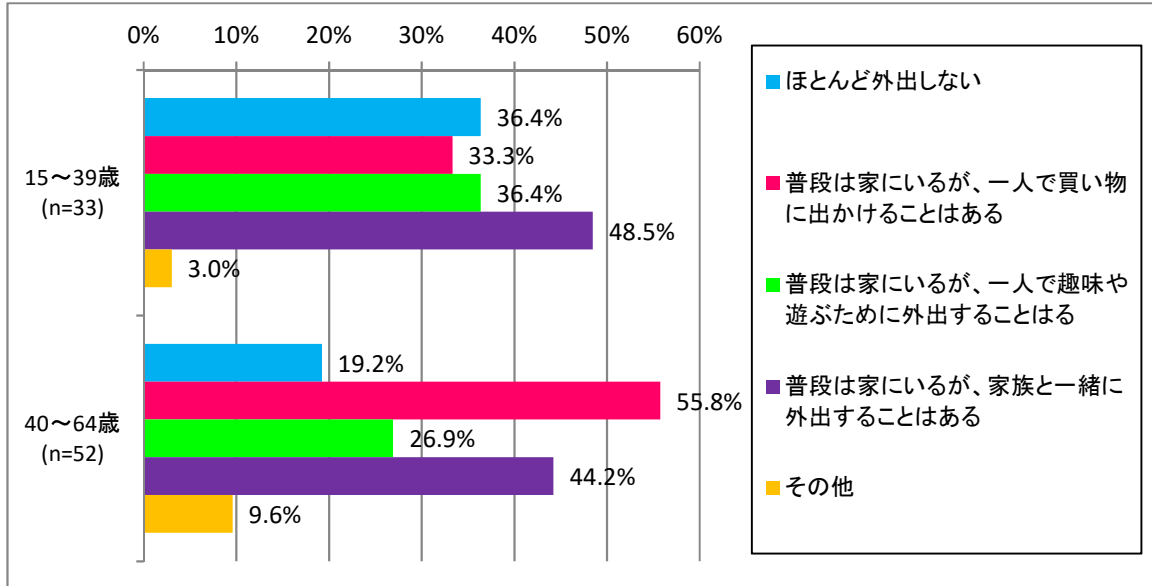
- いずれの期間においても、「家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない」が最も高くなっていた。
- 3年未満では、「近隣住民とは交流がある」40.7%、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」25.9%であった。
- 3年～7年未満では、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」35.7%、「趣味のために人と会うことはある」21.4%であった。
- 7年以上では、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している」20.0%、「近隣住民とは交流がある」17.5%であった。



【図82】該当者の交流状況(ひきこもり状態の期間別)

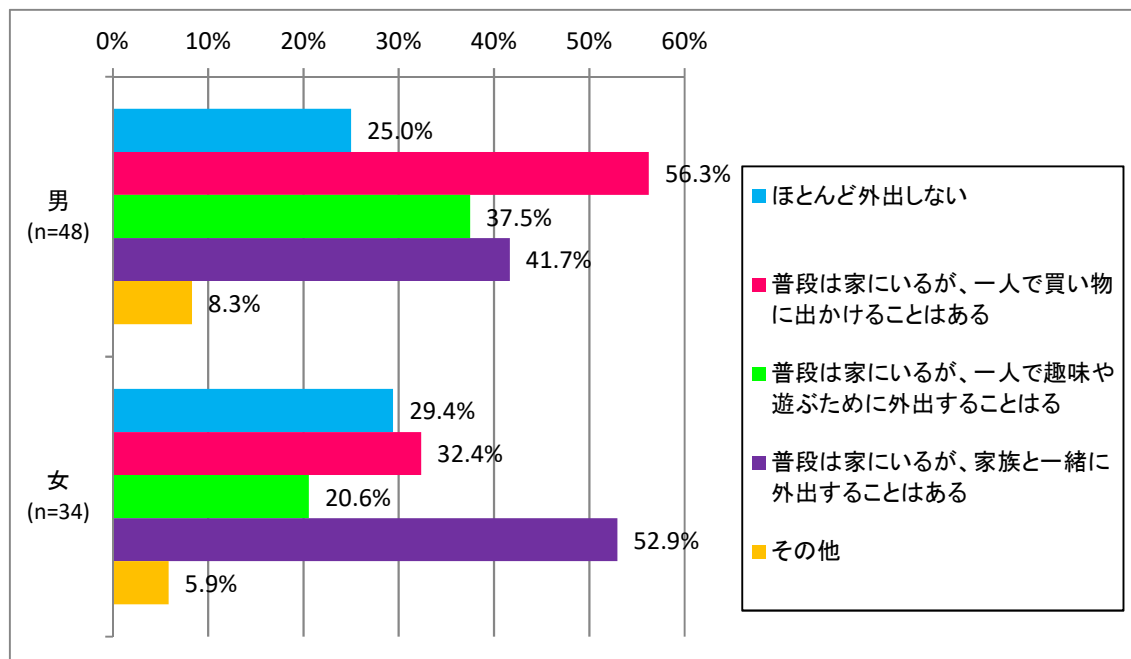
問13 その方の外出の状況について、お答えください。(〇はいくつでも)

- 「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」と回答した割合は、若年層33.3%に対し、中高年層が55.8%と高かった。
- 若年層(15～39歳)では、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」が48.5%と最も高かった。
- 「ほとんど外出しない」と回答した割合は、若年層が36.4%と、中高年層19.2%よりも高かった。



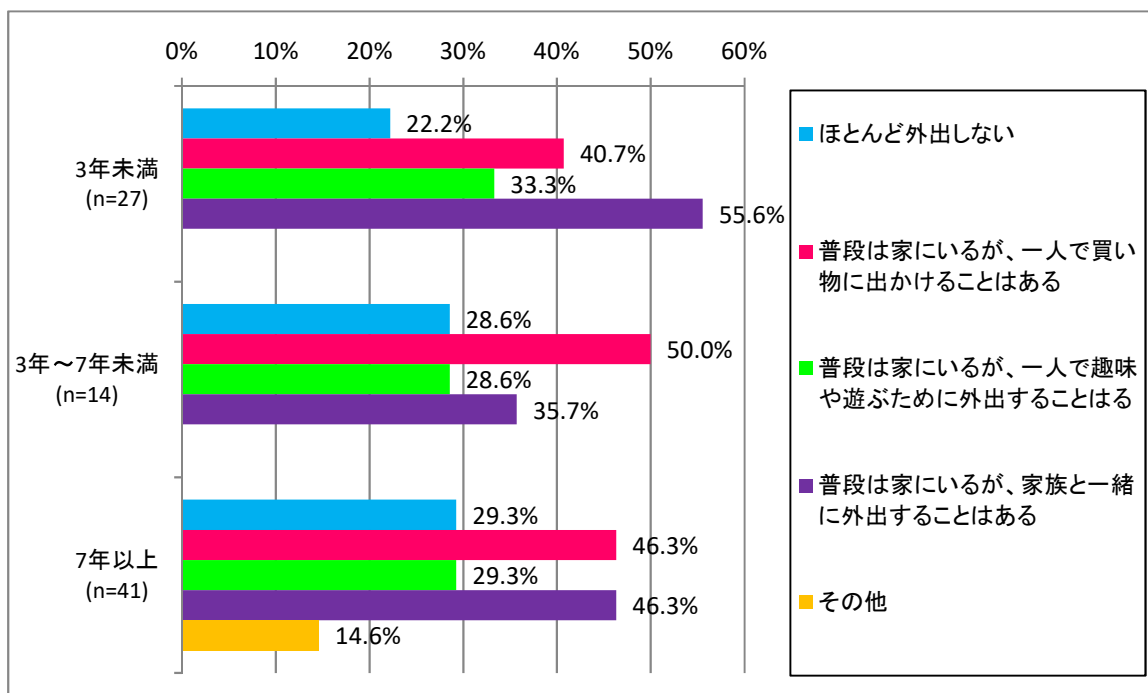
【図83】該当者の外出状況(年齢層別)

- 男性は「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」が56.3%と最も高く、女性32.4%よりも高かった。
- 女性は「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」が52.9%と最も高く、男性は41.7%であった。
- 「普段は家にいるが、一人で趣味や遊ぶために外出することはある」は、男性37.5%と、女性20.6%よりも高かった。



【図84】該当者の外出状況(男女別)

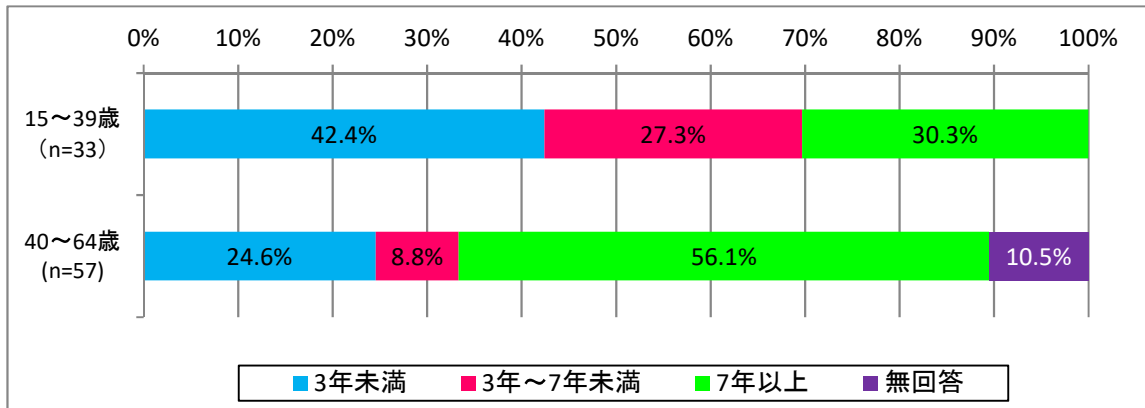
●3年未満では、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」が55.6%と最も高く、次いで「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」40.7%であった。
 ●3年～7年未満では、「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」が50.0%と最も高く、次いで「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」35.7%であった。
 ●7年以上では、「普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある」、「普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある」がそれぞれ46.3%であった。



【図85】該当者の外出状況(ひきこもり状態の期間別)

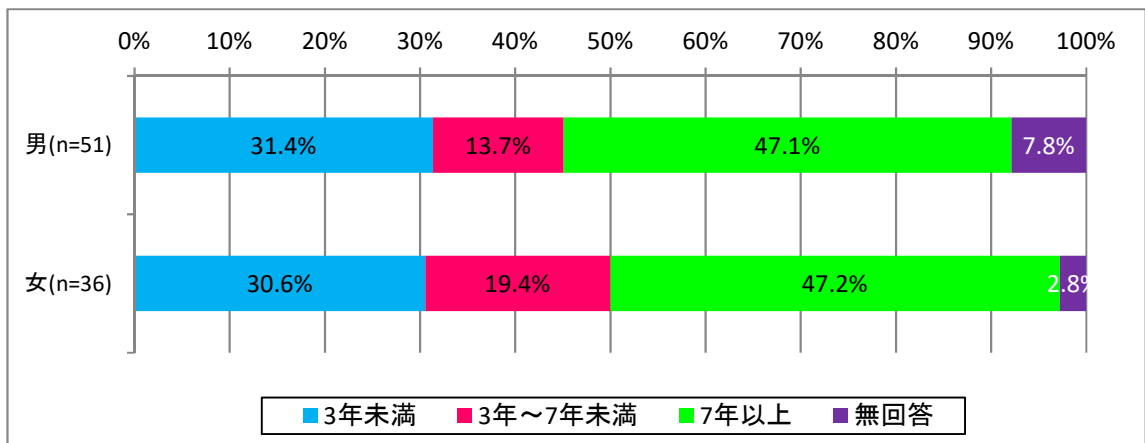
問14 その方が現在の状況になって、どのくらい経ちますか。(○は一つだけ)

- 若年層(15～39歳)では、「3年未満」が42.4%と最も高く、次いで「7年以上」30.3%、「3年～7年未満」27.3%であった。
- 中高年層(40～64歳)では、「7年以上」が56.1%と最も高く、次いで「3年未満」24.6%、「3年～7年未満」8.8%であった。



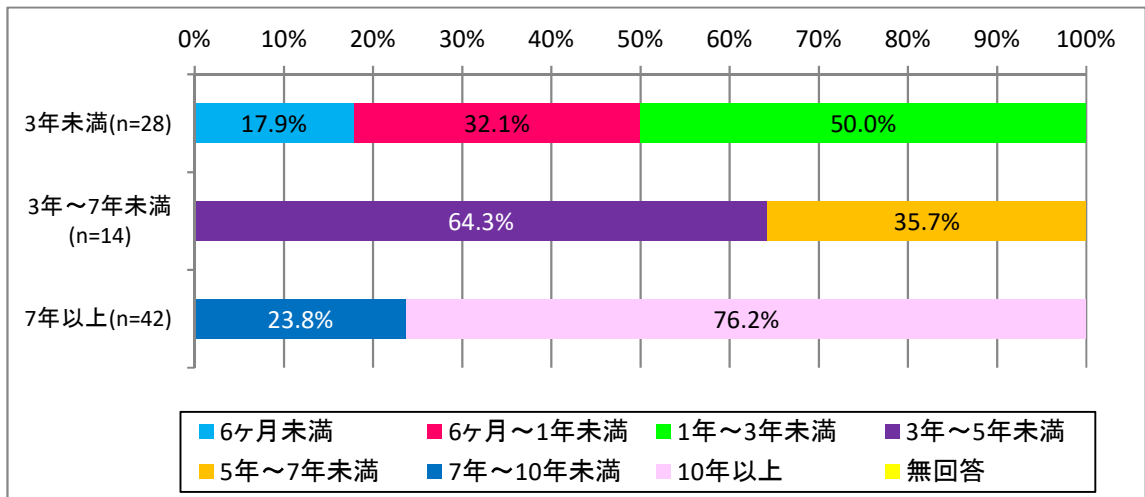
【図86】現在の状況になってからの期間(年齢層別)

- 男女ともに「7年以上」が最も高く(男性47.1%、女性47.2%)、次いで「3年未満」(男性31.4%、女性30.6%)、「3年～7年未満」(男性13.7%、女性19.4%)であった。



【図87】現在の状況になってからの期間(男女別)

- 3年未満では、「6ヶ月未満」17.9%、「6ヶ月～1年未満」32.1%、「1年～3年未満」50.0%であった。
- 3年～7年未満では、「3年～5年未満」64.3%、「5年～7年未満」35.7%であった。
- 7年以上では、「7年～10年未満」23.8%、「10年以上」76.2%であった。

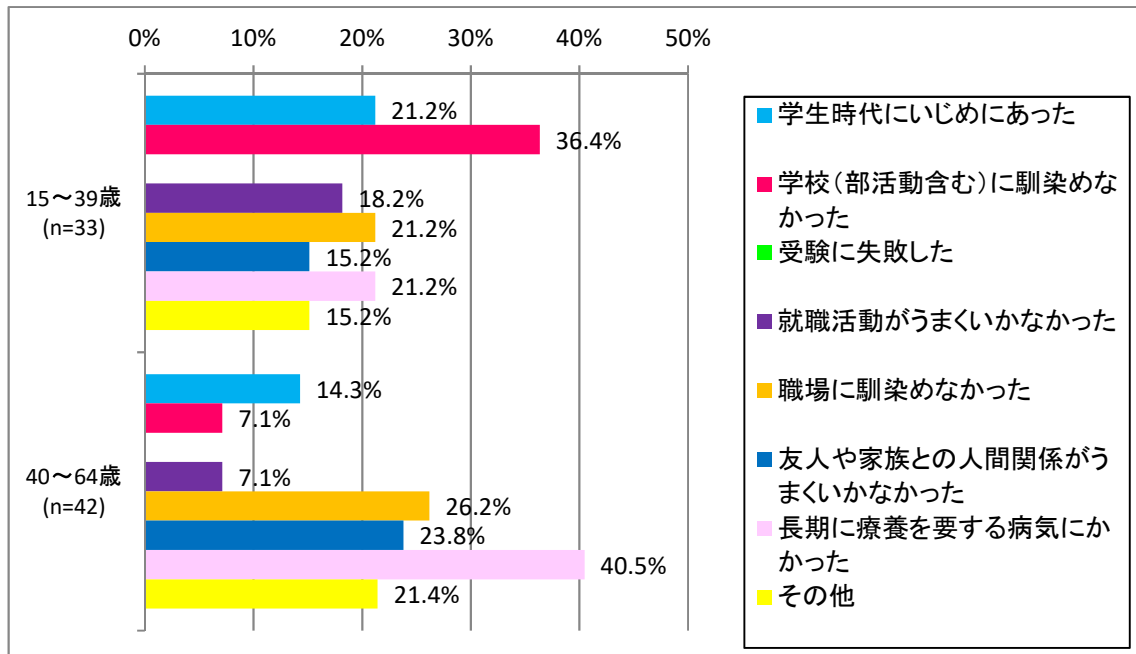


【図88】現在の状況になってからの期間(ひきこもり状態の期間別)

問15 その方が現在の状態に至ったきっかけについてお答えください。(〇はいくつでも)

●若年層(15～39歳)では、「学校(部活動含む)に馴染めなかった」が36.4%と最も高く、次いで「学生時代にいじめにあった」、「職場に馴染めなかった」、「長期に療養を要する病気にかかった」がそれぞれ21.2%であった。

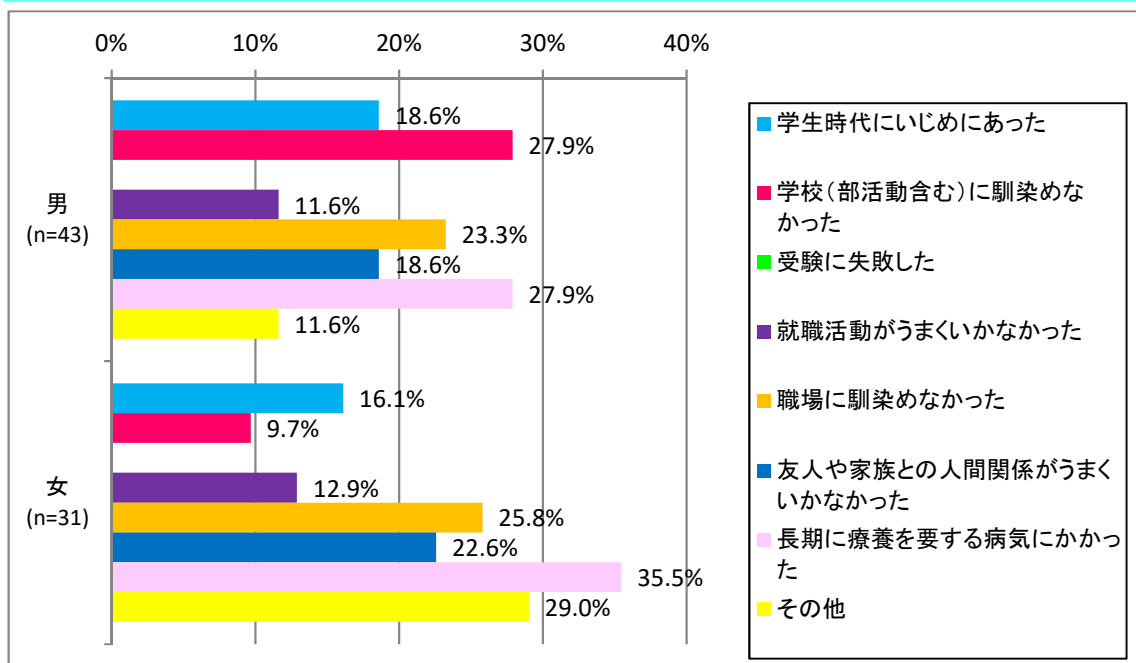
●中高年層(40～64歳)では、「長期に療養を要する病気にかかった」が40.5%と最も高く、次いで「職場に馴染めなかった」26.2%、「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」23.8%であった。



【図89】現在の状態に至ったきっかけ(年齢層別)

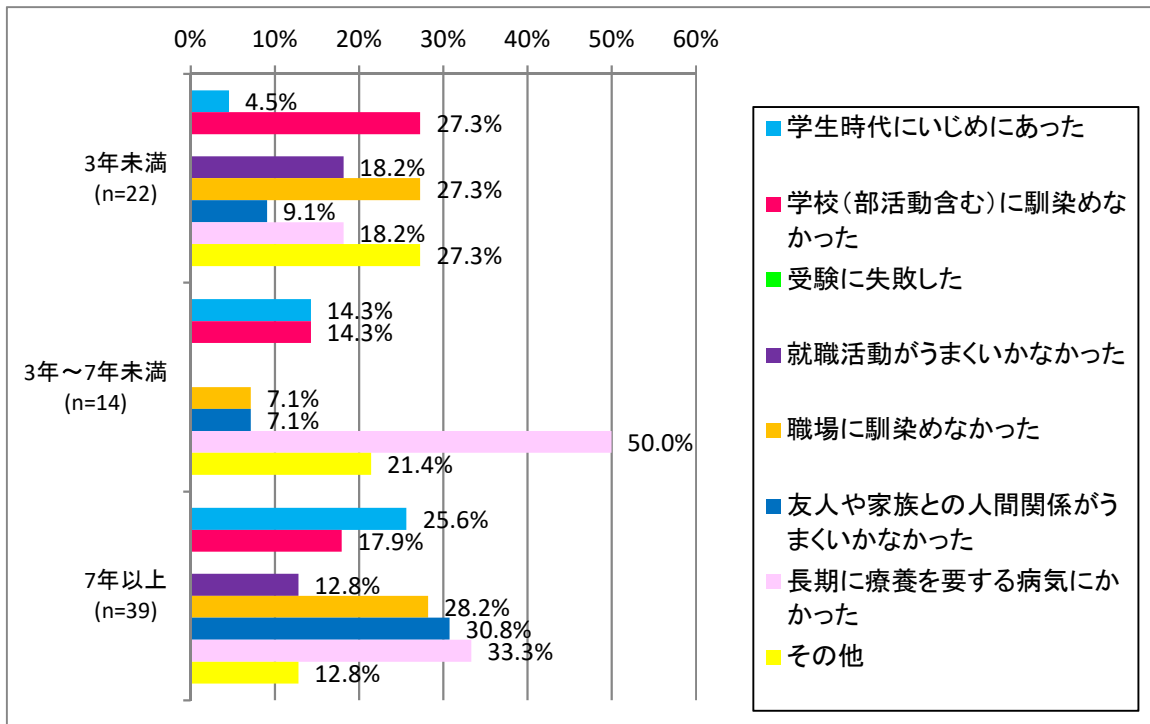
●男性では、「学校(部活動含む)に馴染めなかった」、「長期に療養を要する病気にかかった職場に馴染めなかった」がそれぞれ27.9%と最も高く、次いで「職場に馴染めなかった」が23.3%であった。

●女性では、「長期に療養を要する病気にかかった」が35.5%と最も高く、次いで「職場に馴染めなかった」25.8%、「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」22.6%であった。



【図90】現在の状態に至ったきっかけ(男女別)

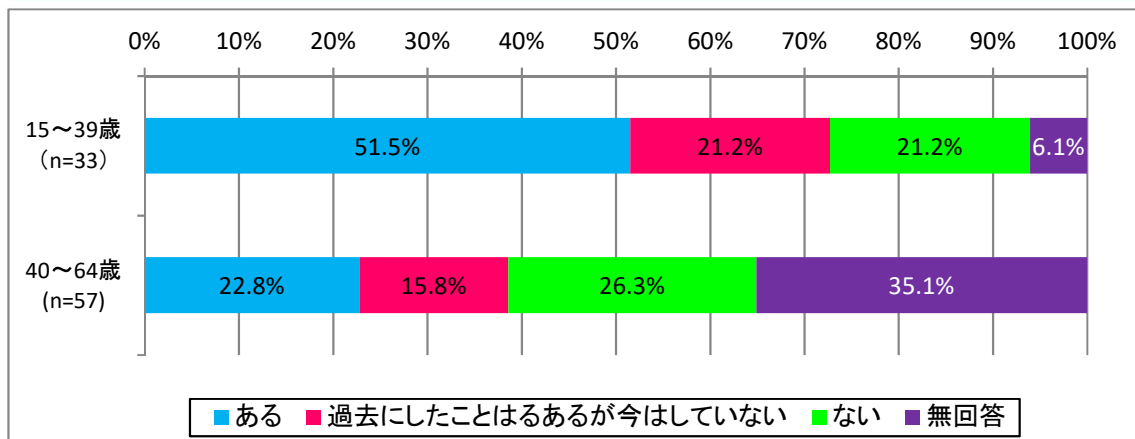
- 3年未満では、「学校(部活動含む)に馴染めなかった」、「職場に馴染めなかった」がそれぞれ27.3%と最も高かった。
- 3年～7年未満では、「長期に療養を要する病気にかかった」が50.0%と、他の期間と比べても一番高かった。
- 7年以上では、「長期に療養を要する病気にかかった」が33.3%と最も高く、次いで「友人や家族との人間関係がうまくいかなかった」30.8%、「職場に馴染めなかった」28.2%であった。



【図91】現在の状態に至ったきっかけ(ひきこもり状態の期間別)

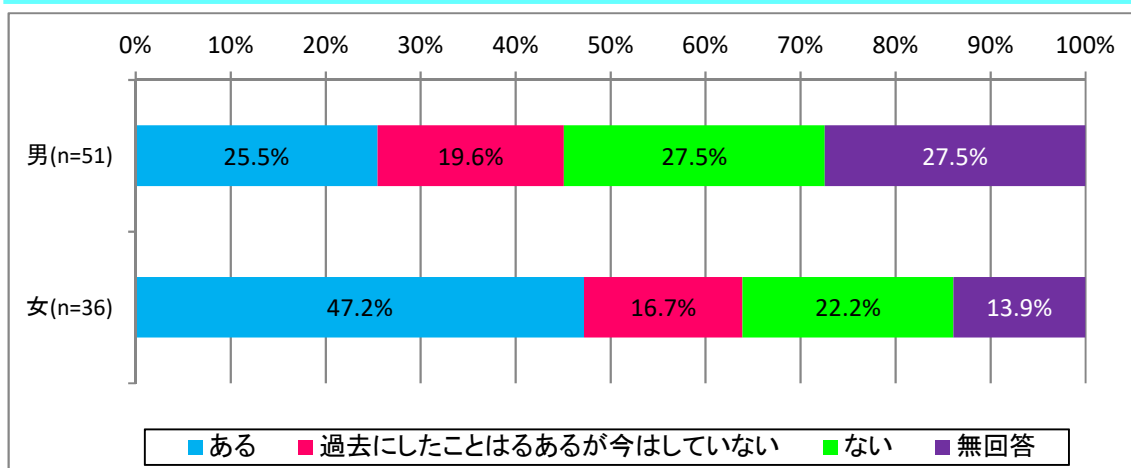
問16 その方の現在の状態について、どなたかに相談したことはありますか。(○は一つだけ)

●「ある」と回答した割合は、若年層(15～39歳)51.5%に対し、中高年層(40～64歳)は22.8%と30ポイント近く低かった。



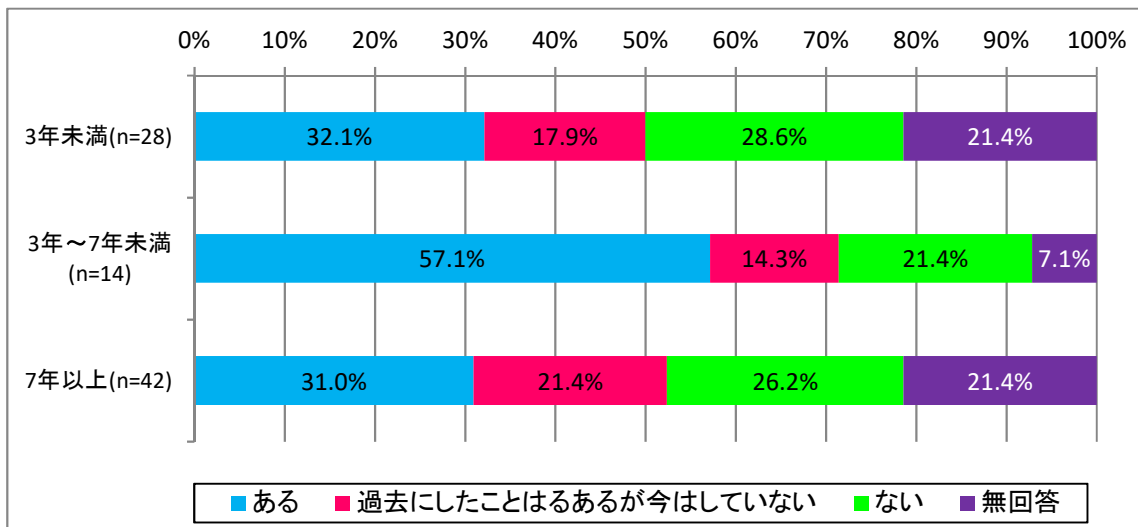
【図92】現在の状態についての相談経験の有無(年齢層別)

●「ある」と回答した割合は、男性25.5%で、女性47.2%に対して20ポイント以上低かった。



【図93】現在の状態についての相談経験の有無(男女別)

●「ある」と回答した割合は、「3年～7年未満」が57.1%と最も多く、「3年未満」では32.1%、「7年以上」では31.0%であった。



【図94】現在の状態についての相談経験の有無(ひきこもり状態の期間別)

★以下の問16-1は、上記問16で「ある」又は「過去にしたことはあるが今はしていない」と回答した世帯が対象。

問16-1 相談した相手や、相談して感じたことをご自由にお書きください。

【相談した相手(※回答の一部を抜粋)】

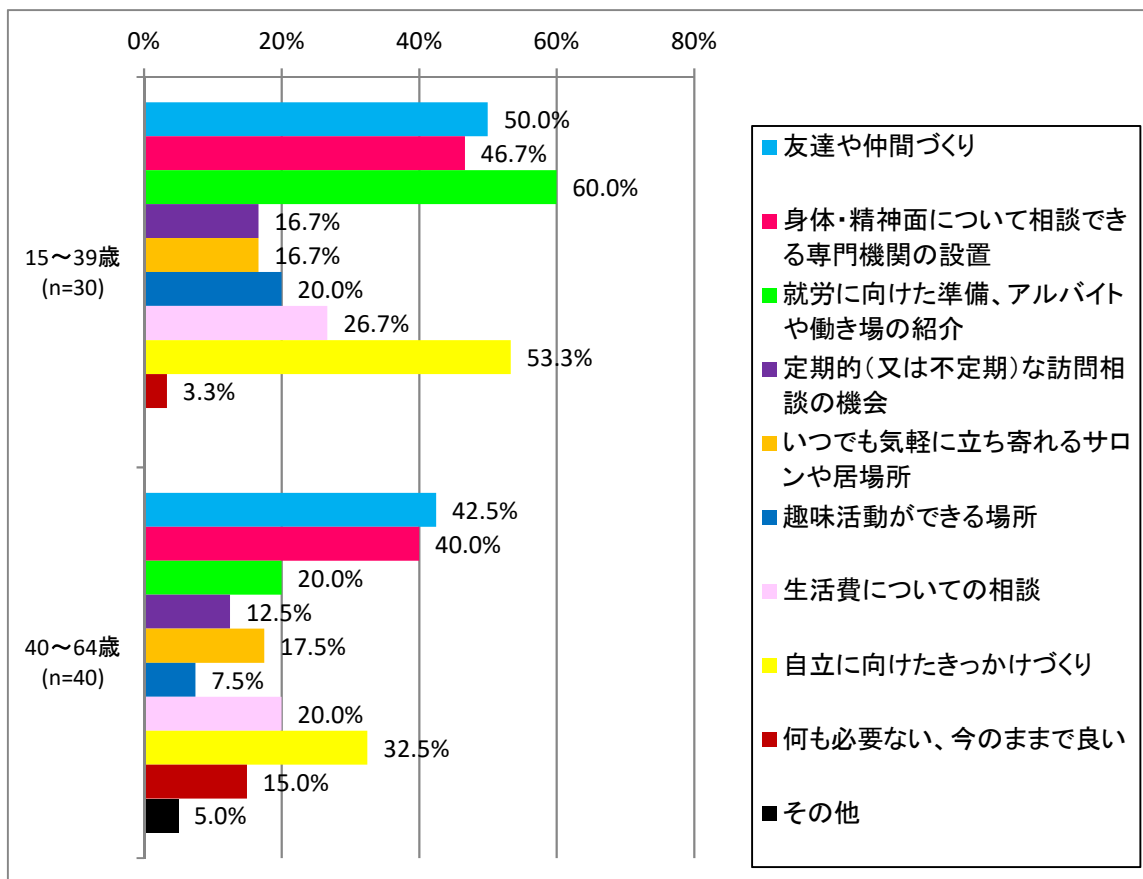
- 役場(保健師、福祉保健課など)
- 社会福祉協議会
- 医療機関
- 学校
- 家族、親族
- ひきこもり親の会

【相談して感じたこと(※回答の一部を抜粋)】

- 最終的には、本人の気持ち次第。
- 一時的にラクにはなる。
- 以前よりも生活することが楽しくなった。相談してよかった。
- 障害者・精神障害者と相談できる専門機関の設置。
- 理解してくれる人ができたことで安心できた。
- 重症な人にはあまり適切な支援がない。
- 本人が外出・社交を楽しみと感じないので、今のままで良しと考えています。
- 相談してどうしたら良いかヒントをもらった。
- 現在、顔見知りの役場職員がまだ数名いるが、だんだんと若い世代の職員になると相談しにくくなるのではと不安がある。

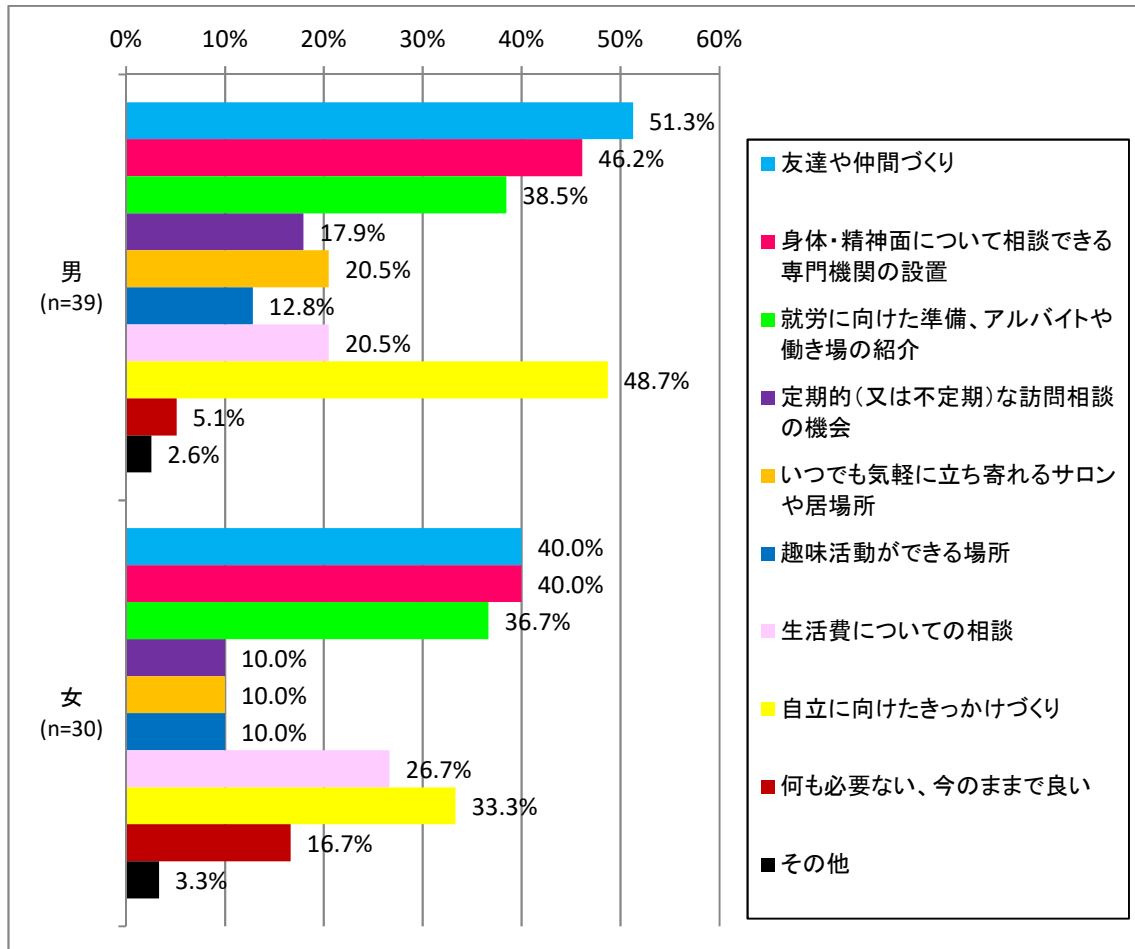
問17 その方にとって、これから必要と思われることはありますか。(〇はいくつでも)

●若年層(15～39歳)では、「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」が60.0%と最も高く、次いで「自立に向けたきっかけづくり」が53.3%、「友達や仲間づくり」が50.0%であった。
 ●中高年層(40～64歳)では、「友だちや仲間づくり」が42.5%と最も高く、次いで「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」が40.0%、「自立に向けたきっかけづくり」が32.5%であった。
 ●なお、「何も必要ない、今のままで良い」と回答した割合は、若年層3.3%に対し、中高年層は15.0%と高かった。



【図95】該当者にとって今後必要と思われること(年齢層別)

●男性では、「友だちや仲間づくり」が51.3%と最も高く、次いで「自立に向けたきっかけづくり」48.7%、「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」46.2%であった。
 ●女性では、「友だちや仲間づくり」、「身体・精神面について相談できる専門機関の設置」がそれぞれ40.0%と最も高く、次いで「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」36.7%、「自立に向けたきっかけづくり」33.3%であった。
 ●なお、「何も必要ない、今のままで良い」と回答した割合は、男性5.1%に対し、女性16.7%であった。

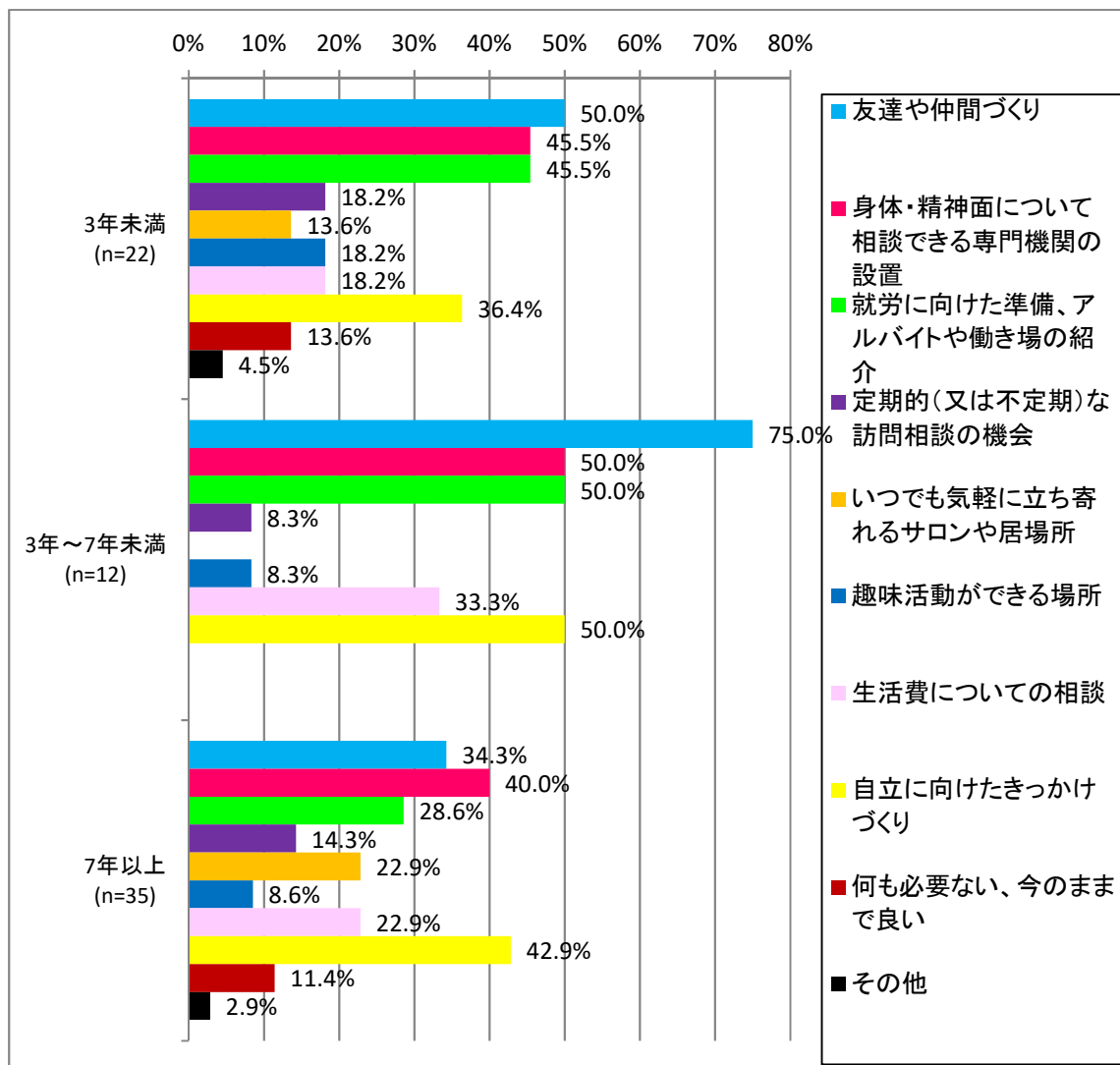


【図96】該当者にとって今後必要と思われること(男女別)

●3年未満では、「友達や仲間づくり」が50.0%と最も高く、次いで「身体・精神面について相談できる相談機関の設置」、「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」がそれぞれ45.5%であった。

●3年～7年未満では、「友達や仲間づくり」が75.0%と最も高く、次いで「身体・精神面について相談できる相談機関の設置」、「就労に向けた準備、アルバイトや働き場の紹介」、「自立に向けたきっかけづくり」がそれぞれ50.0%であった。

●7年以上では、「自立に向けたきっかけづくり」が42.9%と最も高く、次いで「身体・精神面について相談できる相談機関の設置」40.0%、「友達や仲間づくり」34.3%であった。



【図97】該当者にとって今後必要と思われること(ひきこもり状態の期間別)

調査票



津南町民の日常生活のお困りごとに関する調査票

50万本のひまわりのような、津南町民の明るく楽しい暮らしづくりのために
皆さまのお力を貸してください

★問1～問8はすべての方がお答えください。(世帯のうち1名の方が代表してご記入ください。)

問1 あなたの性別を教えてください。(〇は一つだけ)

- ①男 ②女

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。(〇は一つだけ)

- ①15歳～19歳 ②20歳～29歳 ③30歳～39歳 ④40歳～49歳
⑤50歳～59歳 ⑥60歳～69歳 ⑦70歳～79歳 ⑧80歳～89歳
⑨90歳以上

問3 あなたは現在どなたと住んでおられますか。(〇はいくつでも)

- ①一人暮らし ②配偶者 ③子ども(既婚) ④子どもの配偶者
⑤子ども(未婚) ⑥孫 ⑦本人ないし配偶者の親 ⑧兄弟姉妹
⑨その他(具体的に:)

問4 あなたが日常生活において不安に思っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

- ①収入 ②自分の健康や病気 ③家族の健康や病気 ④生きがい ⑤就労
⑥自然災害 ⑦犯罪 ⑧買い物 ⑨ゴミ出し ⑩掃除・洗濯
⑪移動手段の確保 ⑫除雪 ⑬子育て ⑭その他(具体的に:)

問5 あなたは日常生活の心配ごとや悩みごとの相談を誰にしますか。(〇はいくつでも)

- ①親 ②配偶者 ③ご自身の子ども ④兄弟姉妹 ⑤その他親戚
⑥友人・知人 ⑦近所の人 ⑧職場の同僚・上司 ⑨集落代表者
⑩役場の人 ⑪民生委員・児童委員 ⑫相談する相手がない
⑬その他(具体的に:)

問6 あなたの近所の方との付き合いの状況についてお聞きします。(〇はいくつでも)

- ①常に訪問し合う人がいる ②困った時に気軽に相談できる人がいる
③あいさつを交わす程度 ④付き合いがない
⑤その他(具体的に: _____)

問7 あなたはお住まいの地域で行っている地域活動(地域の祭りや町内の清掃活動など)に参加していますか。(〇は一つだけ)

- ①参加している ②過去に参加していたが、今は参加していない
③参加したことがない ④その他(具体的に: _____)

問8 あなたのご家庭の中に(回答者自身を含めて)、仕事や学校に行かず、家族以外のひととの交流をほとんどしない方はいらっしゃいますか。(〇は一つだけ)
いらっしゃる場合はその人数もご記入ください。

- ①いる(_____ 人) ②いない

「①いる」に〇を付けた方は**問9**へお進みください。
なお、該当者が2人以上いらっしゃる場合は、そのうち年齢の一番低い方についてお答えください。

「②いない」に〇を付けた方は**問18**へお進みください。

問9 あなたとの続柄をお答えください。(〇は一つだけ)

- ①本人 ②配偶者 ③兄弟姉妹 ④子ども(未婚) ⑤子ども(既婚)
⑥子どもの配偶者 ⑦本人ないし配偶者の親 ⑧孫
⑨その他(具体的に: _____)

問10 その方の年齢をお答えください。(〇は一つだけ)

- ①~14歳 ②15~19歳 ③20~29歳 ④30~39歳
⑤40~49歳 ⑥50~59歳 ⑦60~64歳
⑧65~69歳 ⑨70~74歳 ⑩75歳以上

問11 その方の性別をお答えください。(〇は一つだけ)

- ①男 ②女

問 12 その方の交流の状況について、お答えください。(〇はいくつでも)

- ①家族ともほとんど会話がな
- ②家族とは会話するが、家族以外の人とは交流がない
- ③人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット、電子メール、スマートフォン等を通じて人と交流している
- ④趣味のために人と会うことはある
- ⑤近隣住民とは交流がある
- ⑥その他(具体的に：)

問 13 その方の外出の状況について、お答えください。(〇はいくつでも)

- ①ほとんど外出しない
- ②普段は家にいるが、一人で買い物に出かけることはある
- ③普段は家にいるが、一人で趣味や遊ぶために外出することはある
- ④普段は家にいるが、家族と一緒に外出することはある
- ⑤その他(具体的に：)

問 14 その方が現在の状況になって、どのくらい経ちますか。(〇は一つだけ)

- ①6ヶ月未満
- ②6ヶ月～1年未満
- ③1年～3年未満
- ④3年～5年未満
- ⑤5年～7年未満
- ⑥7年～10年未満
- ⑦10年以上

問 15 その方が現在の状態に至ったきっかけについてお答えください。(〇はいくつでも)

- ①学生時代にいじめにあった
- ②学校(部活動含む)に馴染めなかった
- ③受験に失敗した
- ④就職活動がうまくいかなかった
- ⑤職場に馴染めなかった
- ⑥友人や家族との人間関係がうまくいかなかった
- ⑦事故や加齢などにより要介護状態になった
- ⑧長期に療養を要する病気にかかった
- ⑨その他(具体的に：)

**新たな社会課題の解決に向けた具体的取組の研究・協議に関する
ワーキングチーム 構成メンバー**

【委員】

	氏名	所属・役職	備考
座長	李 在億	新潟青陵大学福祉心理学部社会福祉学科 准教授	分析担当
委員	斎藤 まさ子	新潟青陵大学看護学部看護学科 教授	
	小澤 薫	新潟県立大学人間生活学部子ども学科 准教授	集計担当 分析担当
	三膳 克弥	特定非営利活動法人KHJにいがた秋桜の会 理事長	
	本間 直美	新潟県福祉保健部障害福祉課いのちとこころの支援室 政策企画員	
	小田 恵	新潟県パーソナル・サポート・センター センター長	
	樋口 将洋	津南町福祉保健課福祉班 班長	
	瀧澤 章子	津南町福祉保健課健康班 保健師長	
	石沢 好美	社会福祉法人津南町社会福祉協議会 主事	

【オブザーバー】

一般財団法人新潟県民生委員児童委員協議会

新潟県福祉保健部福祉保健課企画調整室

【事務局】

社会福祉法人新潟県社会福祉協議会 地域福祉課



津南町民の日常生活のお困りごとに関する調査
結果報告書

発行 令和元年12月
発行者 社会福祉法人新潟県社会福祉協議会
(新たな社会課題の解決に向けた具体的取組の研究・協議に関するワーキングチーム)

事務局:社会福祉法人新潟県社会福祉協議会 地域福祉課
〒950-8575 新潟県新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階
TEL 025-281-5521 FAX 025-285-0303